

2022年度

シラバス

看護学研究科

[博士前期課程]

- ・ 研究者養成コース
- ・ 高度実践者養成コース（助産学領域）
- ・ 高度実践者養成コース 診療看護師（NP）
プライマリ・ケア領域

[博士後期課程]



島根県立大学
出雲キャンパス

目 次

目次 学年暦

I. 学年別スケジュール

博士前期課程	
・ M1 生用	1
・ M2 生用	2
博士後期課程	
・ D1 生用	3
・ D2 生用	4
・ D3 生用	5

II. 開講授業科目・修了要件・時間割

博士前期課程	
・ 研究者養成コース	7
・ 高度実践者養成コース 助産学領域	8
・ 高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域	9
博士後期課程	10

III. 授業科目の概要・シラバス

博士前期課程	
・ 研究者養成コース	11
・ 高度実践者養成コース 助産学領域	43
・ 高度実践者養成コース 診療看護師（NP）プライマリ・ケア領域	71
博士後期課程	111

IV. 教職員名簿

V. オフィスアワー

VI. フィールドワークの手引き

2022 (令和4) 年度 看護学研究科学年曆

	(月)		(火)		(水)		(木)		(金)		(土)		(日)	
	M	D	M	D	M	D	M	D	M	D	M	D	M	D
4月	28		29	30	31		1		2		3			
		入学式 和エンターシャ、履修登録、交流会	5	6	7		8		9		10			
	11		12	13		14		15		16				
	18		19	20		21		22		23				
	25		26	27		28		29		30				
5月	2		3	4		5		6		7				
	9		10	11		12		13		14				
	16		17	18		19		20		21				
	23		24	25		26	AM 第9回看護研究セミナー	27		28				
	30		31	1		2		3		4				
6月	6		7	8		9		10		11				
	13		14	15		16		17		18				
	20		21	22		23		24		25				
	27		28	29		30		1		2				
7月	4		5	6		7		8		9				
	11		12	13		14		15		16				
	18		19	20		21		22		23				
	25		26	27		28		29		30				
8月	1		2	3		4		5		6				
	8		9	10		11		12		13				
	15		16	17		18		19		20				
	22		23	24		25		26		27				
	29		30	31				2		3				
9月	5		6	7		8		9		10				
	12		13	14		15		16		17				
	19		20	21		22		23		24				
	26		27	28		29		30		1				

10月	3	4	5	6	7	8	9
	不服申立心C~10/7日 成績開示	秋学期授業開始	研究科委員会	研究科委員会			
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31	1	2	3	4	5	6
11月	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	1	2	3	4
12月	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	1
1月	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31	1	2	3	4	5
2月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	1	2	3	4	5
3月	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31	1	2

※ 全ての振出/切時刻は12:00とする。

I. 学年別スケジュール

2022年度 看護学研究科博士前期課程学年別スケジュール

M1用

月	日	曜日	事項		研究指導内容と各種提出書類	備考
			研究者養成コース	高度実践者養成コース		
4		月	入学式 オリエンテーション、交流会、履修登録		履修登録	
4	5	火	研究テーマ届・指導教員希望届 提出締切 春学期授業開始		研究テーマ届(様式第M2号)・指導教員希望届(様式第M1号)	指導教員と相談して教務学生課まで提出すること(締切:4/5 12:00まで)
	20	水	健康診断			職場で受けている者はその提出に代えてよい
6	11・12	土・日	つわぶき祭			
	15	金	特別研究 合同検討会① (M2:研究計画、研究経過)		M2の発表を聴講し、研究の進め方をイメージする	
7	29	金	研究倫理審査についてオリエンテーション		研究者養成コースの学生は、オリエンテーション後、早めにeAPRIN受講する	研究計画書を研究倫理審査委員会へ申請する。(～2月)
8	7/31 ～8/1	日～月	しまねの健康と長寿フィールド学習		フィールド学習のテーマに沿って計画を立案・実施し、課題解決に向けた提案をまとめ、レポート提出する。	フィールドワークに出かけ、レポートを提出する
9	4	日	大学院看護学研究科A日程入試			入館制限の可能性あり
	3	月	春学期成績開示 不服申し立て～10月7日まで			
	4	火	秋学期授業開始			
10	14	金	特別研究 合同検討会② (M1:研究計画、M2:経過報告)		M1は、研究計画について発表し、他領域の学生・教員と意見交換する M2の研究経過報告を聴講し、研究の進め方をイメージする	
12	9	金	特別研究 合同検討会③ (M1:研究計画)		両コースのM1は研究計画について発表し、他領域の学生・教員と意見交換する	
	11	日	大学院看護学研究科B日程入試			入館制限の可能性あり
1	7	土	博士論文公开发表会		D3の博士論文公开发表聴講	M1・D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	14	土	修士論文公开发表会		M2の修士論文公开发表聴講	M1・D1・D2はM2の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
2	7	火	学位論文題目届(仮) 提出締切		特別研究 I で取り組んできた研究計画書作成を踏まえて、学位論文題目届(仮)を(様式第M3号)を提出する 高度実践者養成コースの学生も学位論文題目届(仮)を(様式第M3号)を提出する	12:00までに教務学生課へ提出
	13	月	大学院看護学研究科C日程入試			入館制限の可能性あり
3	9	木				学位授与式

2022年度 看護学研究科博士前期課程学年別スケジュール

M2用

月	日	曜日	事項		研究指導内容と各種提出書類	備考
			研究者養成コース	高度実践者養成コース		
	1	金	成績開示 不服申し立て～4月7日まで			
4	4	月	履修登録		履修登録の確認メールが教務学生課より届く (3月中旬～下旬)	入学式 履修登録は指導教員と相談して、特別研究以外に履修があれば4/5までにメールを返信すること
	5	火	春学期授業開始			
	20	水	健康診断			職場で受けている者はその提出に代えてよい
6	11・12	土・日	つわぶき祭			
7	15	金	特別研究 合同検討会① (M2:研究計画、研究経過)		M2は研究計画、研究経過を報告する	
9	4	日	大学院看護学研究科A日程入試			入館制限の可能性あり
10	3	月	春学期成績開示 不服申し立て～10月7日まで			
	4	火	秋学期授業開始			
	14	金	特別研究 合同検討会② (M1:研究計画、M2:経過報告)		M1の研究計画発表を聴講し、意見交換する M2は研究経過報告を報告し、他領域の学生・教員と意見交換する	
11	8	火	学位論文題目届(本)提出締切		特別研究・課題研究で取り組んできた修士論文作成を踏まえて、学位論文題目届(本)(様式第M3号)を提出する	12:00までに教務学生課へ提出
12	11	日	大学院看護学研究科B日程入試			入館制限の可能性あり
	9	金	特別研究 合同検討会③ (M1:研究計画)		M1の研究計画発表を聴講し、意見交換する	
1	5	木	修士論文提出締切	課題論文提出締切	以下を提出する (1) 学位論文審査申請書 1部(様式第M4号) (2) 修士・課題論文、論文要旨 3部 (3) 論文要旨データ(PDF)	12:00までに教務学生課へ提出
	14	土	修士論文公開発表会	課題論文公開発表会	配布資料、発表原稿など担当教員の指示に従い準備する	
	18	水	修士論文最終試験	課題論文最終試験		
	25	水	最終修士論文提出締切	最終課題論文提出締切	以下を提出する (1) 最終修士・課題論文 必要部数	
2	13	月	大学院看護学研究科C日程入試			入館制限の可能性あり
	15	水	修了判定			
3	9	木	学位授与式			製本された論文を受取

2022年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール				D1用	
月	日	曜日	事項	研究指導内容及各種提出書類	備考
4	4	月	入学式 オリエンテーション、交流会、履修登録	履修登録	
	5	火	研究テーマ届・指導教員希望届 提出締切 春学期授業開始	研究テーマ届(様式第M2号)・指導教員希望届(様式第M1号)	教務学生課まで提出すること(締切:4/5 12:00まで)
	15	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:研究計画、D3:経過報告)	D2・D3の発表を聴講し、意見交換する	
	20	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
6	10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2・D3の発表を聴講し、意見交換する	
	11・12	土・日	つわぶき祭		
7	29	金	研究倫理審査について オリエンテーション		研究倫理審査申請をしたことのない者は、オリエンテーション受講後、早めにeAPRIN受講
9	4	日	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
	16	金	後期特別研究 合同検討会③ (D3:まとめ)	D3の経過報告を聴講し、意見交換する	
10	3	月	春学期成績開示 不服申し立て～10月7日まで		
	4	火	秋学期授業開始		
11	11	金	後期特別研究 合同検討会④ (D1:研究計画①)	D1で可能な者は研究計画書を発表し、意見交換する	
12	11	日	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
1	7	土	博士論文公开发表会	D3の博士論文公开发表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	14	土	修士論文公开发表会	M2の修士論文公开发表聴講	M1、D1・D2はM2の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	24	火	研究報告書 提出締切	研究報告書(別記様式D-A号)を提出する	12:00までに教務学生課へ提出
2	7	火	論文題目(仮)提出締切	学位論文題目届(仮)(様式第M3号)を提出する	12:00までに教務学生課へ提出
	13	月	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
	24	金	後期特別研究 合同検討会⑤ (D1:研究計画、D2経過報告)	D1で可能な者は研究計画書を発表し、意見交換する D2の経過報告を聴講し、意見交換する	
3	9	木			学位授与式

2022年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール				D2用	
月	日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
3	29	火	研究計画書審査願(申請書)提出	研究計画書と共に研究計画書審査願(申請書、様式第D1号)を提出する 在職施設においてデータ収集する場合、必要に応じてデータ収集許可書(様式第D6号)も提出する	※ 春学期中の研究計画書、研究倫理審査合格を目途とする。
			研究倫理審査申請	研究倫理審査を受けるために、以下の書類を提出する。 ①研究倫理審査申請書、研究計画書審査に合格した研究計画書(データ収集する際の依頼文書、同意書、質問紙など含む)、③データ収集許可書(必要時)	
4	1	金	成績開示 不服申し立て～4月7日まで		
	4	月	履修登録	履修登録の確認メールが教務学生課より届く(3月中旬～下旬)	入学式 履修登録は指導教員と相談して、特別研究以外に履修があれば4/4までにメールを返信すること
	5	火	春学期授業開始		
	15	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:研究計画、D3:経過報告)	D2研究計画書を発表し、意見交換する	
	20	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
6	10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2は研究経過報告 D3の発表を聴講し、意見交換する	
	11・12	土・日	つわぶき祭		
9	4	日	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
	16	金	後期特別研究 合同検討会③ (D3:まとめ)	D3の経過報告を聴講し、意見交換する	
10	3	月	春学期成績開示 不服申し立て～10月7日まで		
	4	火	秋学期授業開始		
11	11	金	後期特別研究 合同検討会④ (D1:研究計画①)	D1の研究計画を聴講し、意見交換する	
12	11	日	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
1	7	土	博士論文公開発表会	D3の博士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はD3の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
	14	土	修士論文公開発表会	M2の修士論文公開発表聴講	M1、D1・D2はM2の発表会の補助。受付、マイク、タイムキーパーなど役割分担し担当する。担当教員に参加した感想を報告する。
2	13	月	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
	24	金	後期特別研究 合同検討会⑤ (D1:研究計画、D2経過報告)	D1の研究計画を聴講し、意見交換する D2の経過報告	
3	9	木			学位授与式

2022年度 看護学研究科博士後期課程学年別スケジュール

D3用

月	日	曜日	事項	研究指導内容と各種提出書類	備考
	1	金	成績開示 不服申し立て～4月7日まで		
4	4	月	履修登録	履修登録の確認メールが教務学生課より届く(3月中旬～下旬)	入学式 履修登録は指導教員と相談して、特別研究以外に履修があれば4/4までにメールを返信すること
	5	火	春学期授業開始		
	15	金	後期特別研究 合同検討会① (D2:研究計画、D3:経過報告)	D2の研究計画を聴講し、意見交換する D3は研究経過報告をする	
	20	水	健康診断		職場で受けている者はその提出に代えてよい
6	10	金	後期特別研究 合同検討会② (D2:経過報告、D3:まとめ)	D2はの発表を聴講し、意見交換する D3はまとめを発表する	
	11・12	土・日	つわぶき祭		
9	4	日	大学院看護学研究科A日程入試		入館制限の可能性あり
	16	金	後期特別研究 合同検討会③ (D3:まとめ)	D3はまとめを発表する	
	27	火	博士論文予備審査申請	博士論文予備審査を受けるために、以下の書類を提出する。 ①博士論文予備審査願(申請書、様式第D2号)、②博士論文要旨(予備審査兼用、様式第D4号)、③博士論文、④参考論文(該当する論文がある場合)	
10	3	月	春学期成績開示 不服申し立て～10月7日まで		
	4	火	秋学期授業開始		
	19	水	博士論文予備審査		
11	11	金	後期特別研究 合同検討会④ (D1:研究計画①)	D1の研究計画を聴講し、意見交換する	
	29	火	博士論文本審査(個別審査)申請	博士論文本審査を受けるために、以下の書類を提出する。 ①博士論文審査願(申請書、様式第D3号)、②博士論文要旨(予備審査兼用、様式第D4号)、③博士論文(様式第D5号)、④参考論文(該当する論文がある場合)	
12	11	日	大学院看護学研究科B日程入試		入館制限の可能性あり
	21	水	博士論文審査		
1	7	土	博士論文公開発表会(最終試験)		
	24	火	最終博士論文提出締切	以下を提出する (1)最終博士論文 必要部数	
2	13	月	大学院看護学研究科C日程入試		入館制限の可能性あり
	15	水	修了判定		
	24	金	後期特別研究 合同検討会⑤ (D1:研究計画、D2経過報告)	D1・D2の研究計画を聴講し、意見交換する	
3	9	木	学位記授与式		製本された論文を受取

Ⅱ. 開講授業科目・修了要件・時間割

大学院看護学研究科博士前期課程開講授業科目について

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		
			必修	選択	
基盤科目	看護理論	1春		2	
	看護倫理特論	1秋	2		
	コンサルテーション論	1秋		2	
	看護研究方法論	1春	2		
	保健統計学特論	1春		2	
	しまねの健康と長寿	1春	2		
	死生学特論	1秋		2	
	保健医療福祉政策論 I	1秋		2	
	健康栄養特論 I	1秋		2	
専門科目	専門領域	がん看護学特論 I	1春		2
		がん看護学特論 II	1秋		2
		精神看護学特論 I	1春		2
		精神看護学特論 II	1秋		2
		高齢者リハビリテーション看護学特論 I	1春		2
		高齢者リハビリテーション看護学特論 II	1秋		2
		地域保健学特論 I	1春		2
		地域保健学特論 II	1秋		2
		ウイメンズヘルス看護学特論 I	1春		2
		ウイメンズヘルス看護学特論 II	1秋		2
		看護教育学特論 I	1春		2
		看護教育学特論 II	1秋		2
	専門演習	1秋	2		
	研究	特別研究 I	1春・秋	2	
特別研究 II		2春・秋	8		
修了要件及び履修方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ol style="list-style-type: none"> ①基盤科目から6科目12単位以上（必修科目3科目6単位を含む） ②専門科目専門領域から4科目8単位以上（必修科目1科目2単位、専門領域の特論 I・II の2科目4単位、他領域の特論 I・II から1科目2単位以上） ③専門科目 特別研究 I・II 10単位合計30単位以上を修得すること。 					

区分	配当単位数	修了要件単位数			備考
		必修	選択	計	
基盤科目	18	6	6	12	
専門科目	専門領域	2	6	8	
	研究	10		10	
合計	54	18	12	30	

大学院看護学研究科博士前期課程
高度実践者養成コース助産学領域開講授業科目について

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数		
			必修	選択	
基盤科目	看護理論	1春		2	
	看護倫理特論	1秋	2		
	コンサルテーション論	1秋	2		
	看護研究方法論	1春	2		
	保健統計学特論	1春		2	
	しまねの健康と長寿	1春	2		
	死生学特論	1秋		2	
	保健医療福祉政策論Ⅰ	1秋		2	
	健康栄養特論Ⅰ	1秋	2		
専門科目	関連専門領域	がん看護学特論Ⅰ	1春		2
		がん看護学特論Ⅱ	1秋		2
		精神看護学特論Ⅰ	1春		2
		精神看護学特論Ⅱ	1秋		2
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅰ	1春		2
		高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ	1秋		2
		地域保健学特論Ⅰ	1春	2	
		地域保健学特論Ⅱ	1秋		2
		看護教育学特論Ⅰ	1春		2
		看護教育学特論Ⅱ	1秋		2
		ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ	1春	2	
		ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ	1秋	2	
		専門演習（ウイメンズヘルス看護学領域）	1秋		2
	助産学専門領域	助産学特論Ⅰ（概論）	1春	2	
		助産学特論Ⅱ（女性の解剖と機能・薬理）	1春	2	
		助産学特論Ⅲ（母子・家族の心理と社会）	1春	2	
		助産診断技術学演習Ⅰ（妊婦の助産診断とケア）	1通	3	
		助産診断技術学演習Ⅱ（産婦の助産診断とケア）	1通	3	
		助産診断技術学演習Ⅲ（褥婦・新生児の助産診断とケア）	1秋	2	
		助産診断技術学演習Ⅳ（ハイリスク妊産褥婦・新生児の診断技術）	1秋	1	
		助産診断技術学演習Ⅶ（次世代育成支援）	2春	1	
		助産診断技術学演習Ⅴ（フィジカルイグザミネーション）	1秋	2	
		助産診断技術学演習Ⅵ（ヘルスプロモーション方法論）	2春	2	
		助産管理	2春	2	
		助産学実習Ⅰ（正常症例助産ケア実習）	1秋	11	
		助産学実習Ⅱ（異常症例助産ケア実習）	2春	2	
	助産学実習Ⅲ（助産ケア統合実習）	2春	2		
研究	課題研究	1～2通	4		
修了要件及び履修方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に課題研究論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基盤科目から6科目12単位以上（必修5科目10単位を含む） ②専門科目から16科目45単位以上 ③専門科目 課題研究4単位 合計61単位以上を修得すること。 助産師国家試験受験資格を取得する場合の必要科目（＊）（61単位）を修得すること。					
区分	配当単位数	修了要件単位数		計	備考
		必修	選択		
基盤科目	18	10	2	12	
専門科目	65	47	2	49	
合計	83	57	4	61	

大学院看護学研究科博士前期課程
高度実践者養成コース 診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域 開講授業科目について

授業科目の名称		開講年次	単位数	
			必修	選択
基盤科目	看護理論	1春		2
	看護倫理特論	1秋		2
	コンサルテーション論	1秋		2
	保健統計学特論	1春		2
	健康栄養特論 I	1秋		2
	看護研究方法論	1春	2	
	しまねの健康と長寿	1春	2	
	死生学特論	1秋	2	
	保健医療福祉政策論 I	1秋	2	
専門科目	プライマリ・ケア看護学特論	1秋	2	
	がん看護学特論 I	1春		2
	精神看護学特論 I	1春		2
	高齢者リハビリテーション看護学特論 I	1春		2
	地域保健学特論 I	1春		2
	ウイメンズヘルス看護学特論 I	1春		2
	看護教育学特論 I	1春		2
	NP論	1春	1	
	統合医療安全・特定行為実践特論	1春	1	
	統合臨床病態生理学・疾病特論	1春	2	
	フィジカルアセスメント特論 I	1春	1	
	フィジカルアセスメント特論 II	1秋	1	
	臨床推論	1春	1	
	臨床薬理学特論 I	1春	1	
	臨床薬理学特論 II	2春	1	
	特定行為共通科目統合演習	1春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習 I	2春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習 II	2春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習 III	2春	1	
	プライマリ・ケア看護学演習 IV	2春	2	
	プライマリ・ケア看護学演習 V	2春	2	
	プライマリ・ケア看護学演習 VI	2春	1	
	NP活動見学実習	1春	1	
	プライマリ・ケア看護学実習	2秋	14	
プライマリ・ケア看護学探求セミナー	2秋	1		
研究	課題研究	1.2通	5	
修了要件及び履修方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に課題研究論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 ①基盤科目から5科目10単位以上（必修科目4科目8単位を含む） ②専門科目から22科目45単位以上（必修科目20科目41単位を含む） 				

区分	配当単位数	修了要件単位数		計	備考
		必修	選択		
基盤科目	18	8	2	10	
専門科目	53	41	4	45	
合計	71	49	6	55	

大学院看護学研究科博士後期課程開講授業科目について

科目区分	授業科目の名称	開講年次	単位数	
			必修	選択
基盤科目	看護研究特論Ⅰ ※	1春	2	
	看護研究特論Ⅱ ※	1春	2	
	看護教育学研究 ※	2春	2	
	島根と地域医療 *	1春		2
	保健医療福祉政策論Ⅱ *	2春		2
	健康栄養特論Ⅱ *	2春		2
専門科目	がん看護学特論Ⅲ	1通		2
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	1通		2
	地域保健学特論Ⅲ	1通		2
	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅲ	1通		2
研究	後期特別研究	1・2・3通	6	
修了要件及び履修方法				
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に3年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <p>①基盤科目から5科目10単位以上(必修科目3科目6単位を含む)、専門科目から1科目2単位以上、研究科目6単位、合計18単位以上を修得すること。</p> <p>※：必修 *：3科目のうち2科目を選択必修 専門科目は5科目から1科目選択必修とする</p>				

区分	配当単位数	修了要件単位数			備考
		必修	選択	計	
基盤科目	12	6	4	10	
専門科目	10		2	2	
研究科目	6	6		6	
合計	28	12	6	18	

Ⅲ . 授 業 科 目 の 概 要 ・ シ ラ バ ス

博 士 前 期 課 程
研究者養成コース

博士前期課程

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤 科目	看護理論	1春		2	教授	岡安誠子
	看護倫理特論	1秋	2		准教授	高橋梢子
	コンサルテーション論	1秋		2	教授	大森眞澄
					教授	石橋照子
	看護研究方法論	1春	2		教授	森山美香
					教授	藤田小矢香
	保健統計学特論	1春		2	教授	吾郷美奈恵
					非常勤講師	大城等
	しまねの健康と長寿	1春	2		教授	吾郷美奈恵
					非常勤講師	籠橋有紀子
	死生学特論	1秋		2	教授	大塚美樹
非常勤講師					竹下治男	
非常勤講師					安藤泰至	
保健医療福祉政策論Ⅰ	1秋		2	教授	谷口敏代	
健康栄養特論Ⅰ	1秋		2	非常勤講師	名和田清子	
小計(9科目)	—	6	12	—	—	
専門 科目	がん看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	大塚美樹
					教授	森山美香
	がん看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	大塚美樹
	精神看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	大森眞澄
	精神看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	石橋照子
					教授	大森眞澄
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	梶谷みゆき
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ	1秋		2	教授	梶谷みゆき
	地域保健学特論Ⅰ	1春		2	教授	吾郷美奈恵
					教授	谷口敏代
					教授	小田美紀子
	地域保健学特論Ⅱ	1秋		2	教授	吾郷美奈恵
					教授	山下一也
					講師	小川智子
	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ	1春		2	教授	藤田小矢香
					准教授	井上千晶
					教授	秦 幸吉
					講師	中谷陽子
	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ	1秋		2	准教授	井上千晶
					教授	藤田小矢香
教授					秦 幸吉	
講師					中谷陽子	
非常勤講師	比良静代					
看護教育学特論Ⅰ	1春		2	教授	岡安誠子	
				准教授	川瀬淑子	
看護教育学特論Ⅱ	1秋		2	教授	岡安誠子	
				准教授	川瀬淑子	
専門演習(ウィメンズヘルス看護学領域)				教授	藤田小矢香	
				准教授	井上千晶	
専門演習(がん看護学)				講師	中谷陽子	
				教授	秦 幸吉	
専門演習(精神看護学領域)				教授	大塚美樹	
				教授	森山美香	
専門演習(高齢者リハビリテーション看護学領域)				教授	大森眞澄	
				教授	石橋照子	
専門演習(地域保健学領域)				教授	梶谷みゆき	
				教授	吾郷美奈恵	
専門演習(看護教育学領域)				教授	谷口敏代	
				教授	山下一也	
専門演習(看護教育学領域)				教授	小田美紀子	
				講師	小川智子	
専門演習(看護教育学領域)				教授	岡安誠子	
				准教授	高橋梢子	
准教授	川瀬淑子					
小計(13科目)	—	2	24	—	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員		
			必修	選択	職名	氏名	
専門科目	研究 特別研究Ⅰ（ウィメンズヘルス看護学領域） 特別研究Ⅰ（がん看護学） 特別研究Ⅰ（精神看護学領域） 特別研究Ⅰ（高齢者リハビリテーション看護学領域） 特別研究Ⅰ（地域保健学領域） 特別研究Ⅰ（看護教育学領域）	1通	2		教授	秦 幸吉	
					教授	藤田小矢香	
					准教授	井上千晶	
					講師	中谷陽子	
					教授	大塚美樹	
					教授	森山美香	
					教授	石橋照子	
					教授	大森眞澄	
					教授	梶谷みゆき	
					教授	吾郷美奈恵	
					教授	谷口敏代	
					教授	山下一也	
	教授	小田美紀子					
	講師	小川智子					
	教授	岡安誠子					
	准教授	高橋梢子					
	准教授	川瀬淑子					
	研究 特別研究Ⅱ（ウィメンズヘルス看護学領域） 特別研究Ⅱ（がん看護学） 特別研究Ⅱ（精神看護学領域） 特別研究Ⅱ（高齢者リハビリテーション看護学領域） 特別研究Ⅱ（地域保健学領域） 特別研究Ⅱ（看護教育学領域）	2通	8			教授	藤田小矢香
						教授	秦 幸吉
						准教授	井上千晶
						講師	中谷陽子
						教授	大塚美樹
						教授	森山美香
						教授	石橋照子
教授						大森眞澄	
教授						梶谷みゆき	
教授						吾郷美奈恵	
教授						谷口敏代	
教授						山下一也	
教授	小田美紀子						
講師	小川智子						
教授	岡安誠子						
准教授	高橋梢子						
准教授	川瀬淑子						
小計（2科目）		—	10	0	—	—	
合計（24科目）		—	18	36	—	—	
修了要件及び履修方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に修士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <p>①基盤科目から6科目12単位以上（必修科目3科目6単位を含む）</p> <p>②専門科目専門領域から4科目8単位以上（必修科目1科目2単位、専門領域の特論Ⅰ・Ⅱの2科目4単位、他領域の特論Ⅰ・Ⅱから1科目2単位以上）</p> <p>③専門科目 特別研究Ⅰ・Ⅱ10単位</p> <p>合計30単位以上を修得すること。</p>							

授業科目の概要（看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程）

授業科目の名称	講義等の内容
看護理論	<p>○授業目的 看護実践の基盤となる看護における代表的な看護理論、看護モデルおよび中範囲理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践への活用を探究する。</p> <p>○授業概要 看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史的変遷と発展の過程を学修し、諸理論（ニーズ論、対人関係論、適応論、ケアリング等）が看護の臨床現場で出会う現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。看護の諸理論の批判的な吟味をとおして、看護実践の質を向上させていくために理論的な知見の活用を探究する。</p>
看護倫理特論	<p>○授業目的 医療現場において起こっている倫理的な問題・葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらよいか、看護専門職に求められる倫理的問題への対応について探究する。</p> <p>○授業概要 医療倫理および看護倫理の歴史的発展、看護実践の場で発生する倫理的課題に対応するために、基盤となる諸理論・諸概念を理解する。また、看護領域で起こる可能性が高い倫理的課題を孕む具体的な事例に対する倫理判断の方法を理解し、看護の各専門分野で起こる可能性が高い倫理的課題に対して看護師がどのような倫理判断を行う必要があるのか探究する。さらに、看護職者の倫理的課題に対して、組織がどのような対策・取り組みを行う必要があるのかを探究する。</p>
コンサルテーション論	<p>○授業目的 コンサルテーションの概念と役割その課程におけるダイナミクスなどについて学修し、優れた看護実践におけるコンサルテーション活動を展開する能力について探求する。</p> <p>○授業概要 看護活動を効果的に展開するには、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要であり、コンサルテーションは、ネットワークを構築していくうえで重要な機能を果たす。大学院修了者には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職種間の協働・連携の調整者として、リーダーシップを発揮することが期待されている。本科目では、コンサルテーションの理論と方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。</p>
看護研究方法論	<p>○授業目的 自らの看護研究を計画するために、看護を研究する上での特殊性・倫理性を理解し、妥当性で信頼性の高い量的・質的研究のプロセスの概要について理解する。</p> <p>○授業概要 ① 研究プロセスの概観と研究における倫理的配慮 ② 研究課題の選択と研究目的・目標の設定 ③ 文献クリティークによる概念枠組と仮説設定 ④ 文献検索演習：コンピューター検索 ⑤ 量的研究のプロセス（4回） ⑥ 質的研究のプロセス（4回） ⑦ アクションリサーチ（3回）</p>
保健統計学特論	<p>○授業目的 保健医療分野における科学的実践活動、および研究で使用される主要な統計学的手法と、解析法を取り上げ、目的に応じたデータ解析を実践するための知識と方法を学修する。</p> <p>○授業概要 保健医療分野で取り扱う臨床データ、実験データ、調査データを念頭に、パラメトリックな手法や単変量解析にとどまらず、ノンパラメトリックな手法、多変量解析、時系列解析なども取り扱う。国や地方自治体が実施・公表している主要な厚生統計調査など、保健統計情報の見方と活用方法について学修する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
しまねの健康と長寿	<p>○授業目的 過疎や少子高齢化、経済活動の低迷など深刻な地域課題を抱えている島根県内中山間地・離島などをフィールドとし、現地で健康課題に関わる専門職や関係者、住民などと関わりながら地域の実態を的確に把握するとともに、健康課題に対応できる論理的思考力と問題解決のための技法を学修する。</p> <p>○授業概要 本学との協力関係がある島根県内の中山間地や離島、8地域（看護学部「島根の地域医療」のフィールドワークも展開している）をフィールドとして、学習活動を展開する。学生の関心に従い、健康レベルや関わる対象、地域の健康課題を踏まえて、フィールドを決定する。学生が主体的に演習計画立案・展開・まとめを行う。具体的には、選択した地域における地域包括医療の現状と課題、住民の健康の保持・増進、母子保健や子育て支援、介護予防、在宅療養者の医療支援やターミナルケアの拡充などをテーマに、フィールドワークを展開する。得たデータに基づいて地域の健康課題を多角的に分析し、課題解決のための看護実践を検討し、関係者に発信する。</p>
死生学特論	<p>死生をめぐる宗教と思想、文化と社会、死生観、死生の諸問題についての基礎知識を理解する。現代社会の死生の諸問題に対し、看護専門職に求められる役割と実践について探求する。</p>
保健医療福祉政策論 I	<p>○授業目的 保健福祉支援政策及び障害特性を考慮した社会適応理論について学修し、地域包括ケアを目指して保健・医療・福祉の連携・統合について探求する。</p> <p>○授業概要 保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実際のどのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。</p>
健康栄養特論 I	<p>○授業目的 様々な健康レベルの人々を対象とした食生活・栄養に関する専門知識や最新情報を理解し、看護職として果たすべき役割を探求する。</p> <p>○授業概要 生活習慣病の一次予防を主要テーマとした食生活・栄養に関して、医療・介護・予防等に必要となる栄養実践に関わる専門知識や最新情報を得る。具体的には、健康な乳幼児から高齢者までを対象としたライフステージ別、介護を必要とする高齢者、種々な疾病に関して、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。</p>
がん看護学特論 I	<p>○授業目的 がん看護領域の基盤となる理論や新しい知見を理解し、様々な健康レベルの患者（児）と家族に応じた看護援助を探求する。</p> <p>○授業概要 健康レベルに応じたがん患者（児）と家族の理解や看護援助について、必要な理論及び新しい知見を学習する。そして学習した理論や知見を臨床看護に応用できるように個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について検討する。これらをふまえて、がん患者と家族に対する看護および研究の方法について探求する。</p>
がん看護学特論 II	<p>○授業目的 がん患者と家族のQOLに関連する理論や新しい知見を理解し、発達段階に応じた看護援助を探求する。</p> <p>○授業概要 小児、AYA世代、成人期、高齢者などの発達段階に応じたがん患者（児）とその家族の理解や看護援助について、必要な理論及び新しい知見を学習する。そして、学習した理論や知見を臨床看護に応用できるように個々の体験に基づいて分析し、看護援助のあり方について考察する。これらをふまえて、がん患者と家族に対する看護および研究の方法について探求する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
精神看護学特論 I	<p>○授業目的</p> <p>① 精神看護の実践の基盤となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。</p> <p>② 向精神薬の作用機序とその副作用、服用方法などに対する理解を深め、薬物療法に対する患者や家族の相談に応じられる能力を習得する。</p> <p>③ 身体的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。</p> <p>○授業概要</p> <p>重篤な精神症状により入院治療が必要な人々を生物-心理-社会モデルを用いて理解し、病状を的確に把握するための診断基準と治療法を学修する。そして、事例検討を通して、精神科領域に求めるフィジカルアセスメント力や身体合併症ケアに必要な技術などを探求し、観察力・看護判断力と援助技術を学修する。</p> <p>また、向精神薬の作用機序と副作用について学修し、薬物療法を受けている患者のアセスメントと看護援助と身体的健康問題の予防と早期発見について探求する。</p> <p>さらに、早期退院に向けてエビデンスに基づく専門的な看護援助ができるよう、的確な看護判断や援助方法、援助の評価法について探求する。</p>
精神看護学特論 II	<p>○授業目的</p> <p>① 精神科リハビリテーションと地域ケアに関連する理論と概念を学ぶとともに、当事者や家族の体験、持っている力や強みを尊重したケアのあり方について考察する。</p> <p>② 精神科リハビリテーションにおける援助技術について演習を通して養うと共に、複雑で困難な対象に対するアセスメントができる。</p> <p>○授業概要</p> <p>社会能力の評価尺度やストレングスモデルなどを学修し、精神障がい者および障がい者を取り巻く環境がもつ強みを見いだせるようにする。その強みを活かして、精神科リハビリテーションにおける援助技術を駆使し、精神障がい者が生活する力を高めていけるよう自己決定支援や教育的支援の方法を探求する。</p> <p>また、SSTや心理教育、リラクゼーションなど関連技法について演習し、看護への応用について検討するとともに、複合的なニーズをもった精神障がい者のケアマネジメントについて事例検討を通して探求する。</p> <p>さらに、担当教員が理事を務めるNPO法人就労継続支援事業所の利用者との交流を通して、病気と就労とのバランスの取り方や社会参加の意味を共に考え、就労支援を通してコーディネート力を高める。</p>
高齢者リハビリテーション看護学特論 I	<p>○授業目的</p> <p>慢性疾患を有し地域や高齢者施設で療養する高齢者の自己管理や健康維持のためのリハビリテーションにおける主要な概念や理論を学修する。さらに、慢性疾患を有する高齢者と家族への療養支援の現状と課題を整理し、療養支援や高齢者リハビリテーション看護における看護者の役割と実践を探求する。</p> <p>○授業概要</p> <p>慢性疾患（糖尿病、呼吸障害、慢性腎不全など）を有し、地域や高齢者施設で療養生活をおくる高齢者の自己管理能力強化に有効な、学習理論、ステージ変容理論、エンパワメント、認知行動療法などを学修し、高齢者の療養支援に必要な理論的枠組みを理解する。さらに、慢性疾患を有する高齢者とその家族の、QOL向上をめざした地域療養支援の最新知見や先駆的取り組み事例の分析し論理的に整理するとともに、地域療養支援や社会参加支援、生活機能維持のための高齢者リハビリテーションにおける看護者の役割と具体的実践を探求する。</p>
高齢者リハビリテーション看護学特論 II	<p>○授業目的</p> <p>認知機能障害や運動機能障害により生活機能の低下を有する高齢者に対する回復期リハビリテーション看護と生活自立支援における主要な概念や理論を学修する。生活機能の低下を有する高齢者と家族に対する回復支援や退院支援における課題を明らかにし、課題解決のための看護実践とチーム医療における調整のあり方を探求する。</p> <p>○授業概要</p> <p>脳血管障害や認知症、運動器疾患（骨折や関節症）などによる生活機能の低下を有する高齢者の、回復期リハビリテーションや療養支援の基盤となるICF（International Classification of Functioning, Disability and Health: 国際生活機能分類）、コンフォート理論、協働的パートナーシップ理論などを学修し、高齢者の生活機能再獲得や生活の自立支援に必要な理論的枠組みを理解する。</p> <p>認知障害や運動機能障害により生活機能の低下をきたした高齢者に対する、自立的で安定的な生活機能再獲得のための高齢者リハビリテーション看護、特に身体機能の改善と環境調整によるアプローチを基軸に検討する。さらに、退院支援や家族看護も含めた回復期リハビリテーションにおける看護者の役割と具体的実践を探求する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
地域保健学特論 I	<p>○授業目的 ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、健康課題の解決にむけて、社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究する。</p> <p>○授業概要 具体的には、安全・安心な出産や子育て、児童・高齢者の虐待防止、生涯現役等について学修し、地域特性を活かした自助・互助・共助・互助による地域づくりと地域のエンパワメントについて考察する。</p>
地域保健学特論 II	<p>○授業目的 地域保健医療に関するわが国の現状と課題を探求し、地域に根ざした保健医療を展開する理論と方法を探究することによって、地域保健医療のリーダーとして、人々の生活実態に即した予防活動を実践できる力を高める。</p> <p>○授業概要 地域保健医療に関する諸外国とわが国の現状、がんを中心とした生活習慣病や認知症予防、自死防止、介護予防に係わる保健活動について、文献等から知見を整理し、予防活動を探究する。</p>
ウィメンズヘルス看護学特論 I	<p>○授業目的 女性の生涯における健康課題に関する、アセスメント・診断能力を高めるための主要な理論および概念を学修する。</p> <p>○授業概要 女性を生涯発達の視点からとらえ、最新の専門知識や理論に基づいて、女性の健康課題や予防、親子関係の促進や母子を取り巻く社会環境を見据えた看護の役割を探究する。 女性の生涯における実践領域における諸現象を理論や評価尺度を用いた看護研究と照合し、そこから導かれるエビデンスから女性の看護実践に活用する方法を探究する。</p>
ウィメンズヘルス看護学特論 II	<p>○授業目的 女性の機能を最大限発揮するマタニティーサイクルにおける多様な健康状態にある対象を理解し、女性の意思を尊重しながら適切な臨床判断を行うためのエビデンスに基づいた母子の看護を探求する。</p> <p>○授業概要 ・周産期医療の現状と課題、女性の健康課題の診断技術の最新知識 ・女性のヘルスケアのための健康教育、産婦のフィジカルアセスメント、骨盤底不全と女性の健康障害、地域包括ケアと母子の支援 ・褥婦のフィジカルアセスメント、妊婦に対するリラクゼーションのためのケア、産科・NICU・地域につなぐ母子の支援、災害児の母子看護 ・妊娠期のフィジカルアセスメント（合併症妊婦を含む）、妊娠期からのメンタルヘルス</p>
看護教育学特論 I	<p>○授業目的 看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において体系的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応じていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向け考察する。</p> <p>○授業概要 看護教育の歴史の変遷を学修し、今日の看護教育の問題点や課題について考察する。また、教育活動の展開を支える理論を学修し、教育活動を展開する能力を育成する。さらに、地域ニーズを踏まえた看護教育のあり方を検討する。</p>
看護教育学特論 II	<p>○授業目的 教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。学生参画型授業の実践の開発を通して自己教育力の育成方法について探究する。</p> <p>○授業概要 看護教育の特徴とその評価法、教授－学習過程の構造、学生参画型授業とその教授法について学修し、自己教育力の育成とその評価法について探究する。また、シミュレーション学習の授業設計、評価を学修する。</p>

授業科目の名称	講義等の内容
専門演習	<p>○授業目的 フィールドワークと討議により、学生が選択した分野における看護実践能力（アセスメント能力、介入ならびに評価能力）を修得する。</p> <p>○授業概要 看護実践能力を高めるために、演習場所（地域・在宅・行政機関・教育機関、福祉施設・医療施設等）、学習目標ならびに学習方法を学生自ら設定し、フィールドワークを展開する。看護学特論Ⅰ・Ⅱで学修した諸理論や介入方法、評価尺度等を駆使し、担当教員の指導のもと受持患者・家族のアセスメントと看護介入・評価を実践する。介入プロセスや患者・家族の変化についての討議やフィードバックを通して、看護実践の到達状況を評価するとともに看護実践者としての自己の強みと課題を明確化する。また実践した看護モデルや介入スキルについて、実践上の活用性や課題を整理する。</p> <p>○がん看護学領域 あらゆる発達段階や健康レベルにあるがん患者（児）とその家族に対して、QOL向上を目指した看護実践を行い、中範囲理論などを用いて分析・評価する。看護実践をリフレクションし、看護実践能力（アセスメント能力・評価能力）や研究の課題を明確にする。</p> <p>○精神看護学領域 精神の健康問題を抱える患者に看護実践を行い、アセスメント方法および評価の妥当性を検討し、自己の実践を振り返り看護介入モデルを模索する。</p> <p>○高齢者リハビリテーション看護学領域 複合的かつ複雑な健康課題や生活上の課題を有する高齢療養者とその家族を対象に、生活機能の維持・改善と高齢者の尊厳保持、高齢者と家族の安寧を図る看護を実践する。高齢者と家族に対する教育指導や権利擁護、意思決定支援、医療・福祉の専門職や高齢者・家族との調整能力など高齢者リハビリテーションに関わる看護者に必要な実践能力の基礎を習得する。また、看護実践のアウトカム評価ならびに関係者との討議やフィードバックを通して、看護実践者としての自身の課題や高齢者リハビリテーション看護の現状と課題を整理する。</p> <p>○地域保健学領域 個人・家族・集団を対象とした保健活動と地域診断を学び、地域の健康課題解決のために必要とされる実践能力を修得する。また、地域特性を理解し、地域特性に応じた課題解決を探求するとともに健康な地域づくりについて考察する。</p> <p>○ウィメンズヘルス看護学領域 周産期および各ライフステージにおける女性と子どもを含む家族の健康課題に対して看護実践を行い、アセスメントと看護介入・評価の妥当性を検討し、看護実践者としての自己の課題を明確にする。</p> <p>○看護教育学領域 看護教育学に関連する研究論文を中心に文献購読と討議を行い、看護教育の現状と課題、看護教育に関する研究の動向と課題を理解し、研究方法を分析的に考察する。これらの学修を通して、各自の研究課題と適切な研究方法を検討し、研究計画立案に活かせるようにする。</p>
特別研究Ⅰ	<p>○授業目的 各専門領域をはじめ既習内容を基盤として、選択した看護領域の対象理解や援助に関わる現象を扱った文献クリティークを行い、その看護領域の課題について考察を深め、研究課題を明確にし、研究実施計画書を作成し特別研究Ⅱにつなげていく。</p> <p>○授業概要</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 選択した看護領域の課題解決に適切な研究手法について、文献クリティークから検討する。 ② 研究課題を明確にし、研究デザイン、研究方法を具体的に計画する。 ③ 関連ある先行研究を探求し、読み込む中で、より具体的な研究上の課題や方法論の適正、対象者の選定方法などを詳細に検討する。 ④ 研究倫理に関する確認、得られる結果の予測と仮説の設定、関連機関との調整や依頼など、実行可能な研究計画書を作成する。 ⑤ フィールドワーク、インタビュー、データ分析の実際などをトレーニングし研究手法を修得する。

授業科目の名称	講義等の内容
特別研究Ⅱ	<p>○授業目的 選択した領域における看護学の発展を目指して、特別研究Ⅰにおいて立案した研究計画に沿って実施・分析し、指導教官の指導を受けながら修士論文を作成する。テーマ、目的、研究方法に一貫性を持たせて、研究全体を企画、実施する能力を身につける。研究課題に関連したフィールドで実際に手順に沿って研究を実施、遂行していく。</p> <p>○授業概要 ① 研究計画に沿って、実施する。 ② 質の良い適切なデータを収集する。 ③ 得られた結果を分析、考察し、一連のプロセスを論文としてまとめる。 ④ 研究対象フィールドとの調整を図りながら、プロセスをすすめていく。</p>

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護理論	学期	春学期
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択
科目コード	I7070000	授業形態	講義
授業の概要	<p>授業の目的は、看護実践の基礎となる看護における代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践への活用を探究する。</p> <p>① 看護実践の基礎となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史的背景と発展の過程を学修する。</p> <p>② 諸理論は看護の臨床現場で出会う現象や看護実践とどのように活用されているのかを考察する。</p> <p>③ 実践・教育・研究への看護理論の適用の実践について議論する。</p>		
回数	内容	担当者	月日
1	【講義】 ガイダンス	岡安	
2	【講義】 看護理論とは	岡安	
3	【講義】 看護の歴史的發展過程と看護理論 (1)	岡安	
4	【講義】 看護の歴史的發展過程と看護理論 (2)	岡安	
5	【講義】 看護理論の分析と評価 (1)	岡安	
6	【講義】 看護理論の分析と評価 (2)	岡安	
7	【演習】 看護理論の看護実践・教育への適応 (現象の分析) (1)	岡安	
8	【演習】 看護理論の看護実践・教育への適応 (現象の分析) (2)	岡安	
9	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (1))	岡安	
10	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (2))	岡安	
11	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (3))	岡安	
12	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (4))	岡安	
13	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (5))	岡安	
14	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (6))	岡安	
15	【演習】 まとめ	岡安	
テキスト	<p>筒井真優美 (2020) : 看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院</p>		
参考文献	<p>・フォーセット/太田喜久子、筒井真優美訳 (2008) : フォーセット看護理論の分析と評価新訂版、医学書院</p> <p>・黒田裕子 (2009) : よくわかる中絶理論、学研</p>		
評価方法	<p>ブレゼンセッション40%、ディスカッションへの貢献度30%、レポート30%を総合して評価する。 レポート課題「看護実践と看護理論を適応する意義について、事例を踏まえて記述する」</p>		
その他	<p>・原則、授業は「遠隔授業」とする。</p>		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	准教授 高橋梢子	選択/必修	必修
科目コード	I7070001	授業形態	講義・演習
授業の概要	<p>【目的】 医療現場において起っている倫理的な問題・葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらよいか、看護専門職に求められる倫理的問題への対応について探究する。</p> <p>【目標】</p> <p>① 看護倫理とは何かを理解する。</p> <p>② 看護職の倫理綱領の内容を深く理解する。</p> <p>③ 倫理的な看護実践の基礎となる諸理論・諸概念を理解する。</p> <p>④ 看護実践の場できている倫理的課題と倫理判断の方法を理解する。</p> <p>⑤ 倫理的問題の解決のためのアプローチの方法を理解する。</p>		
回数	内容	方法	
1)	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	講義	
2)	看護職の倫理綱領、第4回の課題提示	講義	
3)	看護倫理のアプローチ (總の倫理、原則の倫理、ケアの倫理)	講義	
4)	看護を取り巻く倫理的問題 (ACP、身体拘束、地域看護における倫理的問題、災害・感 染症流行時の倫理的問題等)	ブレゼン	
5)	看護倫理に関する重要な言葉 (道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護アドボカシ ン、協力と協働)、第7回の課題提示	講義	
6)	看護倫理に関する重要な言葉 (ベターナリズム、個人の権利、インフォームド ド・コンセント)	講義	
7)	倫理的問題へのアプローチ	ブレゼン	
8)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
9)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
10)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
11)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
12)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
13)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
14)	看護実践における倫理的問題・事例分析	演習	
15)	倫理的問題への対策・取組 まとめ	講義	
テキスト	<p>小西恵美子編 (2021)、看護学テキスト NICE 看護倫理 (改訂第3版) よい看護・よい看護師への道し るべ、南江堂。</p>		
参考文献	<p>カラテ、フライ著、片田範子・山本あい子訳 (2005)、看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、 宮坂道夫 (2018)、系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院</p> <p>看護職の倫理綱領 (2021) 日本看護協会、https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html</p>		
評価方法	<p>授業への参加度、課題への取組50%、レポート50%の割合で評価する。</p>		
その他	<p>原則、遠隔授業とします。</p>		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森眞澄、教授 石橋照子	選択/必修	選択
科目コード	I7070004	授業形態	講義
授業の概要	医療、看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職種間の協働、連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に對する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。		
	回数	月日	内容
	1		コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約
	2		コンサルテーションの4つのモデルとその特徴
	3		コンサルテーションのプロセス、技法、評価
	4		コンサルティとコンサルタントの関係と面接
	5		リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力
	6		組織のストレスとコンサルテーション
	7		看護職のストレスの特徴、メンタルヘルスに関する理論とコンサルテーション
	8		コンサルテーション事例の検討(1) 一院生によるコンサルテーションの事例発表
	9		コンサルテーション事例の検討(2) 一院生によるコンサルテーションの事例発表
	10		コンサルテーション事例の検討(3) 一院生によるコンサルテーションの事例発表
	11		コンサルテーション事例の検討(4) 一院生によるコンサルテーションの事例発表
	12	集中	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)
	13	集中	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)
	14	集中	グループコンサルテーションの実践(グループワーク)
	15	集中	組織コンサルテーションの実践(グループワーク)
	① E.H.シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。		
	② 土居健郎著 (2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院		
	③ アントン・オブホルツガー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ編、武井麻子監訳 (2014)：組織のストレスとコンサルテーション、金剛出版。		
参考文献	① 宇佐美しおり、野末碧香編集 (2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会。		
	② 山本和郎 (2000)：危機介入とコンサルテーション、ミネルヴァ書房。		
評価方法	[レポート] 60% (具体的事例を分析し、考察したレポート) [授業態度] 40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
その他	ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論	学期	春学期
担当教員	教授 森山美香、教授 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	I7070005	授業形態	講義
授業の概要	[目的] 看護専門職として、より良い看護実践を行うために看護研究を行うことは責務である。本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に説明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い研究プロセスに関する基本的知識を学ぶ。		
	回数	内容	担当者
	1	研究プロセスの概観と研究倫理	森山
	2	文献検索の方法と文献クリティーク	森山
	3	文献クリティーク：演習	森山
	4	量的研究(1)：量的研究の種類と特徴	藤田
	5	量的研究(2)：課題設定と研究枠組み	藤田
	6	量的研究(3)：記述統計とデータの種類の、統計分析の基本	藤田
	7	量的研究(4)：平均値の比較(t検定・分散分析)と相関係数分析	藤田
	8	量的研究(5)：順序分類の比較(χ ² 検定・Mann-Whitney 検定・Kruskal-Wallis 検定)	藤田
	9	質的研究(1)：質的研究の種類と特徴(1)	森山
	10	質的研究(2)：質的研究の種類と特徴(2)	森山
	11	質的研究(3)：課題設定と研究枠組み	森山
	12	質的研究(4)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(1)	森山
	13	質的研究(5)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(2)	森山
	14	看護研究計画立案の実践(1)：研究計画書の作成	藤田
	15	看護研究計画立案の実践(2)：看護研究計画書の発表	森山・藤田
	D.D.F.ポーター/C.T.ベック、監訳：近藤 潤子 (2010)。看護研究 原理と方法 第2版、医学書院。		
	2) グレック美術、麻原きよみ、横山美江編著 (2016)。よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 看護研究のエキスパートをめざして(第2版)、医歯薬出版。		
参考文献	授業内で適宜紹介する		
評価方法	[クリティークレポート] 40% (評価レポートの内容) [演習成果] 40% (質的研究の種類と特徴の成果物、看護研究計画演習の成果物、プレゼンテーション) [受講態度] 20% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)		

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、授業は「遠隔授業」とする。 ・ブレゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。 ・15回の「看護研究計画書の発表」は、質疑応答を含め1人10分程度の発表予定である。
-----	---

科目分類	保健統計学特論		対象学年	1
授業科目	保健統計学特論		学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	演習	単位数	2
授業の概要	<p>【目的】 保健医療分野における研究で使用される主要な統計学的手法を理解し、目的に応じたデータ分析を実践するための知識と方法、科学的思考力を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語、保健統計の概要を理解できる。 ② 保健医療活動に必要な統計手法が説明できる。 ③ 高度な分析手法を用いた論文を読み取り、看護研究で活用されている統計方法を批判的な視点で読み取ることができる。 ④ 公衆衛生や疫学の視点で分析された事例を理解し、保健統計の活用について創造することができる。 			
回数	内容			
1	統計学の歴史と意義 吾郷			
2	我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語 吾郷			
3	データの要約 吾郷			
4	統計的推論 吾郷			
5	分散分析 吾郷			
6～8	※ブレゼンテーションとディスカッション 高度な分析手法を用いた論文を読み解く。 (主成分分析、因子分析、判別分析、ロジスティック回帰分析、生存分析、etc) 吾郷			
9～14	※分析事例 様々な分析事例を学び、ディスカッションにより結果を読み解く。 大城			
15	※ディスカッション I keep saying that the sexy job in the next 10 years will be statisticians. And I am not kidding. (2009年 New York Times, Google チーフエコノミスト:ハル・ヴァリアン博士) 吾郷			
テキスト	指定しない。			
参考文献	「SPSSによる統計データ解析」 現代数学社 「保健統計・疫学」 福富和夫・橋本修二 南山堂 「国民衛生の動向」 一般財団法人厚生労働統計協会			
評価方法	ブレゼンテーションや授業中のディスカッションや理解度により、総合的に評価する。 必要に応じて紹介する。			
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、原則として9～14回は対面、他の回は遠隔授業で行う。 ・6～8回は、各学生が高度な分析手法を用いた論文を見つけ、分析方法を中心にその論文のプレゼンテーションを行う。 			

科目分類	対象学年	1
授業科目	学期	春学期
担当教員	選択/必修	必修
科目コード	単位数	2
	授業形態	演習
【目的】	社会環境の変化、フィールド(隠岐諸島・島前)の地域特性と健康課題を理解し、フィールドのさらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。またその内容を報告書としてまとめる。	
【目標】	① フィールドの既存資料からアセスメントし、地域特性が説明できる。 ② 現地の人と一緒に生活することで、より深く現地の文化や生活を理解できる。 ③ さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。 ④ 報告会を通して、プレゼンテーション力とディスカッション力が修得できる。	
	コマ数	内容
	1	事前学習：7月2日(土)①～④時限 ◇「地理的・気象的」「生態的」「人為的」「情報」と人々の暮らし
	4	◇統計資料からみた変遷や公施設・公的サービスの現状 ◇保健医療福祉計画と健康課題
	5	フィールド学習：7月31日(日)～8月1日(月)の1泊2日 ◇地区踏査(地域を歩こう！)
	12	◇住民や関係者にインタビュー(西ノ島の好きなところ、自慢したいこと、気になること、暮らしと催事 など)
	13	まとめ(隠岐諸島・島前の健康と長寿をむけた提案)：8月6日(土)①②時限 ◇ラベルワーク
	14	テーマ：さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”
	15	報告会：8月6日(土)8月6日(土)④時限
テキスト	指定しない	
参考文献	・エリザベスT. アンダーソン 他：コミュニティアイズバートナー、医学書院、2007 ・R. エマソン 他：方法としてのフィールドノート、新曜社、2018 ・佐藤誠：フィールドワークの技法、新曜社、2002 ・孫大輔：対話する医療、さくら舎、2018	
評価方法	以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度、通知する。 <input type="checkbox"/> 事前学習：20% <input type="checkbox"/> フィールド学習：40% <input type="checkbox"/> まとめ(ラベルワーク)：40%	
その他	・4日間(1泊を含む)の集中講義(対面)として行う。 ・交通費や食費など、フィールド学習に要する費用は全て自己負担である。 ・フィールド学習中のインタビュー先など、教員に確認しながら事前にアポイントを取ることを。 ・フェリーの欠航、COVID-19の感染状況によっては、学内学習とし、電話等でインタビューを行う。	

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	死生学特論	学期	秋学期
担当教員	教授 大谷美樹 非常勤講師 安藤泰至 竹下治男	選択/必修	必修
科目コード	I7070118	授業形態	講義
授業の概要	死生をめぐる宗教と思想、文化と社会、死生観、死生の諸問題についての基礎知識を理解する。現代社会の死生の諸問題に対し、看護専門職に求められる役割と実践について探求する。		
	回数	内容	
	1	死生学とは	【大谷】
	2	死生をめぐる宗教と思想	【安藤】
	3	死生をめぐる文化と社会	【大谷】
	4	日本人の死生観	【大谷】
	5	スピリチュアルペイン	【大谷】
	6	終末期医療	【大谷】
	7	アドバンス・ケア・プランニング	【大谷】
	8	安楽死・尊厳死	【安藤】
	9	デス・エデュケーション	【大谷】
	10	在宅看取り(1) 情報通信機器(CT)を利用した死亡診断等ガイドライン	【大谷】
	11	在宅看取り(2) 法医学に関する一般的事項	【竹下】
	12	死生の諸問題における看護の役割と実践(1)	【大谷】
	13	死生の諸問題における看護の役割と実践(2)	【大谷】
	14	死生の諸問題における看護の役割と実践(3)	【大谷】
	15	全体を通じたディスカッション・まとめ	【大谷】
テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考文献	島藤 進、竹内 整一：死生学とは何か、東京大学出版会、2008 適宜、紹介する。		
評価方法	レポート課題：60% 授業参加態度：40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
その他	・授業実施方法：原則、「遠隔授業」とする。ただし、非常勤講師の授業については、「対面」とする場合がある。 ・各テーマについて参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 谷口敏代	選択/必修	選択
科目コード	I7070010	授業形態	講義
	保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。 また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実際のここのようなシステム活用により連携が行われているのか、探求的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。		
授業の概要	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 2) 障害者福祉制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 3) 地域包括ケア体制における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 4) 社会保険・社会福祉制度を取り巻く課題を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。 		
	回数	内容	
	1	オリエンテーション・介護保険制度と障害福祉制度(1)	
	2	介護保険制度と障害福祉制度(2)	
	3	介護保険事業計画と障害福祉計画	
	4	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (1)	
	5	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (2)	
	6	障害者の手帳制度	
	7	年金制度と生活保護制度	
	8	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (1)	
	9	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (2)	
	10	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (1)	
	11	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (2)	
	12	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(1)	
	13	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(2)	
	14	NPOおよびボランティア活動と看護職の役割	
	15	諸外国の高齢者保健福祉施策・まとめ	
テキスト	プリント及び資料を適宜配布する		
参考文献	厚生省の指図書増刊「国民衛生の動向」 「国民の福祉と介護の動向」 太田貞司監修：介護福祉の組織・制度論、光生館、2015 基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと		
評価方法	レポート 80%：単元毎の課題に対し、先行研究の検索と分析、看護職の視点から考察したレポート内容 授業態度 20%：授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション によって評価する		
その他	原則として遠隔授業形式で行います。演習課題では、新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面講義を行うこともあります。単元毎に課題を与え、国内外の文献の抄読と意見発表を行います。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 名和田清子	選択/必修	選択
科目コード	I7070011	授業形態	講義
	生活習慣病の一次予防を主要テーマとした食生活・栄養に関して、医療・介護・予防等に必要となる栄養実践に関わる専門知識や最新情報を得る。DOHaD 仮説では、「胎児期や生後早期における様々な環境によりその後の環境を予測した適応反応が起こり、そのおりの環境とその後環境との適合の程度が将来の疾病リスクに関与する」と考えられている。胎児期（妊婦期）から高齢期までのライフステージを通じて、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。		
授業の概要	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養の概念と意義について説明することができる。 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。 3) ライフステージを通じて適切な栄養管理を行うことの意義を理解することができる。 4) ライフステージを通じて適切な栄養管理・食育を関連職種が連携して行うことの意義を理解することができる。 5) 栄養学研究の最近の動向について理解することができる。 		
	回数	内容	
	1	栄養とは、栄養学・栄養学研究における最近の話題	
	2	栄養と健康 —日本人の食生活の現状と課題—	
	3	日本人の食事摂取基準	
	4	ライフステージと栄養	
	5	女性のライフステージと栄養ケア	
	6	低栄養、リハビリテーション栄養学	
	7	生活習慣病と栄養	
	8	胎児期からの生活習慣病予防、生活習慣病の予防 における栄養と遺伝子	
	9	食品の機能性	
	10	時間栄養学	
	11	栄養状態の評価 個人の評価	
	12	栄養状態の評価 地域集団の評価、栄養疫学	
	13	在宅における栄養ケア	
	14	災害時の栄養・食生活支援	
	15	栄養学研究最近の話題	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	日本人の食事摂取基準 (2020年版) 国民健康・栄養調査 授乳・離乳の支援ガイド (2019年改訂版)		
評価方法	【課題レポート】 60%、【演習】 20%、【受講態度 (授業への取り組み姿勢、ディスカッション等)】 20%		
その他	授業実施方法：原則として遠隔授業 (同期型) で行う。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○ 教授 大谷美樹 教授 森山美香	選択/必修	選択
科目コード	I 7070100	授業形態	講義
	がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題とがん看護の基盤となる主要な理論や概念について学び、がん看護に必要な知識を深める。また、健康課題の解決に向けた看護職の役割について探究する。	単位数	2
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> がん医療・看護の動向について説明できる。 がん看護の基盤となる主要な理論や概念について説明できる。 がん患者とその家族、がんサバイバーの体験、苦痛や諸問題を理解し、健康課題について説明できる。 がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題の解決に向けた看護職の役割を探究できる。 		
	回数	内容	
	1	がん医療・看護の動向	【大谷】
	2	ストレス・コーピング理論	【大谷】
	3	危機理論	【大谷】
	4	喪失・悲嘆の理論	【大谷】
	5	意思決定支援	【大谷】
	6	レジリエンス	【森山】
	7	自己効力感	【森山】
	8	成人教育 (アンドラゴジー)	【森山】
	9	がん治療と看護	【大谷】
	10	がん患者の緩和ケア	【大谷】
	11	がん患者のエンド・オブ・ライフケア	【大谷】
	12	がん患者の在宅看護	【大谷】
	13	がんサバイバー・AYA 世代のがん看護	【大谷】
	14	がん予防と早期発見	【大谷】
	15	がん患者の健康課題の解決に向けた看護職の役割	【大谷】
	特に指定しない		
テキスト	1) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、メヂカルフレンド社、2018 2) 一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア、医学書院、2017 その他、適宜紹介する。		
参考文献	授業参加態度 30%、課題のプレゼンテーション 20%、課題のレポート 50%により総合的に評価する。		
評価方法	・授業実施方法：対面授業		
その他			

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論 II	学期	秋学期
担当教員	教授 大谷美樹	選択/必修	選択
科目コード	I 7070101	授業形態	講義
	がんの臨床経過や発達段階、療養の場におけるがん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題を理解し、解決に向けた看護実践方法を探究する。	単位数	2
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> がんの臨床経過や発達段階、療養の場におけるがん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題を理解できる。 がん患者とその家族、がんサバイバーを理解、支援するための新しい知見を理解できる。 がん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題の解決に向けた看護実践方法を探究できる。 		
	回数	内容	
	1	診断期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	2	診断期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	3	治療期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	4	治療期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	5	進行・再発期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	6	進行・再発期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	7	がん患者のエンド・オブ・ライフケア (1)	
	8	がん患者のエンド・オブ・ライフケア (2)	
	9	がん患者の在宅看護	
	10	がん患者の意思決定支援	
	11	がん患者の家族看護	
	12	グリーフケア	
	13	がんサバイバーシップと看護	
	14	小児・AYA 世代がん患者と看護	
	15	全体を通してのディスカッション・まとめ	
	特に指定しない		
テキスト	適宜、紹介する		
参考文献	授業参加態度 30%、課題のプレゼンテーション 40%、プレゼンテーションの論点と対応力 30%により総合的に評価する。		
評価方法	・授業実施方法：対面授業 ・学生は先行研究をもとに資料を作成し、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。		
その他			

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070102	授業形態	講義
授業の概要	<p>1. 精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。</p> <p>2. 精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探求し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。</p> <p>3. 身体的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。</p>		
	回数	内容	担当
	1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	
	2	精神力動論の理解と看護への適用	
	3	自我発達理論の理解と看護への適用	
	4	精神科臨床におけるセルフレケア理論の活用	
	5	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (統合失調症)	
	6	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (感情障害)	
	7	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (不安障害・PTSD)	
	8	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (アディクション)	
	9	精神科における主な治療と課題	大森
	10	理論と実践の統合：対象関係論	
	11	理論と実践の統合：精神分析	
	12	理論と実践の統合：集団療法	
	13	理論と実践の統合：認知行動療法	
	14	事例検討①-対象理解と自己理解	
	15	事例検討②-対象理解と自己理解	
テキスト	<p>ルイス・アロン著 横井公一監訳：こころの出会い-精神分析家としての専門技能を習得する-。金剛出版</p> <p>松木邦裕：対象関係論的心理療法入門。金剛出版</p>		
参考文献	<p>B.J.Sadock & V.A.Sadock (2005/2015).井上令一(監訳).カブラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版).メデイカル・サイエンス・インターナショナル.</p> <p>笠井清登(編).2020.講座精神疾患の臨床 統合失調症.中山書店.</p> <p>神庭重信(編).2020.講座精神疾患の臨床 気分障害.中山書店.</p>		
評価方法	<p>[レポート・学習成果物] 60% (レポートオロオに蓄積された学習成果物)</p> <p>[受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)</p>		
その他	<p>課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。</p>		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 II	学期	秋学期
担当教員	教授 石橋照子 教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070103	授業形態	講義・演習
授業の概要	<p>1. 精神保健福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、精神保健福祉と精神医療の今日的課題と今後の展望について探求する。</p> <p>2. 社会資源としての関係法規を理解する。</p> <p>3. 精神科リハビリテーションからリカバリーまで精神障害を持つ人の支援に関する諸理論を理解する。</p> <p>4. 精神障害を持つ人の退院促進と地域生活促進に向けた支援を探求する。</p>		
	回数	内容	担当
	1	オリエンテーション 学習内容と課題・目標の設定	
	2	精神保健福祉の制度と体制の変遷	
	3	精神保健福祉に関する法律と今後の課題	
	4	精神保健福祉及び精神医療における最近のトピックス	
	5	社会資源としての関係法規 (障害者総合支援法、障害者の雇用促進に関する法律など)	
	6	精神科リハビリテーションの理解精神科リハビリテーションの方法と展開	石橋
	7	エンパワメント理論	
	8	ストレングスモデル	
	9	リカバリーの概念	
	10	精神障害を持つ人の訪問看護	
	11	精神障害を持つ人の就労支援	
	12		
	13	これまでに学んだ方法を用いて、事例検討し包括的アセスメントと援助の方向性を	石橋・大森
	14	レポートにまとめる。	
	15		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	<p>リバーマン実証的精神科リハビリテーション：R.P.リバーマン編 安西信雄・池淵恵美 (監訳)、創造出版、2005</p> <p>精神保健医療福祉白書 2018/2019～多様性と包括性の構築：精神保健医療福祉白書編集委員会、中央法規出版、2018</p> <p>ICF (国際生活機能分類) の理解と活用 一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか：上田敏、明文社、2005</p> <p>これからの保健医療福祉行政論：星且二・麻原きよみ編集、日本看護協会出版会、2022</p> <p>ストレングスモデル-リカバリー志向の精神保健福祉サービス：チャールズ・A.ラップ、リチャ</p>		

	ード・J. ゴスチャヤ(著)、田中 英樹(監訳)、金剛出版、2014 リカバリ——希望をもたらすエンパワーメントモデル：カタナ・ブラウン、坂本明子、金剛出版、2012
評価方法	〔レポート・学習成果物〕 60% (レポートフォリオに蓄積された学習成果物) 〔受講態度〕 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) 〔プレゼンテーション〕 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)
その他	

科目分類	専門科目 (専門領域)		対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅰ		学期	春学期
担当教員	教授 梶谷みゆき		選択/必修	選択
科目コード	I7070104	授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	慢性疾患を有し地域や高齢者施設で療養する高齢者の自己管理やリハビリテーションにおける主要な概念や理論を学ぶ。さらに、慢性疾患を有する高齢者と家族への療養支援の現状と課題を整理し、療養支援や高齢者リハビリテーション看護における看護者の役割を探求する。			
	回数	内容		
	1	ガイダンス、地域で暮らす高齢者の健康支援の現状		
	2	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (1)		
	3	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (2)		
	4	生涯発達理論を基盤とする事例検討		
	5	高齢者学習の理論 (1)		
	6	高齢者学習の理論 (2)		
	7	高齢者学習を基盤とする事例検討		
授業の内容	8	地域で暮らす高齢者の健康意識 (1)		
	9	地域で暮らす高齢者の健康意識 (2)		
	10	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (1) 概観		
	11	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (2) 有効性と課題		
	12	ヘルスリテラシーの概念		
	13	ヘルスリテラシーと健康教育		
	14	地域で暮らす高齢者の健康支援の成果と課題		
	15	まとめ 地域で暮らす (療養支援を含む) 高齢者の健康支援と看護者の役割		
テキスト	特に指定しない			
参考文献	授業中に紹介する			
評価方法	学生が担当する学習課題に対する準備内容とプレゼンテーション、討議後のリフレクション (40%) 授業への参加姿勢、各回の学習課題に対する事前学習、討議内容 (30%) 科目最終レポート (30%) 計 100 点満点で評価する。			
その他	高齢者の地域療養生活を支える医療・福祉の現状と課題について、中山間地域における島根県の視野で捉え、看護の観点から課題解決するための具体的な方策を探求することを最終的な目標としている。 特に地方特有の健康に関する価値観や地域の特性を加味しそこに含まれている高齢者ケアやリハビリテーションの意味について分析する。そのような観点で高齢者ケアに関わる最新情報を事前に捉えておいて欲しい。			

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ	学期	後 (秋学)
担当教員	教授 根谷みゆき	選択/必修	選択
科目コード	17070105	単位数	2
授業の概要	<p>認知機能障害や運動機能障害により生活機能の低下を有する高齢者に対する回復期リハビリテーション看護と生活自立支援における主要な概念や理論を学修する。生活機能の低下を有する高齢者と家族に対する回復支援や退院支援における課題を明らかにし、課題解決のための看護実践とチーム医療における調整のあり方を探求する。</p>		
回数	内容		
1	ガイダンス 生活機能低下を有する高齢者の退院支援ならびに回復期リハビリテーション看護の現状		
2	療養生活をおくる高齢者と家族の特性とケアニーズ (健康観・老年観・療養観・看取り観)		
3	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (1) ICF		
4	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (2) コンフォート理論		
5	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (3) 協働的パースペクティブ・ナーシング理論		
6	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (4) 障害受容/障害の理解と支援に必要な理論 (5)		
7	回復期リハビリテーションをうける高齢者と家族の理解と支援に必要な理論 (6) 家族システム理論		
8	回復期リハビリテーションをうける高齢者と家族の理解と支援に必要な理論 (6) 家族システム理論の展開		
9	運動麻痺を有する高齢者と家族に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
10	失語症を有する高齢者と家族に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
11	高次脳機能障害を有する高齢者に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
12	事例検討		
13	運動器疾患 (骨折・変形性関節症等) を有する高齢者のリハビリテーション看護の実践と評価		
14	事例検討		
15	まとめ 高齢者回復期リハビリテーションの現状と看護者に求められる役割		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業中に紹介する		
評価方法	担当する学習課題に対する準備とプレゼンテーション、討議後のリフレクション (40%) 授業への参加姿勢、各回の学習課題に対する事前学習、討議内容 (30%)、科目最終レポート (30%) 計100点満点で評価する。		
その他	高齢者の生活機能に大きく影響を及ぼす代表的疾患を取り上げ、文献等最新知見を活用し科学的根拠に基づいた看護アセスメントとケア、評価方法を探求する。この領域あるいは周辺領域の看護ケアのトピックスや各疾患の最新治療ガイドラインなどに日常的に目を通すようにしておくこと。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵 教授 谷口敏代 教授 小田美紀子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	<p>【授業の目的】 ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究できる。</p> <p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる。 2. 我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる。 3. 出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 4. 成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 5. 健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる。 		
回数	内容		
1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念		
2	人間の発達や健康に関わる因子		
3	出産や育児を取り巻く健康課題からみた健康課題と保健施策の変遷		
4	親子 (母子) 保健活動と保健行政の体系		
5	学校保健行政の構造と性教育		
6	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション		
7	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系		
8	介護予防とヘルスプロモーション		
9	介護保険制度と地域包括ケアシステム①		
10	介護保険制度と地域包括ケアシステム②		
11	生活再構築のための保健・医療・福祉の連携と協働*		
12	食育と口腔保健		
13	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ*		
14	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*		
15	まとめ		
テキスト	必要に応じて提示する。		
参考文献	<p>[コミュニティ・アズ・ナンバー・ワン] 編集:エリカ・バスター、T. カザー/ダグ・バスター/マカフィー、医学書院 [地域づくり型保健活動のすすめ] 著:岩永俊博、医学書院 [実践ヘルスプロモーション] 著:ロリス W. グリン/マツコ W. 加伊、医学書院 [地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修:佐々木明子、他、丸善出版 [統・地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修:佐々木明子、他、丸善出版 [国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会</p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>		

評価方法	筆記試験 50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。 <ul style="list-style-type: none"> この科目は、遠隔授業として開講する。 課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・集団・組織・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの観点から健康づくりを探究するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンハンスメントを関連づけて捉えてほしい。
その他	

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、教授 山下一也、講師 小川智子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2
目的・目標	<p>【授業の目的】 人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題を理解し、我が国の保健・医療に関する分析や疫学研究の成果をもとに、地域に根ざした保健医療と人々の生活実態に即した理論的な実践方法について探求する。</p> <p>【授業の目標】 1. 人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題を理解できる 2. 健康行動の主な理論や概念の概要が説明できる 3. 地域に根ざした保健・医療と人々の生活実態に即した理論的な実践方法について探求できる</p>		
	回数	内 容	担当
	1	人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題	山下
	2	健康行動における代表的な理論の変遷と健康課題	小川
	3	個人レベル・個人間レベルの理論とモデル ヘルスピリーフモデル/合理的行動理論・計画的行動理論/ナッジ理論 など	吾郷
	4	個人間レベルの理論とモデル トランスセオロテイカルモデル/予防行動採用モデル社会的認知理論 など	吾郷
	5	集団およびコミュニティレベルの理論とモデル コミュニティ・エンゲージメント/デジタルヘルス/イノベーション普及理論/ ヘルスコミュニケーション理論/PRECEDE-PROCEED モデル など	小川
	6	課題解決実践例 生活習慣病① 高血圧・糖尿病	小川
	7	課題解決実践例 生活習慣病② がん対策	小川
	8	課題解決実践例 認知症	山下
	9	課題解決実践例 精神保健	吾郷
	10	課題解決実践例 発達障がい	山下
	11	課題解決実践例 難病	山下
	12	課題解決実践例 感染症	吾郷
	13	課題解決実践例 児童虐待	吾郷
	14	課題解決実践例 多文化共生・多様性	小川
	15	まとめ	吾郷・小川
テキスト	必要に応じて提示する。		
参考文献	一般社団法人日本健康教育学会編 (2019)；健康行動理論による研究と実践 医学書房 畑・栄一，土井由利子編 (2009)；行動科学 健康づくりのための理論と応用 改訂第2版 南江堂 国立保健医療科学院；一目でわかるヘルスプロモーション 理論と実践ガイドブック ヘルスケア総合政策研究所；医療白書 2020・2021 厚生労働省令；令和3年度版厚生労働白書		
評価方法	プレゼンテーション 60%、参加状況 40%により総合的に評価する		
その他	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、遠隔授業として開講する。 課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 ハイリリスクアプローチの観点から健康づくりを探究し、課題解決実践例を基礎となる理論と関連づけ 		

で捉えてほしい。
 • 6～14回のうち、一人2テーマを担当してプレゼンテーションを行い、ディスカッションにより理解を深める。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	ウイメンズヘルズ看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦幸吉 准教授 井上千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	女性の生涯における健康課題に関する、アセスメント・診断能力を高めるための主要な理論および概念を学修する。これらの理論や評価尺度を用いた看護研究から導かれる科学的根拠を学習し、母子の看護実践への活用方法を探究する。		
授業の内容	回数	内容	担当者
	1	ガイダンス 女性の生殖機能の発達と健康課題	秦
	2	女性の生涯における発達課題	井上
	3	女性の健康とヘルスプロモーション	藤田
	4	女性の健康とリプロダクティブヘルズ・ライツ	藤田
	5	女性の健康とセクシュアリティ	井上
	6	女性の健康と理論：母性論	井上
	7	女性の健康と理論：危機理論	藤田
	8	女性の健康と環境	秦
	9	女性の健康とメンタルヘルズ	藤田
	10	女性の健康課題と支援：健康生活と食事	秦
	11	女性の健康課題と支援：思春期・青年期	中谷
	12	女性の健康課題と支援：プレコンセプション	藤田
	13	女性の健康課題と支援：成熟期	井上
	14	女性の健康課題と支援：更年期	中谷
	15	まとめ	藤田
テキスト	特に指定しない 授業中に紹介する		
参考文献	日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編、産婦人科診療ガイドライン 産科編2014. 村本淳子他編集、ウイメンズヘルズナースニング概論第2版、ヌーベルヒロカワ、2011.		
評価方法	[レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)		
その他	・授業実施方法：遠隔授業 課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	秦幸吉 藤田小矢香 ○井上千晶 中谷陽子 非常勤講師 比良静代	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要
 女性と家族・子どもとのライフサイクルにおける多様な健康状態と社会背景を含むその影響要因を理解し、地域における女性と家族・子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスケアシステムと科学的根拠に基づいた看護方法を探求する。

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：受胎調節の意義と方法	井上
2	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：骨盤底機能不全	井上
3	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：女性の生活習慣病	中谷
4	女性と子どもの健康：子どもの成長・発達に影響を及ぼす養育環境	井上
5	女性と子どもの健康：災害時における母子の看護	中谷
6	女性と子どもの健康：シングルマザーの現状と支援	比良
7	女性と子どもの健康：非婚シングルマザーへの看護	比良
8	女性と子どもの健康：男をなくした女性への看護	井上
9	女性医療ケアにおける最新知識：女性のエイジングと卵巣機能	秦
10	女性医療ケアにおける最新知識：生殖補助医療の進歩と今日的課題 出生前診断と遺伝	秦
11	女性医療ケアにおける最新知識：出生前診断を受ける女性と家族への看護	井上
12	女性医療ケアにおける最新知識：子宮頸がんワクチンの効用と課題	秦
13	女性医療ケアにおける最新知識：ドメスティックバイオレンス (DV)	藤田
14	女性医療ケアにおける最新知識：在日外国人女性の健康課題	井上
15	全体を通しての総論・まとめ	藤田 井上 中谷

テキスト	特に指定しない
参考文献	適宜文献・図書を紹介する。 村本淳子他編集、ウイメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護第2版、スーベレヒロカワ、2011。 共同通信社社会部編、「わが子よー出生前診断、生殖医療、生みの親、育ての親」、現代書館、2014。
評価方法	[レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)
その他	・授業実施方法：遠隔授業

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 准教授 川瀬淑子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	単位数	2
授業の概要	[目的] 看護基礎教育、臨床で教育を担う看護者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向けて考察する。 [目標] ① 看護教育の歴史の変遷を学び、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。 ② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動 (模擬授業) を展開できる。	担当	岡安 岡安 岡安 岡安 岡安 岡安 川瀬 川瀬 川瀬 岡安 岡安 岡安・川瀬 岡安・川瀬 岡安・川瀬 岡安・川瀬 岡安・川瀬
回数	内容	担当	月日
1	【講義】ガイダンス・看護教育の意義と目的	岡安	
2	【講義】カリキュラムの変遷からみた今日の看護基礎教育と卒後教育	岡安	
3	【講義】看護教育制度、関連法規	岡安	
4	【演習】授業展開・授受活動に活用される理論 (1) プレゼンテーション	岡安	
5	【演習】授業展開・授受活動に活用される理論 (2) プレゼンテーション	岡安	
6	【講義】継続教育における現状と課題	川瀬	
7	【講義・演習】アクティブラーニング (1)	川瀬	
8	【講義・演習】アクティブラーニング (2)	川瀬	
9	【講義・演習】インスタグラム・ソーシャルデザイン (1)	岡安	
10	【講義・演習】インスタグラム・ソーシャルデザイン (2)	岡安	
11	【演習】模擬授業とリフレクション (1)：準備	岡安・川瀬	
12	【演習】模擬授業とリフレクション (2)：準備	岡安・川瀬	
13	【演習】模擬授業とリフレクション (3)：実施 [集中]	岡安・川瀬	
14	【演習】模擬授業とリフレクション (4)：実施 [集中]	岡安・川瀬	
15	【演習】模擬授業とリフレクション (5)：リフレクション [集中] リフレクションに関する発表・まとめ	岡安・川瀬	

テキスト	杉森みどり、舟島なをみ (2021)：看護教育学 第7版、医学書院
参考文献	杉森みどり 監訳 (2003)：エビデンスに基づく看護学教育、医学書院 グレッグ美鈴、池西悦子 (2009)：看護教育学、南江堂 適宜、授業内で紹介する。
評価方法	[レポート] 30% (最終レポート：その他に概要を記載) [模擬授業の成果] 30% (第11回～第15回の模擬授業とリフレクション) [プレゼンテーション] 20% (第4回課題および抄読のプレゼンテーション) [授業への参加] 10% (授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力への行動)

	<ul style="list-style-type: none"> ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法（資料）等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 ・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「連隔授業」とする。
その他	

科目分類	看護教育学特論 II		対象学年	1
授業科目	看護教育学特論 II		学期	秋学期
担当教員	○教授 岡安誠子	准教授 川瀬波子	選択/必修	選択
科目コード		授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	<p>[目的] 教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。学生参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法、シミュレーション教育を通して実践的学習をコーディネートする方法を探究する。</p> <p>[目標]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護教育の特徴とその評価法、教授-学習過程の構造、学生参画型授業とその教授法について説明できる。 ② 自己教育力の育成とその評価法について探究し、意見を述べることができる。 ③ シミュレーションの授業設計や評価を学修し、具体的な方法について検討できる。 ④ 専門職としての倫理観、臨床判断能力を含めた看護教育上の課題を明らかにし、教育的方策について考察できる。 			
回数	内容		担当者	月日
1	【講義】 ガイダンス・看護教育における方法論概説		岡安	
2	【講義】 実習教育法		岡安	
3	【講義】 協同学習法		岡安	
4	【講義】 参画型授業とその教授法 (1) カードメソッド [集中]		岡安・川瀬	
5	【演習】 参画型授業とその教授法 (2) カードメソッド [集中]		岡安・川瀬	
6	【演習】 参画型授業とその教授法 (3) カードメソッド [集中]		岡安・川瀬	
7	【演習】 参画型授業とその教授法 (4) カードメソッド [集中]		岡安・川瀬	
8	【講義】 シミュレーション教育 (1) 構造と理論・シナリオ設計と教育技法		川瀬	
9	【講義】 シミュレーション教育 (2) 評価とフィードバック・学習環境のデザイン		川瀬	
11	【演習】 シミュレーション教育 (3) シミュレーション教育設計の実践 [集中]		川瀬・岡安	
12	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の発表 [集中]		川瀬・岡安	
13	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の評価 [集中]		川瀬・岡安	
14	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (1) プレゼンテーション		岡安・川瀬	
15	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (2) プレゼンテーション		岡安・川瀬	
テキスト	杉森みどり、舟島なをみ (2021) : 看護教育学第7版、医学書院			
参考文献	舟島なをみ：看護教育学研究 第2版 発見・創造・証明の過程、医学書院、2010。 適直、授業内で紹介する。 女酸史子：経験型実習教育：看護師をばぐむ理論と実践、医学書院、2015 阿部幸恵：臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育、医学書院、2013。			

評価方法	<p>[レポート] 50% (最終レポート：その他に概要記載)</p> <p>[プレゼンテーション] 30% (第13回～第14回のシミュレーション教育設計のプレゼンテーション)</p> <p>[授業への参加度] 20% (授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力への行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 ・第14回・第15回は、履修生を中心とした「自己教育力」に関する抄読発表を行う。 ・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「速隔授業」とする。
その他	

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	専門演習 (ウイメンズヘルス看護学領域)	学期	秋学期
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦 幸吉 准教授 井上 千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	I7070112 授業形態 演習	単位数	2
授業の概要	女性のライフサイクルおよび周産期母子が抱える健康課題に対して看護実践を行い、アセスメント方法および評価の妥当性を検討する。		
	回数	内容	
	1	ガイダンス、フィールドワークの計画立案	
	2	フィールドワークの計画立案①	
	3	フィールドワークの計画立案②	
	4	フィールドワークの実践①	
	5	フィールドワークの実践②	
	6	フィールドワークの実践③	
	7	フィールドワークの実践④ 中間検討会	
	8	フィールドワークの実践⑤	
	9	フィールドワークの実践⑥	
	10	実践した看護の検討① 理論を用いた事例分析とアセスメント	
	11	実践した看護の検討② 生理的指標や評価尺度を用いてアセスメントの妥当性の検討	
	12	実践した看護を評価し、看護実践の現状と課題について考察	
	13	フィールドワークのまとめ①	
	14	フィールドワークのまとめ②	
	15	フィールドワークのまとめ③	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	以下の内容を総合的に評価する。 [レポート・プレゼンテーション] 80% (演習計画書・事例展開記録・課題レポート、実践報告など) [演習への参加度] 20% (毎回の授業への取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッション内容) ・授業実施方法：対面授業(ただし状況により速隔授業となる場合は事前に伝える) 演習場所：産科・更年期外来・不妊外来を併設する病産院、地域の健康教室などから学習目的や内容に合わせて選択する。 演習期間：学生と相談の上、個別に設定する		
その他			

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	専門演習 (がん看護学)	学期	後期
担当教員	○教授 大塚美樹 教授 森山 美香	選択/必修	必修
科目コード	I7070108	授業形態	演習
授業の概要	<p>1. 特別研究の予備段階として、がん看護学特論Ⅰ・Ⅱで学修した内容を踏まえて、演習の計画を立てることができる。</p> <p>2. 計画を実践し、データ収集、分析、考察を通して、看護実践への学びを整理することができる。</p>		
	回数	内容	
	1	ガイダンス、フィードバックの計画立案 (1)	
	2	フィードバックの計画立案 (2)	
	3	フィードバックの計画立案 (3)	
	4	フィードバックの実践 (1)	
	5	フィードバックの実践 (2)	
	6	フィードバックの実践 (3)	
	7	フィードバックの実践 (4)	
	8	フィードバックの実践 (5)	
	9	フィードバックの実践 (6)	
	10	データ分析 (1)	
	11	データ分析 (2)	
	12	分析結果の考察 (1)	
	13	分析結果の考察 (2)	
	14	実践の報告	
	15	リフレクションと課題の明確化	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<p>以下の内容を総合的に評価する。</p> <p>[レポート]50% (演習計画書・事例展開記録・課題レポート)</p> <p>[演習の取組]30% (毎回の授業への取り組み姿勢、ディスカッション、課題への気づき)</p> <p>[プレゼンテーション]20%</p>		
その他	<p>・授業実施方法：内容と進捗状況により対面または遠隔授業とする。</p> <p>・演習場所：学習目的や内容に応じて選択する。</p> <p>・演習期間：学生と相談の上、個別に設定する。</p>		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	専門演習 (精神看護学領域)	学期	秋学期
担当教員	教授 大森眞澄 教授 石橋照子	選択/必修	必修
科目コード	I7070109	授業形態	演習
授業の概要	<p>1. 特別研究の予備段階として、精神看護学特論Ⅰ・Ⅱにおいて学修した内容を活かし、フィードバック案を企画する。</p> <p>2. 企画したフィードバックを実践し、データ収集、分析、考察し、今後の看護実践及び特別研究に活かせるようまとめる。</p>		
	回数	内容	
	1	フィードバックの企画・評価方法の検討 (1)	
	2	フィードバックの企画・評価方法の検討 (2)	
	3	フィードバック先及び対象への依頼と同意 (1)	
	4	フィードバック先及び対象への日程調整 (2)	
	5	フィードバックの実践・データ収集 (1)	
	6	フィードバックの実践・データ収集 (2)	
	7	フィードバックの実践・データ収集 (3)	
	8	フィードバックの実践・データ収集 (4)	
	9	フィードバックの実践・データ収集 (5)	
	10	フィードバックの実践・データ収集 (6)	
	11	データ分析 (1)	
	12	データ分析 (2)	
	13	分析結果の考察・まとめ (1)	
	14	分析結果の考察・まとめ (2)	
	15	全領域合同の実践報告会	
テキスト	佐藤部誠：フィードバック増訂版一書を持って街へ出ようー新編社		
参考文献	授業中に紹介する		
評価方法	<p>以下の内容を総合的に評価する。</p> <p>[レポート] 50% (演習計画書・事例展開記録など・課題レポートの内容)</p> <p>[演習への取組] 30% (毎回の授業への取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 20%</p>		
その他	<p>演習場所：精神科救急病棟、精神科外来・訪問看護、精神科ダイケア、精神科作業所など</p> <p>演習期間：学生と相談の上、個別に設定する</p>		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	専門演習 (高齢者リハビリテーション/看護学領域)	学期	秋学期
担当教員	教授 梶谷みゆき	選択/必修	必修
科目コード	I7070110	授業形態	演習
		単位数	2
授業の概要	<p>1. 複合的かつ複雑な健康課題や生活上の課題を有する高齢療養者とその家族を対象に、生活機能の維持・改善と高齢者の尊厳保持、高齢者と家族の安寧を図る看護を実践する。</p> <p>2. 医療チーム内や家族との調整力、高齢者と家族に対する教育指導や権利擁護など、看護者として求められる役割遂行における基礎力を学修する。</p> <p>3. 看護実践のアウトカム評価ならびに関係者との討議やフィードバックを通して、看護実践者としての自らの課題を明確にする。</p> <p>4. 高齢者リハビリテーション看護の現状と課題を整理する。</p>		
回数	内容		
1	ガイダンス、フィードワークの計画立案 (1)		
2	フィードワークの計画立案 (2)		
3	フィードワークの計画立案 (3)		
4	フィードワークの実践 (1)		
5	フィードワークの実践 (2)		
6	フィードワークの実践 (3)		
7	フィードワークの実践 (4) ※中間を含め複数回カンファレンスや事例検討会を開催する		
8	フィードワークの実践 (5)		
9	フィードワークの実践 (6)		
10	フィードワークのまとめ		
11	フィードワークのまとめ		
12	実践した看護の検討 (理論に基づいた事例分析とアセスメントの妥当性)		
13	実践した看護の検討 (高齢者および家族に対するリハ看護として必要なケアと評価)		
14	実践した看護の検討 (医療チームでの調整の実践と看護者に求められる役割の明確化)		
15	報告：実践した看護の成果と課題		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<p>以下の内容を総合的に評価する。</p> <p>[レポート] 40% (演習計画書、事例展開記録など・課題レポートの内容)</p> <p>[演習への取組] 50% (毎回の授業への取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 10%</p>		
その他	<p>演習場所：急性期病院、回復期リハビリテーション病院、介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、訪問看護ステーション、地域包括支援センターなどから学習目的ならびに内容によって選択する。</p> <p>フィードワークの期間：学習内容に従い学生と相談の上決定する。</p>		

科目分類	専門演習 (地域保健学領域)		対象学年	1
授業科目	教授 吾郷美奈恵、教授 谷口敏代、教授 山下一也、教授 小田美紀子、講師 小川智子		学期	秋学期
担当教員	教授 小田美紀子、講師 小川智子		選択/必修	選択
科目コード	授業形態	演習	単位数	2
授業の概要	<p>【授業の目的】 地域で展開されている保健活動と地域特性を理解して地域診断を行い、地域の健康課題解決のための実践力を修得する。また、地域特性を理解し、地域特性に応じた課題解決を追求するとともに健康な地域づくりについて考察する。</p> <p>【授業の目標】 1. 個人・家族・集団を対象とした保健活動と地域特性を理解し、地域診断ができる。 2. 地域の健康課題解決に向けた保健活動に参加し、実践力を修得する。 3. 地域特性に応じた健康課題解決のための健康な地域づくりが探求できる。</p>			
回数	内容			
1	フィードワーク I：地域診断			
1	島根県とフィードワークの施策と地域保健活動、医療保健福祉サービス、支援環境の整備、個人技術 (life skill) の向上に関わる取り組みや動向と現状について、理論やモデルを用いて情報を収集・分析し、健康課題について検討する。			
5	中間報告			
6	フィードワークの指導者や関係者に地域診断についてプレゼンテーションし、ディスカッションを通して地域診断の妥当性を検討するとともに、地域特性を追求する。			
7	フィードワーク II：健康相談と保健指導			
1	フィードワークで展開されている健康相談や保健指導の実際に参加するとともに、複雑困難事例のケアシステムを追求する。			
10	フィードワーク III：組織育成			
11	地域の活性化に影響する主体的な住民参加と組織育成を視野においた活動の実践を学び、住民が参画し、多職種多機関・施設・団体と連携・協働しながら健康な地域づくりに向けたコーデイネート力について探求する。			
14	実践報告			
15	健康な地域づくりを目指し、優れた公衆衛生看護の実践家としての役割やスキルを追求する。			
テキスト	<p>コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実践 編集：エリザベス T. アンダーソン/ジュディス・マクファアレーン 監訳：金川 克子/早川 和生</p> <p>授業中に紹介する。</p>			
参考文献	以下の内容を総合的に評価する。			
評価方法	<p>[レポート] 50% (演習計画書・事例展開記録など・課題レポートの内容)</p> <p>[演習への取組] 30% (毎回の授業への取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 20%</p>			
その他	<p>この科目は、内容により対面と遠隔授業を選択して行うので、指導教員に報告・相談しながら、主体的に取り組むこと。</p> <p>・演習の展開に先立ち、指導教員の指導を受けながら演習計画を策定し、演習計画書を立案すること。</p>			

・・・フェイールドワークの展開にあたり、災害障害保険および損害保険に加入しておくこと。

科目分類	専門科目 (専門領域)		対象学年	1
授業科目	専門演習 (看護教育学領域)		学期	秋学期
担当教員	○教授 岡安 誠子	准教授 川瀬淑子	准教授 高橋梢子	選択/必修
科目コード		授業形態	演習	単位数
授業の概要	<p>[目的] 看護教育学に関連する研究論文を中心に文献精読と討議、フェイールドワークによる教育実践とリフレクションを通して、研究課題に必要な主要な概念や研究方法を学修・検討するための演習を行う。</p> <p>[目標]</p> <p>①看護教育の現状と課題、看護教育に関する研究の動向と課題について説明できる。</p> <p>②看護教育における基本的概念や研究方法を現象に照らして分析的に学修・検討できる。</p> <p>③文献検討などを通して、演習課題と具体的なフェイールドワークに向けた方略について計画立案することができる。</p> <p>④フェイールドワークを、計画に沿って遂行することができる。</p> <p>⑤フェイールドワークの結果を記述・分析することで研究課題への示唆を示すことができる。</p>			
	内容			
授業の内容	<p>1 ガイダンス：授業の内容と進め方 フェイールドワーク (授業の実践) の計画立案に関する説明</p> <p>2～4 各自の教育および研究課題と演習計画をプレゼンテーションし、討議する。</p> <p>5～12 各自の学習計画に沿って看護教育に関連する研究論文について講読と討議を行い、看護教育に関する研究の動向と課題、看護研究に関する研究方法などを分析的に考察する。 フェイールドワーク：看護教育における課題について、演習や実践における実践を通して具体的に学ぶ。</p> <p>13～14 演習や実践における実践からの学びを、研究課題や方向性の明確化に活用する。</p> <p>15 報告会</p> <p>特に指定しない</p> <p>適宜紹介する</p> <p>以下の内容を総合的に評価する。 [レポート] 50% (演習計画書・課題レポートの内容) [演習への取り組み] 30% (取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッションへの参加) [報告会] 20% (報告内容、作成資料、質疑応答も含めた発表内容) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法 (資料) 等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。</p> <p>・演習の進め方の詳細は、ガイダンスで示す。ガイダンスは、特別研究Ⅰの夏季セミナーと併せて実施する。</p> <p>・演習計画の発表は、10月末までに実施する。</p> <p>・演習場所は、自己の演習課題によって選定する。</p> <p>・原則、授業は「遠隔授業」とする。</p>			
テキスト				
参考文献				
評価方法				
その他				

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ (ウィメンズヘルス看護学領域)	学期	通年
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦 幸吉 准教授 井上 千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	I7070208	授業形態	演習
授業の概要	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに、各自の関心領域における看護ケア実践の現状と課題について文献検討を行い、研究課題を絞り込む。 課題に応じた研究方法・分析方法等を検討し、研究計画書を立案する。		
	回数	内容	
	1	研究動機と関心を明確化	
	2	研究課題に関する国内外の文献クリティーク	
	3	研究課題に関する国内外の文献クリティーク	
	4	研究課題に関する国内外の文献クリティーク	
	5	研究課題とテーマを絞り込み	
	6	研究疑問に基づき研究の枠組を検討	
	7	フィードバックの選択	
	8	データ収集方法の検討	
	9	分析方法の検討	
	10	研究計画書作成	
	11	研究計画書作成	
	12	研究手法のトレーニング	
	13	研究手法のトレーニング	
	14	研究手法のトレーニング	
	15	研究倫理審査を受け、研究計画書の修正	
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	[課題の内容、課題探求の姿勢、プレゼンテーションの適切さ] 40% [研究計画書の作成] 60%		
その他	・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える)		

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ (がん看護学領域)	学期	通年
担当教員	○教授 大谷美樹 教授 森山美香	選択/必修	必修
科目コード	I7070200	授業形態	演習
授業の概要	がん看護領域において関心のある研究課題について研究計画書作成し、看護研究に必要な基礎的能力を修得する。 1. がん看護に関する国内外の研究の動向を把握する。 2. 研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にする。 3. 研究課題を明らかにするための研究方法を検討する。 4. 研究目的と研究方法が整合した研究計画書を作成する。 5. 研究倫理指針に則り、適切な倫理的配慮を記載できる。		
	回数	内容	
	1	研究動機や関心テーマの明確化	
	2	関心テーマについて国内外の文献検討	
	3	関心テーマについて国内外の文献検討	
	4	関心テーマについて国内外の文献検討	
	5	関心テーマについて国内外の文献検討	
	6	文献検討のまとめと研究課題の明確化	
	7	研究課題に適した研究方法の検討	
	8	フィードバックを通して研究課題と研究方法の検討	
	9	分析方法の検討	
	10	研究における倫理的配慮	
	11	研究計画書の作成	
	12	研究計画書の作成	
	13	研究手法のトレーニング	
	14	研究手法のトレーニング	
	15	研究倫理審査を受け、研究計画書の修正する	
テキスト	D.F. ボーリット/C.T. ベック, 監訳:近藤潤子 (2010) 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院		
参考文献	ハンズ, グローブ, グレー, 監訳: 黒田裕子他 (2016) 看護研究入門 評価・統合・エビデンスの生成 第7版, ELSEVIER その他 適宜紹介する。		
評価方法	プレゼンテーションや討論への参加状況、研究計画書の作成過程を総合的に評価する。		
その他	・授業実施方法：内容と進捗状況により対面または遠隔授業とする。		

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ (精神看護学領域)	学期	通年
担当教員	教授 石橋照子 教授 大森眞澄	選択/必修	必修
科目コード	I7070201	授業形態	演習
授業の概要	精神看護学特論Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに、精神看護学領域でまだ明らかになっていない現象や課題を選択し、研究課題の明確化を図る。 課題に関して適切な研究方法を選定し、研究計画書を立案する。 研究計画に関して研究倫理審査委員会の承認を得る。		
	内容		
授業の内容	<p>1. ガイダンス</p> <p>2～3. 研究課題の探索</p> <ul style="list-style-type: none"> 文献検討を踏まえてプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して研究課題の明確化を行う。 <p>4～5. 研究論文のクリティーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題に関連する国内外の研究論文のクリティークを行い、研究状況を明らかにする。 <p>6. 研究課題の明確化と概念枠組み作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ディスカッションしたり図示しながら、概念枠組みを焦点化し、研究課題の明確化を図る。 <p>7～8. 研究方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題に関して適切な研究デザイン並びに研究方法を選定する。 <p>9～10. データ収集・分析方法の習熟</p> <ul style="list-style-type: none"> データ収集並びにデータ分析の方法について、適宜習熟するための学習を行う。 <p>11～15. 研究計画書の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究課題にもとづいて研究計画書を作成する。 研究倫理審査を受け、研究計画書を修正する。 <p>D. F. ポーリット/C. T. ベック, 監訳: 近藤 潤子 (2010) 看護研究 原理と方法 第2版, 医学書院</p>		
テキスト			
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	[課題の内容、課題探求の姿勢、プレゼンテーションの適切さ] 40% [研究計画書の作成] 60%		
その他			

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ (高齢者リハビリテーション看護学領域)	学期	通年
担当教員	教授 梶谷みゆき、	選択/必修	必修
科目コード	I7070202	授業形態	講義
授業の概要	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅰ・Ⅱで学んだことをもとに、各自の関心領域における看護実践の現状と課題について文献検討を行い、研究課題を絞り込む。 研究課題に応じた研究方法 (対象やデータ収集、分析方法等) を検討し、研究計画書を作成する。 研究方法の適用可能性の検討やインタビュー等のデータ収集におけるトレーニングを行い、研究計画の精度を高める。		
	内容		
授業の内容	<p>回数</p> <p>1 研究疑問から研究課題への整理</p> <p>2 研究課題に関する国内外の文献クリティーク</p> <p>3 研究課題に関する国内外の文献クリティーク</p> <p>4 研究課題に関する国内外の文献クリティーク</p> <p>5 研究課題の絞り込み</p> <p>6 研究課題の明確化ならびに研究デザインの検討</p> <p>7 研究対象ならびにデータ収集方法の検討</p> <p>8 研究フィールドの検討</p> <p>9 分析方法の検討</p> <p>10 研究計画書作成</p> <p>11 研究計画書作成</p> <p>12 研究計画書作成</p> <p>13 研究倫理審査申請</p> <p>14 研究倫理審査申請の修正</p> <p>15 研究計画書の完成</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業において適宜紹介する		
評価方法	研究疑問の着眼、研究課題の絞り込み、研究方法の決定など一連の研究計画立案過程における、論理的思考力や課題探求の姿勢ならびにプレゼンテーション内容等 (40%) 作成した研究計画書 (60%)		
その他	選択する研究方法 (質的研究・量的研究) により、講義の進捗は変更する可能性がある。		

科目分類	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ(地域保健学領域)	学期 通年
担当教員	教授 吾郷美奈恵 教授 谷口敏代 教授 山下一也 教授 小田美紀子 講師 小川智子	選択/必修 必修
科目コード	授業形態	演習 単位数 2
授業の概要	研究力は、社会や地域の動向を推測し、必要な対策が実践できる保健師として身に付けていかなければならない能力である。このため、因果関係の探索力、母集団の特徴と動向の予測、企画につながる研究力が養成できる教育を提供する。健康生活支援や新たな地域ケアシステムに関する研究について文献検討し、研究課題を絞り込み、課題に応じた研究方法・分析方法を検討し、研究計画書を立案する。	
	回数	内容
	1	科学的研究課程：研究と保健活動の役割・意義、科学的アプローチの特性、研究プロセス、研究における倫理的配慮
	2	研究準備：研究課題の選択と定義、研究課題に対する既存の情報の確認と要約
	3	文献検索について
	4	仮説の組み立てについて：研究仮説の目的、特徴、検定方法
	5	研究設計：実験研究と非実験研究、調査研究、評価研究
	6	研究設計の原理：研究におけるコントロール技法、妥当性 標本抽出：基本的な標本抽出の概念、非確率標本抽出、確率標本抽出、標本の大きさ、研究例 測定とデータ収集
	7	・面接法と質問紙法 尺度と標準自己報告法、観察法 ・測定用具アセスメントのための信頼性と妥当性、その他の基準
	8	量的測定法
	9	研究データの分析①：質的データの分析、記述統計、推測統計
	10	研究データの分析②：高度な統計方法(重回帰、ロジスティック、因子分析、探索的因子分析、パス解析)
	11	研究結果の解釈と報告①：結果の解釈、研究報告の書き方
	12	研究結果の解釈と報告②：研究評価、考察の評価、結果、要約
	13	研究計画書の作成①
	14	研究計画書の作成②
	15	研究計画書の作成③ 研究倫理審査委員会の準備
テキスト	D.F.ボリット 看護研究 原理と方法 医学書院	
参考文献	授業中に紹介する	
評価方法	質問、授業態度など平常点が20%、プレゼンテーション評価が50%、最終レポート30%で評価する。 ・この科目は、主・副の研究指導教員が担当する。 ・授業は、内容によって学生と相談しながら遠隔授業と対面授業を選択して行うが、指導教員に報告・相談しながら、主体的に取組むこと。 ・適宜指示する関連文献や課題で学習し、講義で学習したことを関連文献で復習すること。	
その他		

科目分類	専門科目(研究)	対象学年	1
授業科目	特別研究Ⅰ(看護教育学領域)	学期	通年
担当教員	○教授 岡安誠子 准教授 川瀬淑子 准教授 高橋梢子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態	演習	単位数 2
授業の概要	<p>[目的] 看護教育学特論Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえ、各自の関心領域における看護ケア実践の現状と課題について文献検討を行い、看護教育学研究に向けた概念と方法を具体的に学び研究計画を立案する。</p> <p>[目標]</p> <p>① 看護教育学研究に必要な概念と研究方法について明確化し、説明できる。 ② 研究課題に関する論文を系統的にまとめサマリーを述べることができる。 ③ サマリーに基づき、研究課題の必然性と意義について説明できる。 ④ 合同検討会などでの意見を受け、必要に応じて的確に計画を修正できる。 ⑤ 自らの課題に応じた研究方法・分析方法等を検討し、研究計画書を作成できる。</p>		
	回数	内容	
	1	ガイダンス・研究動機と関心の明確化	
	2	研究課題の明確化(国内外の文献クリティーク)	
	3	研究課題の明確化(国内外の文献クリティーク)	
	4	研究課題の明確化(国内外の文献クリティーク)	
	5	研究課題の明確化(国内外の文献クリティーク)	
	6	研究疑問に基づくロジカル・プレストの実施①(演習的吟味)	
	7	研究疑問に基づくロジカル・プレストの実施②(演習的吟味)	
	8	研究枠組の検討①(帰納的吟味)	
	9	研究枠組の検討②(帰納的吟味)	
	10	研究計画書(仮)の作成・発表	
	11	研究手法を含めた検討(国内外の文献クリティーク)	
	12	研究手法を含めた検討(国内外の文献クリティーク)	
	13	研究手法を含めた検討(国内外の文献クリティーク)	
	14	研究手法を含めた検討(国内外の文献クリティーク)	
	15	研究計画書の作成・発表、研究倫理審査申請	
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<p>[研究計画書] 60% (本科目の成果物に対する評価) [課題の内容・課題探求の姿勢・プレゼンテーション] 40% (課題解決プロセスの総合的評価) ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。</p> <p>・第6回～第9回は、8月に夏季セミナーとして実施する。各学期において、8編以上の論文を抄読する。内2編以上は国外文献の抄読を行う。 ・原則、授業は「遠隔授業」とする。</p>		
その他			

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ (ウィメンズヘルス看護学領域)	学期	通年
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦 幸吉、 准教授 井上 千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	I7070209	授業形態	演習
		単位数	8
授業の概要	女性のライフサイクルにおける健康課題に関する質の高い看護実践を導くための研究を行う。 特別研究Ⅰにより作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。 研究倫理審査申請後、研究計画に沿ってデータの収集、分析解釈、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。		
	内容		
	学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。		
	【前期 第1週～第15週】		
	1. フィールド開拓：研究フィールドにおいて研究協力の依頼並びに研究対象者の選択を行う。		
	2. データ収集の実施：適切なデータ収集並びにデータ収集に伴う諸問題への対処を行う。		
	3. データ分析の実施：指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高める。		
	4. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて考察し、中間発表の準備をする。		
	5. 研究論文の発表：中間発表で成果を発表する。		
	【後期 第1週～第15週】		
	6. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。		
	7. 研究論文の作成：中間発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。		
	8. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。		
	9. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	データ収集・データ分析結果の考察、修士論文作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。		
その他			

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ (がん看護学領域)	学期	通年
担当教員	○教授 大塚美樹 教授 森山 美香	選択/必修	必修
科目コード	I7070204	授業形態	演習
		単位数	8
授業の概要	がん看護学の領域における健康課題について、質の高い看護を実践するために、研究を実施し、修士論文としてまとめる。 1. 特別研究Ⅰで作成した研究計画書をもとにデータを収集し、分析することができる。 2. 研究結果を論文として論述することができる。 3. 公開発表のプレゼンション方法を習得できる。		
	授業内容・授業計画		
	1. フィールドを開拓し、研究が実施できるように調整する。		
	2. 研究計画にそって、信頼性のあるデータ収集を行う。 データ収集の際は、フィールドの調整、研究参加者への対応、倫理的配慮を学ぶ。		
	3. 指導教員の指導を受けながら、研究目的にそった信頼性・妥当性のあるデータ分析を行う。		
	4. 中間発表会で、研究の背景、目的、研究方法、分析結果を発表する。 発表内容に関する意見をふまえて、研究方法や分析結果を検討する。		
	5. 分析結果を記述する。		
	7. 分析結果をふまえて文献や中範囲理論等を用いて考察する。		
	8. 修士論文を作成する。		
	9. 公開発表会で成果を発表する。		
	10. 最終修士論文を提出する (公開発表や論文審査での指摘箇所を修正し、論文を仕上げる)。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	研究への取り組み (データ収集・データ分析結果の考察、修士論文作成の一連の過程における学習態度)、最終提出の修士論文で総合的に評価する。 ・授業実施方法：内容と進捗状況により対面または遠隔授業とする。		
その他			

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ (精神看護学領域)	学期	通年
担当教員	教授 石橋照子 教授 大森眞登	選択/必修	必修
科目コード	I7070205	授業形態	演習
		単位数	8
授業の概要	<p>精神障がい者とその家族への看護支援に関する質の高い実践を導くための研究を行う。</p> <p>特別研究Ⅰにより作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。</p> <p>研究倫理審査申請後、研究計画に沿って、データの収集、分析解釈、考察など中間発表を行う。その後、論文を作成し、公開発表のプレゼンテーションの方法を学ぶ。</p> <p>内容</p> <p>学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。</p> <p>【前期 第1週～第15週】</p> <p>フィールド開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究急力の依頼並びに研究対象者の選択の課程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。 <p>データ収集の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法並びにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 <p>データ分析の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導教員のスーパーバイズを適宜受けることにより、分析結果の妥当性、信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 ゼミ・合同検討会でのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して分析を進める。 <p>【後期 第1週～第15週】</p> <p>分析結果の考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 <p>修士論文の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ゼミ・合同検討会でのプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 <p>修士論文の発表</p> <ul style="list-style-type: none"> 公開発表会で成果を発表する。 <p>修士論文の修正・完成</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。 		
テキスト	D. F. ポーリット/C. T. ベック、監訳：近藤 潤子 (2010) 看護研究 原理と方法 第2版 医学書院		
参考文献	適宜紹介する。		
評価方法	データ収集、データ分析結果の考察、修士論文作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。		
その他			

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ (高齢者リハビリテーション看護学領域)	学期	通年
担当教員	教授 梶谷みゆき、	選択/必修	必修
科目コード	I7070206	授業形態	講義
		単位数	8
授業の概要	<p>高齢に伴う生活機能障害を持つ高齢者とその家族、健康障害により医療施設・高齢者施設・在宅等で療養中の高齢者とその家族に対する看護実践で、特にリハビリテーション看護の観点から質の高い実践を導くための研究を行う。</p> <p>特別研究Ⅰで作成した研究計画書をもとに研究を進め、修士論文を作成する。</p> <p>研究倫理審査承認後、指導担当教員の指導を継続的に受けながら研究計画に沿って研究を展開する。収集データ・分析・結果・考察などについて、論理的思考の精度と論文の一貫性を高める。その後、公開発表でのプレゼンテーションを経て論文を作成する。</p> <p>回数</p> <p>内容</p> <p>学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。</p> <p>【前期 第1週～第15週】</p> <ol style="list-style-type: none"> フィールド開拓：研究課題に整合するフィールドを検討し、研究協力依頼並びに研究対象者の選択方法の明確化等、適切なフィールドを開拓と協力体制づくりに関する方法を学ぶ。 データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法並びにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 データ分析の実施：指導担当教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性、信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 分析結果の考察：分析結果を踏まえて考察し、中間発表の準備をする。 研究過程ならびに成果の発表：合同検討会で研究成果を中間発表する。 <p>【後期 第1週～第15週】</p> <ol style="list-style-type: none"> 分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 研究論文の作成：中間発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。 <p>研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。</p> <p>特に指定しない</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	研究実施のための体制づくり、データ収集、データ分析、結果の考察、論理的思考過程と論文等、修士論文作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。		
その他	研究手法 (質的研究・量的研究) により、授業の進め方は異なる。		

科目分類	対象学年	2
授業科目	特別研究Ⅱ (地域保健学領域)	学期 通年
担当教員	教授 吾郷美奈恵 教授 谷口敏代 教授 山下一也 教授 小田美紀子 講師 小川智子	選択/必修 必修
科目コード	授業形態	演習 単位数 2
授業の概要	研究計画に基づき研究をすすめ、地域保健に関する修士論文を作成する。収集データ、分析、結果、考察などについて中間発表を経て論理的思考の精度と論述の一貫性を高める。その後、公開発表のプレゼンテーションを経て論文を作成する。	
	回数	内容
	学生により進度は異なるが目安として以下のように取り組む。 【春学期 第1週～第15週】	
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィールド開拓：研究課題に整合するフィールドを検討し、研究協力依頼並びに研究対象者の選択方法の明確化等、適切なフィールドを開拓と協力的な関係構築に関する方法を学ぶ。 2. データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法並びにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 3. データ分析の実施：指導担当教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 4. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて考察し、中間発表の準備をする。 5. 研究過程ならびにCNに成果の発表：研究成果を中間発表する。 	
	【秋学期 第1週～第15週】	
	<ol style="list-style-type: none"> 6. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 7. 研究論文の作成：中間発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 8. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。 9. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。 	
テキスト	特に指定しない	
参考文献	適宜紹介する	
評価方法	研究実施のための体制づくり、データ収集、結果の分析、結果の考察、論理的思考過程と論述等、修士論文作成の一連の過程における成果ならびに学習態度を総合的に評価する。	
その他	<ul style="list-style-type: none"> • この科目は、主・副の研究指導教員が担当する。 • 授業は、内容によって学生と相談しながら遠隔授業と対面授業を選択して行うが、指導教員に報告・相談しながら、主体的に取り組むこと。 	

科目分類	特別研究Ⅱ (看護教育学領域)	対象学年	2
授業科目	〇教授 岡安誠子 准教授 川瀬淑子 准教授 高橋梢子	学期	通年
担当教員		選択/必修	必修
科目コード	授業形態	演習	単位数 8
授業の概要	<p>【目的】 特別研究Ⅰにおいて作成した研究計画書をもとに研究を進め、看護教育学に関する質の高い実践に寄与する修士論文を作成する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 研究計画に沿って、研究論理を踏まえ研究を遂行することができる。 ② 合同検討会などでの意見を受け、研究の質を高めるために対策を検討できる。 ③ 研究結果を多角的に分析し、問題の本質と解決策について考察を深めることができる。 ④ 研究結果から、看護教育学への具体的な提言を示すことができる。 		
	内容		
授業の内容	<p>学生により進度は異なるが、目安として以下のように取り組む。</p> <p>【前期 第1週～第15週】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィールド開拓：研究協力の依頼並びに研究対象者の選択の過程を通じて、適切なフィールドを開拓する方法を学ぶ。 2. データ収集の実施：実際にデータ収集を行うことにより、適切なデータ収集の方法並びにデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体験的に学習する。 3. データ分析の実施：指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 4. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて考察し、中間発表の準備をする。 5. 研究論文の発表：中間発表で成果を発表する。 <p>【後期 第1週～第15週】</p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて、文献検討により考察を深める。 7. 研究論文の作成：中間発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて修士論文を作成する。 8. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。 9. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。 <p>※上記の他、研究に最新知見を反映するため抄読会に参加する</p>		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<p>【修士論文】 60% (審査基準に基づき評価)</p> <p>【公開発表会・最終学術等】 25% (審査基準に基づき評価)</p> <p>【課題の内容・課題探求の姿勢・プレゼンテーション】 15% (プロセスの総合的評価)</p> <p>・各学期には、国内外の研究について、それぞれ2編以上の抄読を担当する。</p> <p>・原則、授業は「遠隔授業」とする。</p>		
その他			

博士前期課程

高度実践者養成コース

助産学領域

博士前期課程〔高度実践者養成コース(助産学領域)〕

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤科目	看護理論	1春		2	研究者養成コース参照	
	看護倫理特論	1秋	2			
	コンサルテーション論	1秋	2			
	看護研究方法論	1春	2			
	保健統計学特論	1春		2		
	しまねの健康と長寿	1春	2			
	死生学特論	1秋		2		
	保健医療福祉政策論 I	1秋		2		
	健康栄養特論 I	1秋	2			
	小計 (9科目)	—	10	2		
関連専門領域	がん看護学特論 I	1春		2		
	がん看護学特論 II	1秋		2		
	精神看護学特論 I	1春		2		
	精神看護学特論 II	1秋		2		
	高齢者リハビリテーション看護学特論 I	1春		2		
	高齢者リハビリテーション看護学特論 II	1秋		2		
	地域保健学特論 I	1春	2			
	地域保健学特論 II	1秋		2		
	看護教育学特論 I	1春		2		
	看護教育学特論 II	1秋		2		
	ウィメンズヘルス看護学特論 I	1春	2			
	ウィメンズヘルス看護学特論 II	1秋	2			
	専門演習 (ウィメンズヘルス看護学領域)	1秋		2		
	助産学専門領域	助産学特論 I (概論)	1春	2	教授	藤田 小矢香
准教授					井上 千晶	
教授					秦 幸吉	
非常勤講師					京 哲	
非常勤講師					金崎 春彦	
非常勤講師					勝部 愛子	
非常勤講師					高村 浩美	
非常勤講師		板持 さとみ				
助産学特論 II (女性の解剖と機能・薬理)		1春	2	教授	秦 幸吉	
				非常勤講師	西村 信弘	
				非常勤講師	松本 暁洋	
助産学特論 III (母子・家族の心理と社会)		1春	2	准教授	橋本 由里	
				非常勤講師	藤原 映久	
助産診断技術学演習 I (妊婦の助産診断とケア)		1通	3	教授	藤田 小矢香	
	講師			中谷 陽子		
助産診断技術学演習 II (産婦の助産診断とケア)	1通	3	教授	藤田 小矢香		
			准教授	井上 千晶		
助産診断技術学演習 III (褥婦・新生児の助産診断とケア)	1秋	2	非常勤講師	松原 まなみ		
			非常勤講師	岩成 治		
助産診断技術学演習 IV (ハイリスク妊産褥婦・新生児の診断技術)	1秋	1	非常勤講師	吾郷 真子		
			非常勤講師	山本 慧		
			非常勤講師	遠藤 智弘		
			非常勤講師	黒田 優子		
			非常勤講師	山中 智恵		

科目 区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		担当教員		
			必修	選択	職名	氏名	
専門科目	助産診断技術学演習Ⅴ (フィジカルイグザミネーション)	1秋	2		教授	藤田 小矢香	
					教授	秦 幸吉	
					准教授	井上 千晶	
					講師	中谷 陽子	
	助産診断技術学演習Ⅵ (ヘルスプロモーション方法論)	2春	2		講師	中谷 陽子	
					教授	藤田 小矢香	
					教授	秦 幸吉	
					准教授	井上 千晶	
	助産診断技術学演習Ⅶ (次世代育成支援)	2春	1		非常勤講師	山本 雅子	
					准教授	井上 千晶	
	助産管理	2春	2		講師	中谷 陽子	
					教授	藤田 小矢香	
					非常勤講師	落合 永美	
					非常勤講師	比良 静代	
	助産学実習Ⅰ (正常症例助産ケア実習)	1秋	11		教授	藤田 小矢香	
					准教授	井上 千晶	
					講師	中谷 陽子	
助産学実習Ⅱ (異常症例助産ケア実習)	2春	2		准教授	井上 千晶		
				教授	藤田 小矢香		
助産学実習Ⅲ (助産ケア統合実習)	2春	2		教授	藤田 小矢香		
				准教授	井上 千晶		
講師	中谷 陽子						
小計 (27科目)	—	—	43	2	—	—	
研究	課題研究	1～2通	4		教授	藤田 小矢香	
					教授	秦 幸吉	
					准教授	井上 千晶	
					講師	中谷 陽子	
小計 (1科目)	—	—	4	—	—	—	
合計 (37科目)		—	—	57	4	—	—
修了要件及び履修方法							
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に課題研究論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基盤科目から6科目12単位以上 (必修5科目10単位を含む) ②専門科目から16科目45単位以上 ③専門科目 課題研究4単位 <p>合計61単位以上を修得すること。 助産師国家試験受験資格を取得する場合の必要科目 (*) (61単位) を修得すること。</p>							

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護理論	学期	春学期
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択
科目コード	I7070000	授業形態	講義
授業の概要	<p>授業の目的は、看護実践の基盤となる看護における代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践への活用を探究する。</p> <p>① 看護実践の基盤となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史的發展と発展の過程を学修する。 ② 諸理論は看護の臨床現場で出会う現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。 ③ 実践・教育・研究への看護理論の適用の実際について議論する。</p>		
	回数	内容	担当者 月日
	1	【講義】 ガイダンス	岡安
	2	【講義】 看護理論とは	岡安
	3	【講義】 看護の歴史的發展過程と看護理論 (1)	岡安
	4	【講義】 看護の歴史的發展過程と看護理論 (2)	岡安
	5	【講義】 看護理論の分析と評価 (1)	岡安
	6	【講義】 看護理論の分析と評価 (2)	岡安
	7	【演習】 看護理論の看護実践・教育への適応 (現象の分析) (1)	岡安
	8	【演習】 看護理論の看護実践・教育への適応 (現象の分析) (2)	岡安
	9	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (1))	岡安
	10	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (2))	岡安
	11	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (3))	岡安
	12	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (4))	岡安
	13	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (5))	岡安
	14	【演習】 看護理論の概要と実践への適応(ブレゼン・ディスカッション (6))	岡安
	15	【演習】 まとめ	岡安
テキスト	<p>岡井真優美 (2020) : 看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院</p>		
参考文献	<p>・フォーセット/太田喜久子、岡井真優美訳 (2008) : フォーセット看護理論の分析と評価新訂版、医学書院</p> <p>・黒田裕子 (2009) : よくわかる中絶理論、学研</p>		
評価方法	<p>ブレゼンセッション 40%、ディスカッションへの貢献度 30%、レポート 30%を総合して評価する。 レポート課題「看護実践と看護理論を適応する意義について、事例を踏まえて記述する」</p>		
その他	<p>・原則、授業は「遠隔授業」とする。</p>		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	准教授 高橋梢子	選択/必修	必修
科目コード	I7070001	授業形態	講義・演習
授業の概要	<p>【目的】 医療現場において起こっている倫理的な問題、葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらよいか、看護専門職に求められる倫理的課題への対応について探究する。</p> <p>【目標】</p> <p>① 看護倫理とは何かを理解する。 ② 看護職の倫理綱領の内容を深く理解する。 ③ 倫理的な看護実践の基盤となる諸理論・諸概念を理解する。 ④ 看護実践の場できている倫理的課題と倫理判断の方法を理解する。 ⑤ 倫理的課題の解決のためのアプローチの方法を理解する。</p>		
	回数	内容	方法
	1)	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	講義
	2)	看護職の倫理綱領、第4回の課題提示	講義
	3)	看護倫理のアプローチ (徳の倫理、原則の倫理、ケアの倫理)	講義
	4)	看護を取り巻く倫理的課題 (ACP、身体拘束、地域看護における倫理的課題、災害・感染症流行時の倫理的課題等)	ブレゼン
	5)	看護倫理に関する重要な言葉 (道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護アトボカシー、協力と協働)、第7回の課題提示	講義
	6)	看護倫理に関する重要な言葉 (スターナリズム、個人の権利、インフォームドオウムド・コンセント)	講義
	7)	倫理的課題へのアプローチ	ブレゼン
	8)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	9)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	10)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	11)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	12)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	13)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	14)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	15)	倫理的課題への対策・取組 まとめ	講義
テキスト	<p>小西恵美子編 (2021). 看護学テキスト NICE 看護倫理 (改訂第3版) より看護・よい看護師への道しるべ、南江堂。</p>		
参考文献	<p>サラト、フライ著、片田範子・山本あい子訳 (2005). 看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、宮坂道夫、(2018). 系統看護学講座 別巻 看護倫理、医学書院</p> <p>看護職の倫理綱領 (2021) 日本看護協会、https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/rinri.html</p>		
評価方法	<p>授業への参加度、課題への取組 50%、レポート 50%の割合で評価する。</p>		
その他	<p>原則、遠隔授業とします。</p>		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森眞澄、教授 石橋照子	選択/必修	選択
科目コード	I7070004	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	医療、看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門・部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践における相談・支援活動および専門職種間の協働、連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に對する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。		
	回数	月日	内容
	1		コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約
	2		コンサルテーションの4つのモデルとその特徴
	3		コンサルテーションのプロセス、技法、評価
	4		コンサルティとコンサルタントの関係と面接
	5		リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力
	6		組織のストレスとコンサルテーション
	7		看護職のストレスの特徴、メンタルヘルズに関する理論とコンサルテーション
	8		コンサルテーション事例の検討(1) - 院生によるコンサルテーションの事例発表
	9		コンサルテーション事例の検討(2) - 院生によるコンサルテーションの事例発表
	10		コンサルテーション事例の検討(3) - 院生によるコンサルテーションの事例発表
	11		コンサルテーション事例の検討(4) - 院生によるコンサルテーションの事例発表
	12	集中	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)
	13	集中	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)
	14	集中	グループコンサルテーションの実践(グループワーク)
	15	集中	組織コンサルテーションの実践(グループワーク)
	① E.H.シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。		
	② 土居健郎著(2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院		
	③ アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ガジェ・ロバーツ編、武井麻子監訳(2014)：組織のストレスコンサルテーション、金剛出版。		
参考文献	① 宇佐美しおり、野末聖香編集(2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会。		
	② 山本和郎(2000)：危機介入とコンサルテーション、ミネルヴァ書房。		
評価方法	[レポート] 60% (具体的事例を分析し、考察したレポート) [授業態度] 40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
その他	ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論	学期	春学期
担当教員	教授 森山美香、教授 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	I7070005	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>[目的] 看護専門職として、より良い看護実践を行うために看護研究を行うことは責務である。本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に解明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い研究プロセスに関する基本的知識を学ぶ。</p> <p>[目標] 1) 看護研究の特徴および意義について理解できる。 2) 量的研究・質的研究の特徴および研究プロセスについて理解できる。 3) 量的研究の種類や概略、統計による分析方法について理解できる。 4) 質的研究の種類や概略、データの質的な分析方法について理解できる。 5) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について理解できる。 6) 具体的に看護研究計画立案に向けた検討ができる。</p>		
	回数	内容	担当者
	1	研究プロセスの概観と研究倫理	森山
	2	文献検索の方法と文献クリティーク	森山
	3	文献クリティーク：演習	森山
	4	量的研究(1)：量的研究の種類と特徴	藤田
	5	量的研究(2)：課題設定と研究枠組み	藤田
	6	量的研究(3)：記述統計とデータの種類の、統計分析の基本	藤田
	7	量的研究(4)：平均値の比較(t検定・分散分析)と相関関係分析	藤田
	8	量的研究(5)：順序分類の比較(χ ² 検定・Mann-Whitney検定・Kruskal-Wallis検定)	藤田
	9	質的研究(1)：質的研究の種類と特徴(1)	森山
	10	質的研究(2)：質的研究の種類と特徴(2)	森山
	11	質的研究(3)：課題設定と研究枠組み	森山
	12	質的研究(4)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(1)	森山
	13	質的研究(5)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(2)	森山
	14	看護研究計画立案の実践(1)：研究計画書の作成	藤田
	15	看護研究計画立案の実践(2)：看護研究計画書の発表	森山・藤田
	D.D.F.ポリーリット/C.T.ベック、監訳：近藤 潤子(2010)。看護研究 原理と方法 第2版、医学書院		
テキスト	2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江編著(2016)。よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 研究のエキスパートをめざして(第2版)、医歯薬出版。		
参考文献	授業内で適宜紹介する		
評価方法	[クリティークレポート] 40% (評価レポートの内容) [演習成果] 40% (質的研究の種類と特徴の成果物、看護研究計画演習の成果物、プレゼンテーション) [受講態度] 20% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)		

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、授業は「遠隔授業」とする。 ・ブレゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。 ・15回の「看護研究計画書の発表」は、質疑応答を含め1人10分程度の発表予定である。
-----	---

科目分類	保健統計学特論	対象学年	1
授業科目		学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	演習	単位数
			2
授業の概要	<p>【目的】 保健医療分野における研究で使用される主要な統計学的手法を理解し、目的に応じたデータ分析を実践するための知識と方法、科学的思考力を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語、保健統計の概要を理解できる。 ② 保健医療活動に必要な統計手法が説明できる。 ③ 高度な分析手法を用いた論文を読み取り、看護研究で活用されている統計方法を批判的な視点で読み取ることができる。 ④ 公衆衛生や疫学の視点で分析された事例を理解し、保健統計の活用について創造することができる。 		
	回数	内容	
	1	統計学の歴史と意義	吾郷
	2	我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語	吾郷
	3	データの要約	吾郷
	4	統計的推論	吾郷
	5	分散分析	吾郷
授業の内容	6～8	※ブレゼンテーションとディスカッション 高度な分析手法を用いた論文を読み解く。 (主成分分析、因子分析、判別分析、ロジスティック回帰分析、生存分析、etc)	吾郷
	9～14	※分析事例 様々な分析事例を学び、ディスカッションにより結果を読み解く。	大城
	15	※ディスカッション I keep saying that the sexy job in the next 10 years will be statisticians. And I am not kidding. (2009年 New York Times, Google チーフエコノミスト:ハル・ヴァリアン博士)	吾郷
テキスト	指定しない。		
参考文献	「SPSSによる統計データ解析」 現代数学社 「保健統計・疫学」 福富和夫・橋本修二 南山堂 「国民衛生の動向」 一般財団法人厚生労働統計協会		
評価方法	ブレゼンテーションや授業中のディスカッションや理解度により、総合的に評価する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、原則として9～14回は対面、他の回は遠隔授業で行う。 ・6～8回は、各学生が高度な分析手法を用いた論文を見つけ、分析方法を中心にその論文のプレゼンテーションを行う。 		

科目分類	対象学年	1
授業科目	学期	春学期
担当教員	選択/必修	必修
科目コード	単位数	2
	授業形態	演習
授業者	吾郷美奈恵、准教授 籠橋有紀子	
【目的】	社会環境の変化、フィールド（隠岐諸島・島前）の地域特性と健康課題を理解し、フィールドのさらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。またその内容を報告書としてまとめる。	
【目標】	① フィールドの既存資料からアセスメントし、地域特性が説明できる。 ② 現地の人と一緒に生活することで、より深く現地の文化や生活を理解できる。 ③ さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。 ④ 報告会を通して、プレゼンテーション力とディスカッション力が修得できる。	
コマ数	内容	
1	事前学習：7月2日(土)①～④時限	
4	◇「地理的・気象的」「生態的」「人為的」「情報」と人々の暮らし ◇統計資料からみた変遷や公共施設・公的サービスの現状 ◇保健医療福祉計画と健康課題	
5	フィールド学習：7月31日(日)～8月1日(月)の1泊2日	
12	◇地区踏査(地域を歩こう！) ◇住民や関係者にインタビュー(西ノ島の好きなところ、自慢したいこと、気になること、暮らしたいこと、暮らしと仕事 など)	
13	まとめ(隠岐諸島・島前の健康と長寿にむけた提案)：8月6日(土)①②時限	
14	◇ラベルワーク テーマ：さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”	
15	報告会：8月6日(土)8月6日(土)④時限	
テキスト	指定しない	
参考文献	• エリザベスT. アンダーソン 他：コミュニティアイズパートナー、医学書院、2007 • R. エマソン 他：方法としてのフィールドノート、新曜社、2018 • 佐藤輔哉：フィールドワークの技法、新曜社、2002 • 孫大輔：対話する医療、さくら舎、2018	
評価方法	以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度、通知する。 □ 事前学習：20% □ フィールド学習：40% □ まとめ(ラベルワーク)：40%	
その他	• 4日間(1泊を含む)の集中講義(対面)として行う。 • 交通費や食費など、フィールド学習に要する費用は全て自己負担である。 • フィールド学習中のインタビュー先など、教員に確認しながら事前にアポイントを取ることにする。 • フェリーの欠航、COVID-19の感染状況によっては、学内学習とし、電話等でインタビューを行う。	

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	死生学特論	学期	秋学期
担当教員	教授 大谷美樹 非常勤講師 安藤泰至 竹下治男	選択/必修	必修
科目コード	I7070118	授業形態	講義
授業の概要	死生をめぐる宗教と思想、文化と社会、死生観、死生の諸問題についての基礎知識を理解する。現代社会の死生の諸問題に対し、看護専門職に求められる役割と実践について探求する。		
	回数		
	1	死生学とは	【大谷】
	2	死生をめぐる宗教と思想	【安藤】
	3	死生をめぐる文化と社会	【大谷】
	4	日本人の死生観	【大谷】
	5	スピリチュアルケア	【大谷】
	6	終末期医療	【大谷】
	7	アドバンス・ケア・プランニング	【大谷】
	8	安楽死・尊厳死	【安藤】
	9	デス・エデュケーション	【大谷】
	10	在宅看取り(1) 情報通信機器(ICT)を利用した死亡診断等ガイドライン	【大谷】
	11	在宅看取り(2) 法医学に関する一般的事項	【竹下】
	12	死生の諸問題における看護の役割と実践(1)	【大谷】
	13	死生の諸問題における看護の役割と実践(2)	【大谷】
	14	死生の諸問題における看護の役割と実践(3)	【大谷】
	15	全体を通じたディスカッション・まとめ	【大谷】
テキスト	適宜、資料を配布する。		
参考文献	島藤 進、竹内 整一：死生学とは何か、東京大学出版会、2008 適宜、紹介する。		
評価方法	レポート課題：60% 授業参加態度：40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
その他	• 授業実施方法：原則、「遠隔授業」とする。ただし、非常勤講師の授業については、「対面」とする場がある。 • 各テーマについて参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 谷口敏代	選択/必修	選択
科目コード	I7070010	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。</p> <p>また、地域医療におけるネットワークの現状も理解し、実証的・どのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 2) 障害者福祉制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 3) 地域包括ケア体制における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 4) 社会保障・社会福祉制度を取り巻く課題を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。 		
	回数	内容	
	1	オリエンテーション・介護保険制度と障害福祉制度(1)	
	2	介護保険制度と障害福祉制度(2)	
	3	介護保険事業計画と障害福祉計画	
	4	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (1)	
	5	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (2)	
	6	障害者の手帳制度	
	7	年金制度と生活保護制度	
	8	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (1)	
	9	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (2)	
	10	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (1)	
	11	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (2)	
	12	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(1)	
	13	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(2)	
	14	NPO およびボランティア活動と看護職の役割	
	15	諸外国の高齢者保健福祉施策・まとめ	
テキスト	プリント及び資料を適宜配布する		
参考文献	<p>厚生省の指導標時刊「国民衛生の動向」「国民の福祉と介護の動向」</p> <p>太田貞司監修：介護福祉の組織・制度論、光生館、2015</p> <p>基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと</p>		
評価方法	レポート 80%；単元毎の課題に対し、先行研究の検索と分析、看護職の視点から考察したレポート内容 授業態度 20%；授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション によって評価する		
その他	原則として遠隔授業形式で行います。演習課題では、新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面講義を行うこともあります。単元毎に課題を与え、国内外の文献の抄録と意見発表を行います。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 名和田清子	選択/必修	選択
科目コード	I7070011	授業形態	講義
		単位数	2
授業の概要	<p>生活習慣病の一次予防を主要テーマとした食生活・栄養に関して、医療・介護・予防等に必要となる栄養実践に関わる専門知識や最新情報を得る。DOHaD 仮説では、「胎児期や生後早期における様々な環境によりその後の環境を予測した適応反応が起こり、そのおりの環境とその後環境との適合の程度が将来の疾病リスクに関与する」と考えられている。胎児期（妊婦期）から高齢期までのライフステージを通じて、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養の概念と意義について説明することができる。 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。 3) ライフステージを通じて適切な栄養管理を行うことの意義を理解することができる。 4) ライフステージを通じて適切な栄養管理・食育を関連職種が連携して行うことの意義を理解することができる。 5) 栄養学研究の最近の動向について理解することができる。 		
	回数	内容	
	1	栄養とは、栄養学・栄養学研究における最近の話題	
	2	栄養と健康 —日本人の食生活の現状と課題—	
	3	日本人の食事摂取基準	
	4	ライフステージと栄養	
	5	女性のライフステージと栄養ケア	
	6	低栄養、リハビリテーション栄養学	
	7	生活習慣病と栄養	
	8	胎児期からの生活習慣病予防、生活習慣病の予防 における栄養と遺伝子	
	9	食品の機能性	
	10	時間栄養学	
	11	栄養状態の評価 個人の評価	
	12	栄養状態の評価 地域集団の評価、栄養疫学	
	13	在宅における栄養ケア	
	14	災害時の栄養・食生活支援	
	15	栄養学研究最近の話題	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	<p>日本人の食事摂取基準 (2020年版)</p> <p>国民健康・栄養調査</p> <p>授乳・離乳の支援ガイド (2019年改訂版)</p>		
評価方法	【課題レポート】 60%、【演習】 20%、【受講態度 (授業への取り組み姿勢、ディスカッション等)】 20%		
その他	授業実施方法：原則として遠隔授業（同期型）で行う。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○ 教授 大谷美樹 教授 森山美香	選択/必修	選択
科目コード	I 7070100	授業形態	講義
	がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題とがん看護の基盤となる主要な理論や概念について学び、がん看護に必要な知識を深める。また、健康課題の解決に向けた看護職の役割について探究する。		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん医療・看護の動向について説明できる。 2. がん看護の基盤となる主要な理論や概念について説明できる。 3. がん患者とその家族、がんサバイバーの体験、苦痛や諸問題を理解し、健康課題について説明できる。 4. がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題の解決に向けた看護職の役割を探究できる。 		
	回数	内容	
	1	がん医療・看護の動向	【大谷】
	2	ストレス・コーピング理論	【大谷】
	3	危機理論	【大谷】
	4	喪失・悲嘆の理論	【大谷】
	5	意思決定支援	【大谷】
	6	レジリエンス	【森山】
	7	自己効力感	【森山】
	8	成人教育 (アンドラゴジー)	【森山】
	9	がん治療と看護	【大谷】
	10	がん患者の緩和ケア	【大谷】
	11	がん患者のエンド・オブ・ライフケア	【大谷】
	12	がん患者の在宅看護	【大谷】
	13	がんサバイバー・AYA 世代のがん看護	【大谷】
	14	がん予防と早期発見	【大谷】
	15	がん患者の健康課題の解決に向けた看護職の役割	【大谷】
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社，2018 2) 一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会コアカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア，医学書院，2017 その他、適宜紹介する。 		
評価方法	授業参加態度 30%、課題のブレゼンテーション 20%、課題のレポート 50%により総合的に評価する。		
その他	・授業実施方法：対面授業		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論 II	学期	秋学期
担当教員	教授 大谷美樹	選択/必修	選択
科目コード	I 7070101	授業形態	講義
	がんの臨床経過や発達段階、療養の場におけるがん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題を理解し、解決に向けた看護実践方法を探究する。		
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. がんの臨床経過や発達段階、療養の場におけるがん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題を理解できる。 2. がん患者とその家族、がんサバイバーを理解、支援するための新しい知見を理解できる。 3. がん患者とその家族、がんサバイバーが直面する健康課題の解決に向けた看護実践方法を探究できる。 		
	回数	内容	
	1	診断期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	2	診断期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	3	治療期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	4	治療期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	5	進行・再発期のがん患者の健康課題と看護 (1)	
	6	進行・再発期のがん患者の健康課題と看護 (2)	
	7	がん患者のエンド・オブ・ライフケア (1)	
	8	がん患者のエンド・オブ・ライフケア (2)	
	9	がん患者の在宅看護	
	10	がん患者の意思決定支援	
	11	がん患者の家族看護	
	12	グリーフケア	
	13	がんサバイバーシップと看護	
	14	小児・AYA 世代がん患者と看護	
	15	全体を通してのディスカッション・まとめ	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜、紹介する		
評価方法	授業参加態度 30%、課題のブレゼンテーション 40%、ブレゼンテーションの論点と対応力 30%により総合的に評価する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実施方法：対面授業 ・学生は先行研究をもとに資料を作成し、ブレゼンテーション、ディスカッションを行う。 		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070102	授業形態	講義
授業の概要	<p>1. 精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場で出会う主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。</p> <p>2. 精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探求し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。</p> <p>3. 身体健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。</p>		
	回数	内容	担当
	1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	
	2	精神力動論の理解と看護への適用	
	3	自我発達理論の理解と看護への適用	
	4	精神科臨床におけるセルフケア理論の活用	
	5	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (統合失調症)	
	6	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (感情障害)	
	7	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (不安障害・PTSD)	
	8	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (アディクション)	
	9	精神科における主な治療と課題	
	10	理論と実践の統合：対象関係論	
	11	理論と実践の統合：精神分析	
	12	理論と実践の統合：集団療法	
	13	理論と実践の統合：認知行動療法	
	14	事例検討①-対象理解と自己理解	
	15	事例検討②-対象理解と自己理解	
テキスト	<p>ルイス・アロン著 横井公一監訳：こころの出会い-精神分析家としての専門技能を習得する-。金剛出版</p> <p>松木邦裕：対象関係論的治療法入門。金剛出版</p> <p>B.J.Sadock & V.A.Sadock (2005/2015)井上令一(監訳)カブラン 臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版) .メデイカル・サイエンス・インターナショナル.</p> <p>笠井清登(編) 2020.講座精神疾患の臨床 統合失調症.中山書店.</p> <p>神庭重信(編) 2020.講座精神疾患の臨床 気分障害.中山書店.</p> <p>[レポート・学習成果物] 60% (レポートフオリオに蓄積された学習成果物)</p> <p>[受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)</p>		
その他	<p>課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。</p>		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 II	学期	秋学期
担当教員	教授 石橋照子 教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070103	授業形態	講義・演習
授業の概要	<p>1. 精神保健福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度と体制について学び、精神保健福祉と精神医療の今日的課題と今後の展望について探求する。</p> <p>2. 社会資源としての関係法規を理解する。</p> <p>3. 精神科リハビリテーションからリカバリーまで精神障害を持つ人の支援に関する諸理論を理解する。</p> <p>4. 精神障害を持つ人の退院促進と地域生活促進に向けた支援を探求する。</p>		
	回数	内容	担当
	1	オリエンテーション 学習内容と課題・目標の設定	
	2	精神保健福祉の制度と体制の変遷	
	3	精神保健福祉に関する法律と今後の課題	
	4	精神保健福祉及び精神医療における最近のトピックス	
	5	社会資源としての関係法規 (障害者総合支援法、障害者の雇用促進に関する法律など)	
	6	精神科リハビリテーションの理解精神科リハビリテーションの方法と展開	石橋
	7	エンパワメント理論	
	8	ストレンギングモデル	
	9	リカバリーの概念	
	10	精神障害を持つ人の訪問看護	
	11	精神障害を持つ人の就労支援	
	12		
	13	これまでに学んだ方法を用いて、事例検討し包括的アセスメントと援助の方向性を	石橋・大森
	14	レポートにまとめる。	
	15		
テキスト	<p>特に指定しない。</p> <p>・ リバーマン実践的精神科リハビリテーション；R.P. リバーマン編 安西信雄・池端恵美 (監訳)、創造出版、2005</p> <p>・ 精神保健医療福祉白書 2018/2019～多様性と包括性の構築：精神保健医療福祉白書編集委員会、中央法規出版、2018</p> <p>・ ICF (国際生活機能分類) の理解と活用 一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか；上田敏、萌文社、2005</p> <p>・ これからの保健医療福祉行政論；星旦二・麻原きよみ編集、日本看護協会出版会、2022</p> <p>・ ストレンギングモデル-リカバリー志向の精神保健福祉サービス；チャールズ・A. ラップ、リチャ</p>		
参考文献	<p>・ ICF (国際生活機能分類) の理解と活用 一人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか；上田敏、萌文社、2005</p> <p>・ これからの保健医療福祉行政論；星旦二・麻原きよみ編集、日本看護協会出版会、2022</p> <p>・ ストレンギングモデル-リカバリー志向の精神保健福祉サービス；チャールズ・A. ラップ、リチャ</p>		

	ード・J. ゴスチャヤ(著)、田中 英樹(監訳)、金剛出版、2014 リカバリ——希望をもたらすエンパワメントモデル：カタナ・ブラウン、坂本明子、金剛出版、2012
評価方法	〔レポート・学習成果物〕 60% (レポートフォリオに蓄積された学習成果物) 〔受講態度〕 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) 〔プレゼンテーション〕 10% (学習課題に合ったプレゼンテーション)
その他	

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 梶谷みゆき	選択/必修	選択
科目コード	I7070104 授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	慢性疾患を有し地域や高齢者施設で療養する高齢者の自己管理やリハビリテーションにおける主要な概念や理論を学修する。さらに、慢性疾患を有する高齢者と家族への療養支援の現状と課題を整理し、療養支援や高齢者リハビリテーション看護における看護者の役割を探求する。		
	回数	内容	
	1	ガイドランス、地域で暮らす高齢者の健康支援の現状	
	2	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (1)	
	3	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (2)	
	4	生涯発達理論を基盤とする事例検討	
	5	高齢者学習の理論 (1)	
	6	高齢者学習の理論 (2)	
	7	高齢者学習を基盤とする事例検討	
	8	地域で暮らす高齢者の健康意識 (1)	
	9	地域で暮らす高齢者の健康意識 (2)	
	10	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (1) 概観	
	11	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (2) 有効性と課題	
	12	ヘルスリテラシーの概念	
	13	ヘルスリテラシーと健康教育	
	14	地域で暮らす高齢者の健康支援の成果と課題	
	15	まとめ、地域で暮らす (療養支援を含む) 高齢者の健康支援と看護者の役割	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業中に紹介する		
評価方法	学生が担当する学習課題に対する準備内容とプレゼンテーション、討議後のリフレクション (40%) 授業への参加姿勢、各回の学習課題に対する事前学習、討議内容 (30%) 科目最終レポート (30%) 計 100 点満点で評価する。		
その他	高齢者の地域療養生活を支える医療・福祉の現状と課題について、中山間地域における島根県の視野で捉え、看護の観点から課題解決するための具体的な方策を探求することを最終的な目標としている。 特に地方特有の健康に関する価値観や地域の特性を加味しそこに包含されている高齢者ケアやリハビリテーションの意味について分析する。そのような観点で高齢者ケアに関わる最新情報を事前に捉えておいて欲しい。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ	学期	後 (秋学)
担当教員	教授 梶谷みゆき	選択/必修	選択
科目コード	17070105	授業形態	講義
授業の概要	認知機能障害や運動機能障害により生活機能の低下を有する高齢者に対する回復期リハビリテーション看護と生活自立支援における主要な概念や理論を学修する。生活機能の低下を有する高齢者と家族に対する回復支援や退院支援における課題を明らかにし、課題解決のための看護実践とチーム医療における調整のあり方を探求する。		
回数	内容		
1	ガイダンス 生活機能低下を有する高齢者の退院支援ならびに回復期リハビリテーション看護の現状		
2	療養生活をおくる高齢者と家族の特性とケアニーズ (健康観・老年観・療養観・看取り観)		
3	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (1) ICF		
4	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (2) コンフォート理論		
5	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (3) 協働的パースペクティブアプローチ理論		
6	回復期リハビリテーションをうける高齢者の理解と支援に必要な理論 (4) 障害受容/障害の理解と支援		
7	回復期リハビリテーションをうける高齢者と家族の理解と支援に必要な理論 (5) 家族システム理論		
8	回復期リハビリテーションをうける高齢者と家族の理解と支援に必要な理論 (6) 家族システム理論の展開		
9	運動麻痺を有する高齢者と家族に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
10	失語症を有する高齢者と家族に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
11	高次脳機能障害を有する高齢者と家族に対する回復期リハビリテーション看護の実践と評価		
12	事例検討		
13	運動器疾患 (骨折・変形性関節症等) を有する高齢者のリハビリテーション看護の実践と評価		
14	事例検討		
15	まとめ 高齢者回復期リハビリテーションの現状と看護者に求められる役割		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業中に紹介する		
評価方法	担当する学習課題に対する準備とプレゼンテーション、討議後のリフレクション (40%) 授業への参加姿勢、各回の学習課題に対する事前学習、討議内容 (30%)、科目最終レポート (30%) 計100点満点で評価する。		
その他	高齢者の生活機能に大きく影響を及ぼす代表的疾患を取り上げ、文献等最新知見を活用し科学的根拠に基づいた看護アセスメントとケア、評価方法を探求する。この領域あるいは周辺領域の看護ケアのトピックスや各疾患の最新治療ガイドラインなどに日常的に目を通すようにしておくこと。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵 教授 谷口敏代 教授 小田美紀子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	講義	2
授業の概要	【授業の目的】 ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究できる。 【授業の目標】 1. ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる。 2. 我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる。 3. 出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 4. 成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 5. 健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる。		
回数	内容		
1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念		吾郷
2	人間の発達や健康に関わる因子		吾郷
3	出産や育児を取り巻く健康課題からみた健康課題と保健施策の変遷		小田
4	親子 (母子) 保健活動と保健行政の体系		小田
5	学校保健行政の構造と性教育		小田
6	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション		小田
7	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系		小田
8	介護予防とヘルスプロモーション		小田
9	介護保険制度と地域包括ケアシステム①		谷口
10	介護保険制度と地域包括ケアシステム②		谷口
11	生活再構築のための保健・医療・福祉の連携と協働*		谷口
12	食育と口腔保健		吾郷
13	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ*		吾郷・ 小田
14	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*		吾郷・ 小田
15	まとめ		吾郷
テキスト	必要に応じて提示する。 [コミュニティ アズ パートナー] 編集:コザハス T. カダウ/ダグリス・マクアレイ、医学書院 [地域づくり型保健活動のすすめ] 著:岩永俊博、医学書院 [実践ヘルスプロモーション] 著:ロリス W. グリン/マツル W. カイ、医学書院 [地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修:佐々木明子、他、丸善出版 [続・地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修:佐々木明子、他、丸善出版 [国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会 その他、必要に応じて紹介する。		
参考文献	参考文献		

評価方法	筆記試験50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、遠隔授業として開講する。 課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・集団・組織・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの視点から健康づくりを探索するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンパワメントを関連づけて捉えてほしい。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、教授 山下一也、講師 小川智子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2
目的・目標	<p>【授業の目的】 人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題を理解し、我が国の保健・医療に関する分析や疫学研究の成果をもとに、地域に根ざした保健医療と人々の生活実態に即した理論的な実践方法について探求する。</p> <p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題を理解できる 健康行動の主な理論や概念の概要が説明できる 地域に根ざした保健・医療と人々の生活実態に即した理論的な実践方法について探求できる 		
	回数	内 容	担当
	1	人口動態や地域保健・医療・福祉に関する現状と課題	山下
	2	健康行動における代表的な理論の変遷と健康課題	小川
	3	個人レベル・個人間レベルの理論とモデル ヘルスピリーフモデル/合理的行動理論・計画的行動理論/ナッジ理論 など	吾郷
	4	個人間レベルの理論とモデル トランスセオロテイルモデル/予防行動採用モデル社会的認知理論 など	吾郷
	5	集団およびコミュニケーションレベルの理論とモデル コミュニティ・エンゲージメント理論/PRCEED-PROCEED モデル など	小川
	6	課題解決実践例 生活習慣病① 高血圧・糖尿病	小川
	7	課題解決実践例 生活習慣病② がん対策	小川
	8	課題解決実践例 認知症	山下
	9	課題解決実践例 精神保健	吾郷
	10	課題解決実践例 発達障がい	山下
	11	課題解決実践例 難病	山下
	12	課題解決実践例 感染症	吾郷
	13	課題解決実践例 児童虐待	吾郷
	14	課題解決実践例 多文化共生・多様性	小川
	15	まとめ	吾郷・小川
テキスト	必要に応じて提示する。		
参考文献	一般社団法人日本健康教育学会編 (2019)；健康行動理論による研究と実践 医学書房 畑・栄一，土井由利子編 (2009)；行動科学 健康づくりのための理論と応用 改訂第2版 南江堂 国立保健医療科学院；一目でわかるヘルスプロモーション 理論と実践ガイドブック ヘルスケア総合政策研究所；医療白書 2020・2021 厚生労働省令；令和3年度版厚生労働白書		
評価方法	ブレゼンテーション60%、参加状況40%により総合的に評価する		
その他	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、遠隔授業として開講する。 課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 ハイリリスクアプローチの視点から健康づくりを探索し、課題解決実践例を基礎となる理論と関連づけ 		

て捉えてほしい。
 ・6～14回のうち、一人2テーマを担当してプレゼンテーションを行い、ディスカッションにより理解を深める。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦幸吉 准教授 井上千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	女性の生涯における健康課題に関する、アセスメント、診断能力を高めるための主要な理論および概観を学ぶ。これらの理論や評価尺度を用いた看護研究から導かれる科学的根拠を学習し、母子の看護実践への活用方法を探究する。		
	回数	内容	担当者
	1	ガイダンス 女性の生殖機能の発達と健康課題	秦
	2	女性の生涯における発達課題	井上
	3	女性の健康とヘルスプロモーション	藤田
	4	女性の健康とリプロダクティブヘルス・ライツ	藤田
	5	女性の健康とセクシュアリティ	井上
	6	女性の健康と理論：母性論	井上
	7	女性の健康と理論：危機理論	藤田
	8	女性の健康と環境	秦
	9	女性の健康とメンタルヘルス	藤田
	10	女性の健康課題と支援：健康生活と食事	秦
	11	女性の健康課題と支援：思春期・青年期	中谷
	12	女性の健康課題と支援：プレコンセプション	藤田
	13	女性の健康課題と支援：成熟期	井上
	14	女性の健康課題と支援：更年期	中谷
	15	まとめ	藤田
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業中に紹介する 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医学会編、産婦人科診療ガイドライン 産科編2014。 村本淳子他編集、ウイメンズヘルスナースニング概論第2版、スーベールヒロカワ、2011。 [レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)		
評価方法	・授業実施方法：遠隔授業 課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		
その他			

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	ウイメンズヘルス看護学特論Ⅱ	学期	秋学期
担当教員	秦幸吉 藤田小矢香 ○井上千晶 中谷陽子 非常勤講師 比良静代	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要
 女性と家族、子どもとライフサイクルにおける多様な健康状態と社会背景を含むその影響要因を理解し、地域における女性と家族、子どもの安寧な暮らしを支援するためのヘルスケアシステムと科学的根拠に基づいた看護方法を探求する。

回数	内容	担当者
1	ガイダンス 女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：受胎調節の意義と方法	井上
2	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：骨盤底機能不全	井上
3	女性のライフサイクルにおける健康課題と支援：女性の生活習慣病	中谷
4	女性と子どもの健康：子どもの成長・発達に影響を及ぼす養育環境	井上
5	女性と子どもの健康：災害時における母子の看護	中谷
6	女性と子どもの健康：シングルマザーの現状と支援	比良
7	女性と子どもの健康：非婚シングルマザーへの看護	比良
8	女性と子どもの健康：男をなくした女性への看護	井上
9	女性医療ケアにおける最新知識：女性のエイジングと卵巣機能	秦
10	女性医療ケアにおける最新知識：生殖補助医療の進歩と今日的課題 出生前診断と遺伝	秦
11	女性医療ケアにおける最新知識：出生前診断を受ける女性と家族への看護	井上
12	女性医療ケアにおける最新知識：子宮頸がんワクチンの効用と課題	秦
13	女性医療ケアにおける最新知識：ドメスティックバイオレンス (DV)	藤田
14	女性医療ケアにおける最新知識：在日外国人女性の健康課題	井上
15	全体を通しての総論・まとめ	藤田 井上 中谷

テキスト	特に指定しない
参考文献	適宜文献・図書を紹介する。 村本淳子他編集 ウイメンズヘルスナーシング概論 女性の健康と看護第2版 スーベールヒロカワ.2011. 共同通信社社会部編 「わが子よー出生前診断、生殖医療、生みの親、育ての親」、現代書館.2014.
評価方法	[レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)
その他	・授業実施方法：遠隔授業

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 准教授 川瀬淑子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	単位数	2
授業の概要	<p>[目的] 看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において系統的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向けて考察する。</p> <p>[目標]</p> <p>① 看護教育の歴史の変遷を学び、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。</p> <p>② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動 (模擬授業) を展開できる。</p>		
授業の内容	内容	担当	月日
1	【講義】 ガイダンス・看護教育の意義と目的	岡安	
2	【講義】 カリキュラムの変遷からみた今日の看護基礎教育と卒後教育	岡安	
3	【講義】 看護教育制度、関連法規	岡安	
4	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (1) プレゼンテーション	岡安	
5	【演習】 授業展開・教授活動に活用される理論 (2) プレゼンテーション	岡安	
6	【講義】 継続教育における現状と課題	川瀬	
7	【講義・演習】 アクティブラーニング (1)	川瀬	
8	【講義・演習】 アクティブラーニング (2)	川瀬	
9	【講義・演習】 インストラクショナルデザイン (1)	岡安	
10	【講義・演習】 インストラクショナルデザイン (2)	岡安	
11	【演習】 模擬授業とリフレクション (1)：準備	岡安・川瀬	
12	【演習】 模擬授業とリフレクション (2)：準備	岡安・川瀬	
13	【演習】 模擬授業とリフレクション (3)：実施 [集中]	岡安・川瀬	
14	【演習】 模擬授業とリフレクション (4)：実施 [集中]	岡安・川瀬	
15	【演習】 模擬授業とリフレクション (5)：リフレクション [集中] リフレクションに関する発表、まとめ	岡安・川瀬	
テキスト	杉森みどり、舟島なをみ (2021)：看護教育学 第7版、医学書院		
参考文献	杉森みどり 監訳 (2008)：エビデンスに基づく看護学教育、医学書院 グレック美鈴、池西悦子 (2009)：看護教育学、南江堂 適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	[レポート] 30% (最終レポート；その他に概要を記載) [模擬授業の成果] 30% (第11回～第15回の模擬授業とリフレクション) [プレゼンテーション] 20% (第4回課題および物語のプレゼンテーション) [授業への参加] 10% (授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力への行動)		

	<ul style="list-style-type: none"> ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法（資料）等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 ・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「遠隔授業」とする。
その他	

科目分類	看護教育学特論 II		対象学年	1
授業科目	看護教育学特論 II		学期	秋学期
担当教員	○教授 岡安誠子	准教授 川瀬淑子	選択/必修	選択
科目コード		授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	<p>【目的】 教育方法論及び学習理論を活用しながら、看護実践力の向上につながる看護基礎教育および継続教育において教育方法や教材の開発を探究する。学生参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法、シミュレーション教育を通して実践的学習をコーディネートする方法を探究する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 看護教育の特徴とその評価法、教授-学習過程の構造、学生参画型授業とその教授法について説明できる。 ② 自己教育力の育成とその評価法について探究し、意見を述べることができる。 ③ シミュレーションの授業設計や評価を学修し、具体的な方法について検討できる。 ④ 専門職としての倫理観、臨床判断能力を含めた看護教育上の課題を明らかにし、教育的方策について考察できる。 			

回数	内容	担当者	月日
1	【講義】 ガイダンス・看護教育における方法論概説	岡安	
2	【講義】 実習教育法	岡安	
3	【講義】 協同学習法	岡安	
4	【講義】 参画型授業とその教授法 (1) カードメソッド [集中]	岡安・川瀬	
5	【演習】 参画型授業とその教授法 (2) カードメソッド [集中]	岡安・川瀬	
6	【演習】 参画型授業とその教授法 (3) カードメソッド [集中]	岡安・川瀬	
7	【演習】 参画型授業とその教授法 (4) カードメソッド [集中]	岡安・川瀬	
8	【講義】 シミュレーション教育 (1) 構造と理論・シナリオ設計と教育技法	川瀬	
9	【講義】 シミュレーション教育 (2) 評価とフィードバック・学習環境のデザイン	川瀬	
11	【演習】 シミュレーション教育 (3) シミュレーション教育設計の実践 [集中]	川瀬・岡安	
12	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の発表 [集中]	川瀬・岡安	
13	【演習】 シミュレーション教育 (4) シミュレーション教育設計の評価 [集中]	川瀬・岡安	
14	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (1) プレゼンテーション	岡安・川瀬	
15	【演習】 自己教育力の育成とその評価法 (2) プレゼンテーション	岡安・川瀬	

テキスト	杉森みどり、舟島なをみ (2021) : 看護教育学第7版、医学書院	
参考文献	舟島なをみ：看護教育学研究 第2版 発見・創造・証明の過程、医学書院、2010。 適直、授業内で紹介する。 女酸史子：経験型実習教育：看護師をばぐむ理論と実践、医学書院、2015 阿部幸恵：臨床実践力を育てる！看護のためのシミュレーション教育、医学書院、2013。	

評価方法	<p>[レポート] 50% (最終レポート：その他に概要記載)</p> <p>[プレゼンテーション] 30% (第13回～第14回のシミュレーション教育設計のプレゼンテーション)</p> <p>[授業への参加度] 20% (授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力への行動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・第14回・第15回は、履修生を中心とした「自己教育力」に関する抄読発表を行う。 ・授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 ・原則、授業は「連続授業」とする。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	専門演習 (ウイメンズヘルス看護学領域)	学期	秋学期
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦 幸吉 准教授 井上 千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	I7070112 授業形態 演習	単位数	2
授業の概要	女性のライフサイクルおよび周産期母子が抱える健康課題に対して看護実践を行い、アセスメント方法および評価の妥当性を検討する。		
	回数	内容	
	1	ガイダンス、フィードワークの計画立案	
	2	フィードワークの計画立案①	
	3	フィードワークの計画立案②	
	4	フィードワークの実践①	
	5	フィードワークの実践②	
	6	フィードワークの実践③	
	7	フィードワークの実践④ 中間検討会	
	8	フィードワークの実践⑤	
	9	フィードワークの実践⑥	
	10	実践した看護の検討① 理論を用いた事例分析とアセスメント	
	11	実践した看護の検討② 生理的指標や評価尺度を用いてアセスメントの妥当性の検討	
	12	実践した看護を評価し、看護実践の現状と課題について考察	
	13	フィードワークのまとめ①	
	14	フィードワークのまとめ②	
	15	フィードワークのまとめ③	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜文献・図書を紹介する		
評価方法	以下の内容を総合的に評価する。 [レポート・プレゼンテーション] 80% (演習計画書・事例展開記録・課題レポート、実践報告など) [演習への参加度] 20% (毎回の授業への取り組み姿勢、目標の達成度、ディスカッション内容) ・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える) 演習場所：産科・更年期外来・不妊外来を併設する病棟、地域の健康教室などから学習目的や内容に合わせて選択する。 演習期間：学生と相談の上、個別に設定する		
その他			

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅰ(概論)	学期	春
担当教員	○藤田小矢香、井上千晶、秦幸吉 非常勤講師：京哲、金崎春彦、勝部愛子、高村浩美、板持さとみ	選択/必修	必修
科目コード	授業形態	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	女性の生涯を通じた性と生殖を支えるために助産の基本概念および意義、助産学を支える基礎理論、助産師の活動とその役割、女性のライフサイクルを通じた性と生殖における健康課題、身体的・心理的特徴について理解する。また助産ケアに関連する性と生殖に関する現状および倫理的課題について考察することができる。	担当者	
目的・目標	1) 助産・助産師の歴史と変遷から、助産師の役割や意義を理解することができる。 2) 女性のライフサイクルにおける健康課題と助産ケアを理解することができる。 3) 離島・中山間地域における助産師の役割や、地域貢献について理解することができる。 4) 生殖医療における倫理的課題を理解することができる。	回数	内容
		1	助産における基本概念、意義、助産・助産師の定義 藤田
		2	助産・助産師の歴史と変遷 藤田
		3	統計からみた母子保健活動 井上
		4	助産診断①～歴史と概念 藤田
		5	助産診断②～意義と実際 藤田
		6	助産診断と助産師の役割 藤田
		7	助産学を支える理論 藤田
		8	女性のライフサイクルにおける健康と助産ケア 井上
		9	離島の周産期医療の現状と課題 高村
		10	離島における助産師のやりがいと地域貢献 高村
		11	中山間地域の周産期医療の現状と助産師の役割 板持
		12	地域医療における周産期医療の倫理的課題 京
		13	生殖医療における倫理的課題 金崎
		14	出生前診断の実際と助産ケア 秦
		15	不妊に悩むカップルへの助産ケア 勝部
テキスト	助産学講義Ⅰ 基礎助産学 [1] 助産学概論 第5版 医学書院 看護六法 新日本法規 新版 助産師業務要覧Ⅰ 基礎編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 新版 助産師業務要覧Ⅱ 実践編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 新版 助産師業務要覧Ⅲ アドバンス編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版 助産所開業マニュアル改訂版 日本助産師会出版 助産業務ガイドライン2019 日本助産学会出版 日本産婦人科学会 日本産婦人科医会編集・監修 産婦人科診療ガイドライン-産科編 2017 日本産婦		

科目分類	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅱ(女性の解剖と機能・薬理)	学期	春学期
担当教員	教授 秦 幸吉 非常勤講師 西村 信弘 松本 暁洋	選択/必修	必修
科目コード	授業形態	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

目的・目標	助産実践の基礎的・科学的基礎となる、女性の解剖・生理、妊娠・出産が生体に及ぼす影響、ヒトの発生活と先天異常、妊娠と胎盤の機能、周産期に関連した薬理・免疫等に関する基礎的知識を修得する。	担当者	
	1) 女性の身体および女性生殖器の解剖と機能を理解し、妊娠・出産が生体に及ぼす影響について理解することができる。 2) ヒトの発生、先天異常、胎児期生活がその後及ぼす影響について理解することができる。 3) 周産期における薬剤の影響と観察項目を理解することができる。	回数	内容
		1	女性の解剖と機能Ⅰ 松本
		2	女性の解剖と機能Ⅱ 松本
		3	妊娠経過と形態機能 秦
		4	ヒトの発生過程 初期発生 松本
		5	ヒトの発生過程 心血管系・呼吸器系 松本
		6	ヒトの発生過程 消化器系・体腔 松本
		7	ヒトの発生過程 泌尿生殖器系・中枢神経系 松本
		8	成人病胎児期発生起源説(DOHad)の考え方 秦
		9	妊婦と薬剤 妊娠の時期と催奇形性 西村
		10	分娩と薬剤 分娩誘発剤や帝王切開時の麻酔薬の薬理作用と投与時の注意事項 西村
		11	母乳と薬剤 薬剤の母乳への影響、母親の服用が新生児に与える影響 西村
		12	妊娠中、授乳婦への薬剤使用に関するカウンセリング 西村
		13	胎盤の機能 秦
		14	妊娠の維持と免疫 秦
		15	新生児・乳児期の免疫 秦

授業計画

テキスト			
参考文献	ラングマン人体発生学第7版 訳 トマス・W・サドラー、医学書院 カラー図解 人体発生学講義ノート(第2版) 塩田浩平 金芳堂 グレイ解剖学 訳 塩田浩平他、エルゼビア・ジャパン 薬剤の母乳への移行第3版 菅原和信他、南山堂 レポート100%		
評価方法	・授業実施方法：対面授業(ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える)		
その他			

科目分類	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅲ (母子・家族の心理と社会)	学期	春学期
担当教員	准教授 橋本由里 非常勤講師 藤原映久 扶間玄以	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	発達心理学の側面から家族の形成プロセスや親子関係に関する諸理論を理解する。発達心理学の視点から母子を取り巻く現代社会の課題と子どもの発達、子どもの発達の遅れや発達障がい児を理解し、子どもの健やかな発達の支援する方法を理解する。 また、周産期のメンタルヘルスの意義や妊娠・出産を契機に精神を病む母親の病態を理解し、兆候の早期発見と早期支援のための医療や多職種連携について理解する。
目標	1) ライフサイクルとメンタルヘルスにおける諸問題と周産期のメンタルヘルスの意義について理解することができる。 2) 家族形成のプロセスにおける親子関係、母子関係等を発達心理学の視点から理解することができる。

回数	内容	担当者
1	乳児期の親子関係 (1) 愛着形成、愛着障害	橋本
2	乳児期の親子関係 (2) 信頼関係、虐待	橋本
3	女性のライフサイクルとメンタルヘルス (1) 思春期・青年期における諸問題	橋本
4	女性のライフサイクルとメンタルヘルス (2) 成人期初期・中期における諸問題	橋本
5	女性のライフサイクルとメンタルヘルス (3) 更年期・老年期における諸問題	橋本
6	母子関係 (1) 母子相互作用	橋本
7	母子関係 (2) 母子を取り巻く社会	橋本
8	家族関係 父子関係、兄弟関係、祖父母との関係	橋本
9	論文講読 (1)	橋本
10	論文講読 (2)	橋本
11	論文講読 (3)	橋本
12	子どものしつけと体罰	藤原
13	虐待予防を目的とした保護者支援の実践	藤原
14	精神障がいの概略、鑑別 周産期のメンタルヘルスの意義	扶間
15	妊娠・産後の不適応状態と兆候 精神科医療との多職種連携	扶間

テキスト	必要に応じて適宜資料を配布する。
参考文献	助産学講座 4 母子の心理社会学、医学書院 虐待予防のための子育て支援プログラム：市町村等ですぐに実施できる実践マニュアル 藤原映久 岩崎学術出版社
評価方法	授業への参加態度、レポート等で総合的に評価する。
その他	・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える)

科目分類	助産学実践科目	対象学年	1
授業科目	助産学特論Ⅰ (妊婦の助産診断とケア)	学期	通年
担当教員	藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	3

(※) 別表2：助産診断・技術学

授業の概要	正常な過程にある妊婦と胎児の生理と正常から逸脱した状態を理解し妊産期の管理を学ぶ。妊娠とその家族への助産診断・助産ケアに必要な情報について理解し、妊産期のケアを自律して行うことができるよう、論理的思考を基に基礎的な知識と理論を習得する。正常から逸脱する因子や要因を理解し、予防に向けた援助や助産ケアの実践について考える力を養う。
目標	1) 妊娠の成立と正常な妊産経過を理解し、正常な経過をたどる妊婦の妊産管理を理解する。 2) 妊娠に伴う生理的变化、胎児や胎児付属物について理解し、アセスメントおよび具体的なケア方法、妊婦とその家族のセルフケア能力が高められる支援について理解する。 3) 模擬事例を用いて妊産期の助産過程の展開を習得する。 4) 演習において妊産初期から継続して関わり、妊婦やその家族への支援について検討し、分娩・産後を見据えたケアを実践することができる。 5) 妊産期における異常や正常からの逸脱について理解し、妊婦とその家族への支援ならびに急変時の対応について理解し、対応について述べることができる。 6) 妊婦に対する個別指導計画立案の方法について理解し、演習を通して指導のもと実践することができる。
回数	内容
1	妊産期のマタニティ診断、妊産初期の経過診断・健康生活診断
2・3	助産診断過程① 妊娠初期
4	妊産中期の経過診断・健康生活診断
5・6	助産診断過程② 妊娠中期
7	妊産後期の経過診断・健康生活診断
8・9	助産診断過程③ 妊娠後期
10	妊産期のマインナートラブルと個別保健指導
11・12	個別保健指導の実践
13・14	正常な妊産経過から逸脱した妊婦の支援、ハイリスク状態にある妊婦と家族への支援と急変時の対応
15~22	産婦人科外来において継続受妊婦の健康診査と保健指導の実施及び評価 1回：妊産健診に関する技術試験 (OSCE) 2回～5回：妊産初期～中期 6回～8回：妊産後期
テキスト	・実践マタニティ診断 第5版 医学書院 ・助産学講座 3 基礎助産学 [3] 母子の健康科学 医学書院 ・助産学講座 6 助産診断・技術学 II [1] 妊産期 第5版 医学書院 ・最新産科学 正常篇 第22版 文光堂 ・週刊妊産健診マニュアル 医学書院

参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の助産 改定第3版 北川眞理子・内山和美編集 生田克夫医学監修 南江堂 ・妊娠婦メンタルヘルスケアアマチュアル、日本産婦人科医会 ・日本産婦人科学会/日本産婦人科医会編 産婦人科医療ガイドライン産科篇 ・プラクティス助産学 助産外来の健康診断 産婦人科医療技術 医学書院 ・産婦人科必修母体急変時の初期対応 メディカ出版 ・産科エマージェンシー-臨床推論 メディカ出版 ・エビデンスに基づく助産ガイドライン-妊娠期・分娩期・産褥期-2020 日本助産学会 ・母子健康手帳
評価方法	<p>ポートフォリオ、演習（記録・実施・評価）から総合的に評価する。 フィードバックは適宜行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業実施方法：対面授業 ・母性看護学の既習の知識・技術は、復習してから授業に臨んでください。 ・実際に継続妊婦の健康診断を行うための経過診断・健康生活診断の計画や保健指導計画及び健康診断結果について、実施前に実施後にディスカッションをし、内容を深めながら授業をすすめます。 ・自己学習のための課題は適時提示する予定です。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅱ（産婦の助産診断とケア）	学期	通年
担当教員	○中谷陽子 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	3
(※)：別表2：助産診断・技術学			
<p>産婦と胎児の生理ならびに正常な分娩経過と正常からの逸脱した状態について理解し、解剖学的視点および論理的思考を基に分娩期の助産診断・ケアの実践能力を養う。産婦の主体的な出産を支援できるように科学的根拠に基づいた分娩介助技術を習得する。分娩期の臨床推論の基本概念を理解し、助産における臨床診断能力と緊急時に対応できる実践技術を取得する。分娩期の母子とその家族に対する助産実践について探求する能力を養い、正常から逸脱した原因や要因を理解し、予防に向けた援助や助産ケアの実践について考える力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 分娩開始、分娩進行のメカニズムを理解し、生理的な経過ならびに正常からの逸脱について理解することができる。 2) 産婦と胎児の状態について根拠を基に助産診断することができる。 3) 分娩介助モデルにて仰臥位分娩・側臥位分娩を含むブリーズスタイル分娩の介助を実施することができる。 4) 分娩期の助産診断について模擬事例を通して行うことができ、ケア計画を立案することができる。 5) 分娩期の異常に対する処置と対応や予防的支援を理解し、臨床推論をもとに急変時の対応を演習にて実施することができる。 			
授業の概要			
回数	内容	担当者	
1	ガイダンス、分娩期の助産診断 分娩開始の予知と分娩開始	藤田	
2	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア①（講義・演習） ：入院の診断から分娩第1期（前半）	中谷・藤田	
3～4	基本となる分娩介助技術1（講義・演習） ：分娩に向けた準備と早期母子接触	中谷	
5	分娩に向けた準備 技術確認試験①	中谷	
6	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア②（講義・演習） ：分娩第1期（後半）から分娩第3期	中谷・藤田	
7～8	基本となる分娩介助技術2（講義・演習） ：仰臥位分娩、側臥位分娩	中谷	
9	分娩進行に伴う産婦と胎児の健康状態の助産診断とケア③（講義・演習） ：分娩後2時間までの助産ケア	中谷・藤田	
10	分娩進行に伴う正常経過逸脱の予測と予防的ケア ：分娩3要素の異常と予防、分娩促進ケア	中谷	
11	間接介助の意義と正常分娩直後のアタッチメント形成への支援	中谷	
12	出生直後から早期新生児の助産診断とケア	中谷	
13	分娩介助 技術確認試験②	藤田・中谷	
授業の内容			

14	産科出血・産科異常に対する助産診断と緊急時・搬送時の支援と対応	中谷
15	産科における急変時対応と臨床推論	中谷
16～17	正常分娩事例での助産過程 (ロールプレイ)	中谷・藤田
18～19	分娩期シミュレーション演習 (仰臥位分娩とフリースタイル分娩)	中谷
20	正常産過からの逸脱・異常時の産婦への肯定的な出産体験への支援	中谷
21～22	異常分娩事例での助産過程 (ロールプレイ)	中谷・藤田
テキスト	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 実践マタニティ診断 医学書院 アセスメント力を磨く助産師のためのフジカルイグザミナーゼーション 医学書院 助産診断基礎教育テキスト 第5巻 分娩期の診断とケア 日本看護協会出版 DVD で学ぶ開業助産師の「わざ」フリースタイル分娩介助 医歯薬出版株式会社 女性の骨盤 メディカルプラス 産婦人科診療ガイドライン産科編 2020 日本産婦人科学会 写真でわかる助産技術アドバンズ 平澤美恵子・村上睦子監修 インターメディア 今日の助産 改訂第3版 北川眞理子・内山和美編集 生田克夫医学監修 南江堂 産婦人科必修母体急変時の初期対応 メディカ出版 産科エマージェンシー臨床推論 メディカ出版 エビデンスに基づく助産ガイドライン - 妊娠期・分娩期・産褥期 - 2020 日本助産学会 技術書検①・② 80%	
評価方法	演習 20%：ミニマムクワイアメンツ (分娩期の診断とケアの項目) を基準とする 演習を重ね、分娩介助技術を研鑽してください。 事前学習として、滅菌操作 (滅菌物の取り扱い、滅菌手袋の着脱、滅菌ガウンの着脱)、導尿の技術について練習してください。 助産ケアに関する文献からエビデンスに基づく助産ケアの理解に努めてください。周産期救急における研修 (ALSO プロバイダーコース等) について随時案内する。	
その他		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅲ (褥婦・新生児の助産診断とケア)	学期	秋学期
担当教員	○准教授 井上千晶 非常勤講師：松原まなみ	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	2

	産褥期にある母子の正常な経過と正常から逸脱した状態を理解し、科学的根拠に基づいた助産技術過程を実践するために予防を含めた助産ケアの実践について必要な知識と技術を修得する。また出産後に新しい家族関係を築いていく過程とそれを阻害する要因について理解し、新しい家族を形成する過程が円滑に進むための支援について学ぶ。		
授業の概要	<p>目標</p> <p>1) 正常な産褥経過と正常から逸脱状態について理解することができる。</p> <p>2) 産褥期と新生児期について根拠を基に助産課程を展開し、模擬事例をもとに産褥期・新生児期の助産診断、ケアプランを立案することができる。</p> <p>3) 正常からの逸脱、特別な支援が必要な症例、緊急時の対応について理解し、予防的な支援を含め検討し述べることができる。</p> <p>4) 母乳育児に関する基本的な知識と技術を理解し、実施できる。</p>		
	回数	内容	担当者
	1	産褥期の生理的変化と対象理解	井上
	2	褥婦のアセスメントと健康課題	井上
	3	産褥期の助産ケア①身体的回復への助産ケア	井上
	4	産褥期の助産ケア②母乳育児への援助	松原
	5	産褥期の助産ケア③母乳育児への援助	松原
	6	産褥期の助産ケア④母乳育児への援助	松原
	7	母子相互作用と促進する助産ケア	井上
	8	正常から逸脱・産科異常のある褥婦への支援と急変時の対応	井上
	9	特別な育児支援を必要とする褥婦、心理的リスクのある褥婦・家族の支援	井上
	10	新生児の適応と生理	井上
	11	新生児への助産ケア	井上
	12	褥婦事例の助産技術過程①	井上
	13	褥婦事例の助産技術過程②	井上
	14	褥婦事例の助産技術過程③	井上
	15	新しい家族を形成するための助産ケア	井上
テキスト	助産学講座 7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院 助産学講座 8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期 医学書院 実践マタニティ診断 医学書院		
参考文献	アセスメント力を磨く助産師のためのフジカルイグザミナーゼーション第2版、医学書院 根拠と事故防止からみられた母性看護技術 第3版、医学書院 写真で見える母性看護技術アドバンズ、インターメディア		
評価方法	筆記試験 80% 演習およびレポート 20%		

その他	母性看護学で習得した技術と知識については確認テストを行いますので復習しておいてください ・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える）
-----	---

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習Ⅳ（ハイリスク妊産婦・新生児の診断技術）	学期	秋学期
担当教員	非常勤講師 岩成治 吾郷真子 山本慧 遠藤智弘 黒田優子 山中智恵	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	1

(※)：別表2：助産診断・技術学

授業の概要	ハイリスクの妊産婦及び新生児の病態生理と治療、その支援について理解し、高度な周産期母子医療に対応した実践能力を修得する。 目標 1) ハイリスクの妊産婦・胎児、新生児の病態と生理について理解できる。 2) MFICU・NICU・GCUにおけるハイリスクへのケアの実際、家族支援と多職種連携について理解し、助産師としての役割について考えることができる。		
	回数	内容	担当教員
	1-3	ハイリスク妊婦と胎児の病態と生理	岩成
	4-5	ハイリスク産婦と胎児の病態と生理	岩成
	6-8	ハイリスク産婦の病態と生理	岩成
	9-10	ハイリスク新生児の病態と生理	吾郷・山本
	11-13	NICU・GCUにおけるハイリスク新生児のケアと家族支援	遠藤
	14	MFICU・NICU・GCUにおける周産期センターにおける母子とその家族の支援	黒田
	15	ハイリスク妊婦・胎児の病態生理と多職種連携	山中
テキスト	必要に応じて適宜資料を配布する。		
参考文献	遠藤俊子 第7巻ハイリスク妊産婦・新生児へのケア 日本看護協会出版会 我部山キヨ子 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1] 妊娠期 医学書院 我部山キヨ子 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期 医学書院		
評価方法	定期試験 100% (妊産婦・胎児 70%、新生児 30%)		
その他	・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える） 事前学習をして授業に挑むこと。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学演習V (フイジカルイグザミネーション)	学期	秋学期
担当教員	○藤田小矢香 秦幸吉 井上千晶 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	2
(※)：別表2：助産診断・技術学			
授業の概要	<p>助産師として妊産婦ならびに新生児のフイジカルイグザミネーション技術を習得し、基礎的な評価能力を養う。主観的データと客観的データから対象を論理的にアセスメントし、その援助や助産ケアを実践できる力を養う。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) フイジカルイグザミネーションについて理解し、シミュレーターにて実施することができる。 2) 計測等から得た情報をアセスメントすることができる。 3) 外陰部の解剖を理解し、シミュレーターを用いて会陰縫合を実施することができる。 4) 模擬事例においてシミュレーターを用いて新生児蘇生法を実施することができる (NCPRA コース取得)。 5) 家族計画の目的・内容について理解し、家族計画指導を演習にて行うことができる。 		
回数	内容	担当教員	
1	ガイダンス・問診技術、妊娠期のフイジカルイグザミネーション	藤田	
2	超音波診断の基礎知識と画像診断	秦	
3	超音波診断演習	秦・藤田	
4	分娩期のフイジカルイグザミネーション	中谷	
5	会陰裂傷・会陰切開と会陰縫合	秦	
6	胎児心拍モニタリング	中谷	
7	産褥期のフイジカルイグザミネーション	井上	
8	婦人科検診	秦	
9-11	新生児蘇生法 (NCPRA : A コース)	秦・藤田 井上・中谷	
12-14	家族計画の実践と個別指導	井上	
15	技術試験	藤田 井上 中谷	
テキスト	アセスメント力を磨く助産師のためのフイジカルイグザミネーション 医学書院 新生児蘇生テキスト MEDICAL VIEW		
参考文献	週刊別妊婦健診マニュアル 医学書院 正常がわかる胎児超音波検査 文光堂		
評価方法	技術試験 70% (フイジカルイグザミネーション)、演習 30%		
その他	・授業実施方法：対面授業 (ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える) 演習を重ね、助産技術を研鑽してください。 助産ケアに関する文献からエビデンスに基づく助産ケアの理解を努めてください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産診断技術学演習VI (ヘルスプロモーション力法論)	学期	春学期
担当教員	藤田小矢香 秦幸吉 井上千晶 ○中谷陽子 非常勤講師 山本雅子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	2
(※)：別表2：助産診断・技術学			
授業の概要	<p>地域における母子とその家族を含む人々のライフサイクルに応じたヘルスプロモーションを理解し、対象のニーズやライフステージに応じた健康教育を企画・運営・実施・評価する実践能力を養う。中医学や機能性医学などの代替療法を理解しヘルスプロモーションの運営について探求する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ライフサイクルに応じたヘルスプロモーションについて理解できる。 2) 代替療法の目的・意義を理解し、実践にむけて検討できる。 3) ライフサイクルに応じたヘルスプロモーションを理解し、運営について探求できる。 4) 地域における母子とその家族へ集団指導を企画し、実施・評価できる。 		
回数	内容	担当教員	
1	ヘルスプロモーションとヘルスリテラシー	藤田	
2	学童期・思春期・青年期のヘルスプロモーション	中谷	
3	産褥期のヘルスプロモーション	中谷	
4-5	女性とパートナーに対するヘルスプロモーション	井上	
6-7	代替療法 (1)：機能性医学とケトジェニックのメカニズム	秦	
8	代替療法 (2)：中医学における薬膳	藤田	
9	代替療法 (3)：アロマセラピーと自律神経機能	藤田	
10-11	地域における母子とその家族への支援の実践	山本	
12	健康教育の方法と実際	中谷	
13-14	集団指導の実践に向けた取り組み	中谷	
15	集団指導の実践と評価	藤田・中谷	
テキスト	なし		
参考文献	<p>福田洋他：ヘルスリテラシー；健康教育の新しいキーワード 大修館書店 近藤尚己：健康格差対策の進め方 効果をもたらす5つの視点 医学書院 堀内成子・片岡弥恵子：助産学講座5 助産診断・技術学I 医学書院</p>		
評価方法	実践レポート 20% 集団指導 80%		
その他	日頃から地域での実践の場に積極的に参加してください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産師技術学演習Ⅶ(次世代育成支援)	学期	春学期
担当教員	○藤田小矢香 井上千晶 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	2
(※)：別表2：地域母子保健			
母子保健制度や母子保健施策の動向を理解し、地域における助産師の役割を考察し、次世代育成支援について理解する。胎児期から産後4か月までの継続症例や島根県立大院内に併設している子育て支援センターにおいて乳幼児の発育発達を学び、地域における子どもとその家族を対象とした次世代育成支援について考察を深める。思春期・青年期への性教育、家庭訪問を通して子育て支援、産後うつや児童虐待等の支援や子どもの健康課題を理解した健康教育など地域における助産活動を自立して提供できる能力を修得する。			
授業の概要	<p>目標</p> <p>1) 母子に関する制度や施策を理解し、地域における助産師の役割を探究することができる。</p> <p>2) 乳幼児の健康診査を実施し、発育発達状態をアセスメントすることができる。</p> <p>3) 子どもの発達段階や健康課題を理解し、助産師として次世代育成への支援を探究することができる。</p> <p>4) 対象に応じた健康教育の企画し、実施・評価することができる。</p>		
回数	内容	担当教員	
1	母子に関する制度と施策の動向	藤田	
2	子育て包括支援の現状と課題	中谷	
3-5	乳児の健康発達と助産ケア	中谷	
6-9	乳幼児の健康教育の実践と評価	井上	
10	子どもの成長発達と健康課題	藤田	
11	世界の性教育の動向と日本における次世代育成への展望	井上	
12-13	次世代育成に向けた健康教育の実践(1)：思春期	中谷	
14	次世代育成に向けた健康教育の実践(2)：青年期	井上	
15	次世代の健康対策とリプロダクティブヘルス	藤田	
テキスト	なし		
参考文献			
評価方法	実践レポート 20% 健康教育の実践(企画・実施・評価) 80%		
その他	日頃から子育て支援センターなど地域での実践の場に参加してください。		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産管理	学期	秋
担当教員	○藤田小矢香 中谷陽子 非常勤講師 落合永美 比良静代	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	2
(※)：別表2：助産管理			
母子保健医療福祉の動向を踏まえた、助産師の実践的な業務管理について概観できる。活動する場(医療施設・助産所など)による助産管理の特徴・法的根拠などについて理解する。また、助産業務に関わる業務上の倫理と助産師の義務と責務を基盤に、安全で質の高い助産実践が自律して行えるよう基本的な知識を修得し、これからの助産管理について考えることができる。			
授業の概要	<p>目標</p> <p>1) 助産師および助産業務に関わる法律と助産師の法的責任について理解することができる。</p> <p>2) 地域、医療機関での助産師の役割と活動と多職種との連携について理解することができる。</p> <p>3) 総合病院や助産所等における助産管理を理解し、マネジメントを含めた助産管理について考えることができる。</p> <p>4) 助産師のキャリアプランについて理解でき、自身のキャリアプランについて検討することができる。</p>		
回数	内容	担当者	
1	助産業務・助産管理の概念	藤田	
2	助産師および助産業務に関わる法と責任①：助産師の業務に関わる関係法規	藤田	
3	助産師および助産業務に関わる法と責任②：女性と子どもの支援に関わる関係法規	藤田	
4	助産師の法的義務	比良	
5	快適な妊娠出産のためのガイドライン	中谷	
6	判例に見る助産師の法的責任	藤田	
7	周産期母子医療センターにおける医療事故とリスクマネジメント	落合	
8	院内助産・助産師外来における助産管理	落合	
9	災害時の助産管理・助産師活動	中谷	
10	地域における助産師の役割と実践活動	比良	
11	助産所における助産管理	比良	
12	助産業務ガイドラインとマネジメント	比良	
13	周産期医療における連携・協働	比良	
14	助産師としての将来ビジョン 助産師のキャリアプランとユニカルリーダー	中谷	
15	まとめ 助産師の専門性と自律	藤田 中谷	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・助産学講座 10 助産管理 第5版 医学書院 ・助産学講座 1 基礎助産学 [I] 助産学概論 第5版 医学書院 ・日本助産師会編集・監修 助産師が行う災害時支援マニュアル 2017年改訂版 日本助産師会出版会 ・助産業務ガイドライン 日本助産師会出版会 ・科学的な根拠に基づく快適で安全な妊娠出産のためのガイドライン 金原出版 2014 		

看護六法 新日本法規	新版 助産師業務要覧 I 基礎編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 新版 助産師業務要覧 II 実践編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 新版 助産師業務要覧 III アドバンス編 第3版 日本看護協会出版会 2021年版 助産師基礎教育テキスト 周産期における医療の質と安全 日本看護協会出版 助産師開業マニュアル改訂版 日本助産師会出版 日本産婦人科学会 日本産婦人科医会編集・監修 産婦人科診療ガイドライン・産科編 試験 50% , プレゼンテーション 30% , 提出物 20%
参考文献	
評価方法	・授業実施方法：対面授業（ただし状況により遠隔授業となる場合は事前に伝える） テキストの該当箇所を読んで事前学習をして授業に挑む。 講義内容の復習をする。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	助産学実習 I (正常産例助産ケア実習)	学期	秋
担当教員	○藤田小矢香 井上千晶 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 実習	単位数	11
(※) 別表2：助産学実習			
授業の概要	<p>正常産過をたどる妊産婦・新生児を対象にこれまで学習した知識と技術を統合して分娩時の助産過程を展開し、助産実践能力を養う。生理的な経過をたどる母子とその家族の個別性を踏まえ、対象を継続的・統合的に理解し、助産ケアを実践する能力を養う。産後健診や家庭訪問を通じた産後ケアの実践から助産師としての役割と責任を理解する。また、島根県の離島と中山間地域における周産期医療の現状を理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期を継続して受け持ち、個別性を理解し助産診断を行うことができる。 2) 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期の助産計画を科学的根拠に基づき、立案・実施・評価することができる。 3) 退院後の支援について理解し、産後ケアについて検討することができる。 4) 正常産例における分娩介助を安全に行うことができる。 5) 症例カンファレンスを通して、情報やケア、今後の支援について共有することができる。 6) 離島・中山間地域における周産期医療の実態について理解し、助産師としての役割について考えることができる。 		
授業の内容	<p>内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩介助実習 実習病院にて分娩目的で入院した産婦を受け持ち、助産診断とケアを展開する。助産計画の立案および助産ケアを行い、安全な出産への対応として最低 10 例の分娩介助を行う。多様なニーズに対応した助産技術を習得する。 2. 継続事例実習 1 例は妊娠から受け持ちを開始した継続事例とし、妊娠から産褥 1 ヶ月までの母子のアセスメント・助産診断、計画立案を行い、導き出されたケアや保健指導等産地実習指導者または教員の指導後、自立で行う。また分娩介助を行った初産婦 1 例、経産婦 1 例は分娩期から産後 1 か月まで継続して受け持ち、助産診断からケア実践、指導等を行う。また、継続事例において、症例カンファレンスおよび産後ケアを行う。 3. 間接介助実習 ベビーキヤッチならびに外回りなどの間接介助を 3 例以上実施する。 4. 島根県の離島・中山間地域の産科施設において実習を行い、離島・中山間地域における周産期医療の現状と助産師の役割について学修する。 		
テキスト	授業等で使用したすべてのテキスト・参考図書		
参考文献	実習目標の達成度基準を定め評価を行う（実習記録 50%、カンファレンス（記録を含む）30%、実習状況 20%）。フィードバックはその都度行う。		
評価方法			

その他 講義内容を十分に復習し、技術練習を積み重ねてください。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産学実習Ⅱ(異常症例助産ケア実習)	学期	春学期
担当教員	○井上千晶 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 実習	単位数	2

(※) 別表2：助産学実習

	<p>MFICU 及び NICU・GCUにてハイリスク妊産婦および新生児のもつ疾患やリスクならびに治療・ケアについて理解する。身体的側面、心理的側面、社会的側面から統合的に対象を理解する。対象者と家族を理解し助産過程を展開することで、ハイリスク症例に対応できる高度な助産診断能力を養う。またハイリスク妊産婦・新生児とその家族に対して多職種と協働してケアを行う必要性やその方法について理解する。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ハイリスク妊産婦・新生児の病態、治療、管理について理解し、助産師から助産ケアを指導者または教員の指導のものと実践することができる。 2) ハイリスク妊産婦やハイリスク新生児・児の退院に向けた支援など多職種連携の実際について理解し、考察することができる。 3) ハイリスク妊産婦や新生児とその家族の心理的・社会的面をアセスメントし包括的なケアについて考えることができる。 4) ハイリスク母児と家族へのケアについて助産師の役割や倫理的態度について考えることができる。 	
授業の概要	回数	内容
	実習内容 1. 妊娠期 産科合併症等でMFICUに入院する妊婦を対象とし、病態と治療、その管理について理解し、それらを考慮し助産ケアを展開し妊婦とその家族へのケアを指導者または教員の助言のもと実践する。	
授業の内容	1~45	2. 分娩期・産褥期 帝王切開分娩の褥婦と新生児やハイリスク産婦・褥婦を対象とし、その病態と治療・管理について理解し、対象者の助産ケアを展開し褥婦・新生児とその家族への支援指導者または教員の指導のもと実践する。褥婦のセルフケア能力が高められる支援を指導のものを行う。 3. 新生児期 NICUまたはGCUに入院する児や低出生体重児の病態と治療、その管理を理解し、助産ケアを展開し児とその家族へのケア実践ならびに養育者のアタッチメント形成やディベロップメンタルケア等について助言のもと実践する。 4. ハイリスク症例における周産期医療の産科・小児科相互の協力体制や助産師の役割、臨床心理士や地域医療連携室、地域の保健師や助産師などの多職種連携の実際を学ぶ。 5. カンファレンス 受け持ち事例に関してのカンファレンスを行い、ケアや今後の方針等の対応を検討する。
テキスト	なし	
参考文献	講義で使用したテキスト等	

評価方法	実習目標の達成度により評価を行う。(実習記録 50%、実践レポート 30%、カンファレンス 20%)
その他	実習要綱に基づき、学修を深めてください

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	助産学実習Ⅲ (助産ケア統合実習)	学期	春学期
担当教員	○藤田小矢香 井上千晶 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 実習	単位数	2
授業の概要	<p>助産所での実習を行うことによって、これまでの知識・技術を統合し、主体的に実習に取り組み、地域に根ざした自律性の高い助産師の熟練した技や活動を学習し、助産診断技術、助産ケア技術強化する。また、産後ケアや新生児訪問等地域の母子保健活動の実践や、助産所の助産管理について理解し、対象とその家族の特性に合わせた包括的な助産ケアを自律して提供できる能力を学修する。助産所の経営管理を通して、開業権を考慮したこれからの助産師としての働きかたについて考えることができる。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 助産所における妊産婦・新生児ならびに乳幼児や家族への支援を理解し、助言のものと助産ケアを実践することができる。 2) 助産所における助産管理の実際、開業助産師の業務範囲、経営管理について理解し説明することができる。 3) 自分自身の助産活動の展望や改革の可能性について考察し、伝えることができる。 		
回数	内容		
実習内容	<p>学生 1 名ずつ助産所に配置する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 有床助産所における妊産婦・新生児、地域女性とその家族を対象とした助産ケアに参加し、開業助産師が行うケアを理解する。 2. 妊産婦健康診査、分娩介助などの妊産婦とその家族へのケア、産褥・新生児期のケア、家族計画支援、退院後のケアなどを助産師の指導の下に部分的に実践する。 3. 助産所と医療機関の連携、助産所の安全管理について助産所管理者から講義を受けるとともに、日々の実習をとおして理解する。 4. 助産師が行う事例のカンファレンスに参加し、ケアの実践と評価を学ぶ。 5. 地域における助産師と他職者の協働、企画づくり等の場に参加し、地域における助産師の役割を考察する。 6. 自分自身の助産活動の展望や改革の可能性について考察しレポートにまとめ学びを深める。 		
授業の内容	1～45		
テキスト	講義で使用したテキスト		
参考文献	随時紹介する		
評価方法	実習目標の到達度による評価を行う(実習記録 50%、実習への取り組み 30%、レポート 20%)。フィードバックは随時行う。		
その他	<p>自ら考え積極的に助産師とコミュニケーションをとり、開業助産師の高い理念や志を理解するよう努めてください。</p> <p>助産業務実践における質と安心・安全がどのように確保されているのか、助産所での実際の実習をとおして学び取ってください。特に、緊急時や災害時などのように対応するのにか多職者や地域との連携について学びを深めてください。</p>		

科目分類	専門科目	対象学年	1・2
授業科目	課題研究	学期	通年
担当教員	○藤田小矢香 秦 幸吉 井上千晶 中谷湯子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	4
授業の概要	<p>助産の現場で起きている現象を科学的根拠に基づいて分析し、論理的に探究する能力を養う。実践に即したテーマについて研究を行い、課題研究にまとめ、論文作成、発表会を通じて成果を論文にまとめる力、プレゼンテーション力を養う。一連の研究過程を通して助産学の発展や進化に寄与する研究能力を育成する。</p> <p>(目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「基礎科目」「専門科目」の学修を基礎に研究課題を特定し、研究計画書作成、研究倫理審査承認後研究を行うことができる。 2) データ収集・分析し、結論を導き出すプロセスを理解し、実践できる。 3) 中間発表会において研究経過における成果や内容について発表し、問題点、課題解決の方法について検討し、課題研究論文にまとめることができる。 4) 複数の指導教員のもと、倫理的思考を習得し、多面的な視点から研究する姿勢を身につけることができる。 		
	内 容		
授業の内容	<p>学生により進捗は異なるが目安として以下のように取り組む。</p> <p>【1年次 第1週～第8週】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィールド開拓；助産現場の現象から研究課題を特定し、課題解決のための研究計画を立案し、実施体制を整える。 2. 研究計画の実施；研究倫理審査委員会の承認後研究計画に基づいてデータ収集を行う。 <p>【2年次 第1週～第22週】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. データ分析の実施；指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性・信頼性を高める。 2. 分析結果の考察・検討；分析結果を踏まえて考察し、中間発表会の準備をする。中間発表会では研究目的・方法・データ収集・分析結果についてディスカッションを行い、助産指導を受けながら、課題研究論文の作成につなげる。 3. 研究論文の作成；中間発表での質疑、指摘等を踏まえながら、一連の研究過程の成果をまとめて課題研究論文を作成する。 4. 研究論文の発表；公開発表会で成果を発表する。 <p>研究論文の修正・完成；発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。</p>		
テキスト	適宜文献・図書を紹介する。		
参考文献	[レポート・学習成果物] 70%		
評価方法	[プレゼンテーション] 20% (学習課題に沿ったプレゼンテーション) [プレゼンテーションに対する質疑応答] 10%		
その他	・授業実施方法：遠隔授業 (ただし内容により少人数の対面授業とする)		

博士前期課程

高度実践者養成コース

診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域

博士前期課程[高度実践者養成コース診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域]

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員		
			必修	選択	職名	氏名	
基盤科目	看護理論	1春		2	研究者養成コース参照		
	看護倫理特論	1秋		2			
	コンサルテーション論	1秋		2			
	保健統計学特論	1春		2			
	健康栄養特論 I	1秋		2			
	看護研究方法論	1春	2				
	しまねの健康と長寿	1春	2				
	死生学特論	1秋	2				
	保健医療福祉政策論 I	1秋	2				
	小計 (9科目)	—	8	10		—	—
専門科目	プライマリ・ケア看護学特論	1秋	2		講師	横山淳美	
					非常勤講師	木村千尋	
					非常勤講師	日高美晴	
					非常勤講師	加藤節司	
	がん看護学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
	精神看護学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
	高齢者リハビリテーション看護学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
	地域保健学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
	ウィメンズヘルス看護学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
	看護教育学特論 I	1春			2	研究者養成コース参照	
NP論	1春	1			講師	横山淳美	
					非常勤講師	木村千尋	
					非常勤講師	小野美喜	
統合医療安全・特定行為実践特論	1春	1			放送大学大学院		
統合臨床病態生理学・疾病概論	1春	2			放送大学大学院		
フィジカルアセスメント特論 I	1春	1			放送大学大学院		
フィジカルアセスメント特論 II	1秋	1			講師	横山淳美	
					教授	山下一也	
					非常勤講師	山崎啓一	
臨床推論	1春	1			放送大学大学院		
臨床薬理学特論 I	1春	1			放送大学大学院		
臨床薬理学特論 II	2春	1			非常勤講師	直良浩司	
					非常勤講師	玉木宏樹	
					非常勤講師	後藤貴樹	
					非常勤講師	遠藤進一	
					非常勤講師	矢野貴久	
					非常勤講師	石原慎之	
非常勤講師	菅田重人						
特定行為共通科目統合演習	1春	1			放送大学大学院		

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
専門 科目	プライマリ・ケア看護学演習Ⅰ	2春	1		講師 教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 山下一也 磯和理貴 田原英樹 並河哲志
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅱ	2春	1		講師 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 藤代浩史 吉野千城
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅲ	2春	1		助教 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 徳家敦夫 吉野千城
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅳ	2春	2		講師 教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 山下一也 辻野佳雄 西村恭子 小原友子
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅴ	2春	2		講師 教授 非常勤講師 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 山下一也 中村 嗣 板持卓弥 妹尾千賀子
	プライマリ・ケア看護学演習Ⅵ	2春	1		講師 教授 非常勤講師	横山淳美 山下一也 小林孝文
	N P 活動見学実習	1春	1		講師 非常勤講師 非常勤講師	横山淳美 日高美晴 板持卓弥
	プライマリ・ケア看護学実習	2秋	14		講師	横山淳美
	プライマリ・ケア看護学探求セミナー	2秋	1		准教授 講師	松本玄智江 横山淳美
	研究 課題研究	1・2通	5		教授 准教授 講師	森山美香 松本玄智江 横山淳美
小計 (26科目)		—	41	12	—	—
合計 (35科目)		—	49	22	—	—
修了要件及び履修方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に2年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に課題研究論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <ul style="list-style-type: none"> ①基盤科目から5科目10単位以上 (必修科目4科目8単位を含む) ②専門科目から22科目45単位以上 (必修科目20科目41単位を含む) 						

科目分類	基礎科目	対象学年	1	
授業科目	看護理論	学期	春学期	
担当教員	教授 岡安誠子	選択/必修	選択	
科目コード	I7070000	授業形態	講義	
	授業の目的は、看護実践の基礎となる看護における代表的な看護理論を取り上げ、理論と看護現象との関係について理解し、看護実践への活用を探究する。	単位数	2	
授業の概要	① 看護実践の基礎となる主要な諸理論の形成と体系化の歴史の変遷と発展の過程を学修する。 ② 諸理論は看護の臨床現場で出会う現象や看護実践にどのように活用されているのかを考察する。 ③ 実践・教育・研究への看護理論の適用の実践について議論する。			
	回数	内容	担当者	月日
	1	【講義】ガイダンス	岡安	
	2	【講義】看護理論とは	岡安	
	3	【講義】看護の歴史的發展過程と看護理論 (1)	岡安	
	4	【講義】看護の歴史的發展過程と看護理論 (2)	岡安	
	5	【講義】看護理論の分析と評価 (1)	岡安	
	6	【講義】看護理論の分析と評価 (2)	岡安	
	7	【演習】看護理論の看護実践・教育への応用 (現象の分析) (1)	岡安	
	8	【演習】看護理論の看護実践・教育への応用 (現象の分析) (2)	岡安	
	9	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (1)	岡安	
	10	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (2)	岡安	
	11	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (3)	岡安	
	12	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (4)	岡安	
	13	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (5)	岡安	
	14	【演習】看護理論の概要と実践への応用 (プレゼン・ディスカッション) (6)	岡安	
	15	【演習】まとめ	岡安	
テキスト	筒井眞優美 (2020) : 看護理論家の業績と理論評価 第2版、医学書院			
参考文献	・フォーセット/太田喜久子、筒井眞優美訳 (2008) : フォーセット看護理論の分析と評価新訂版、医学書院 ・黒田裕子 (2009) : よくわかる中絶理論、学研			
評価方法	プレゼンテーション40%、ディスカッションへの貢献度30%、レポート30%を総合して評価する。 レポート課題「看護実践に看護理論を応用する意義について、事例を踏まえて記述する」			
その他	・原則、授業は「選択授業」とする。			

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護倫理特論	学期	秋学期
担当教員	准教授 高橋梢子	選択/必修	必修
科目コード	I7070001	授業形態	講義・演習
	【目的】医療現場において起こっている倫理的な問題・葛藤について、看護職はどのように考え、判断、対応したらよいか、看護専門職に求められる倫理的課題への対応について探究する。	単位数	2
授業の概要	【目標】 ① 看護倫理とは何かを理解する。 ② 看護職の倫理綱領の内容を深く理解する。 ③ 倫理的な看護実践の基礎となる諸理論・諸概念を理解する。 ④ 看護実践の場で起きている倫理的課題と倫理判断の方法を理解する。 ⑤ 倫理的課題の解決のためのアプローチの方法を理解する。		
	回数	内容	方法
	1)	授業ガイダンス、看護倫理とは、看護倫理の歴史、責任と専門職	講義
	2)	看護職の倫理綱領、第4回の課題提示	講義
	3)	看護倫理のアプローチ (徳の倫理、原則の倫理、ケアの倫理)	講義
	4)	看護を取り巻く倫理的課題 (ACP、身体拘束、地域看護における倫理的課題、災害・感染症流行時の倫理的課題等)	プレゼン
	5)	看護倫理に関する重要な言葉 (道徳的感受性と道徳的レジリエンス、看護アドボカシー、協力と協働)、第7回の課題提示	講義
	6)	看護倫理に関する重要な言葉 (インターナリズム、個人の権利、インフォームド・アムド・コンセント)	講義
	7)	倫理的課題へのアプローチ	プレゼン
	8)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	9)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	10)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	11)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	12)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	13)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	14)	看護実践における倫理的課題・事例分析	演習
	15)	倫理的課題への対策・取組 まとめ	講義
テキスト	小西恵美子編 (2021)、看護学テキスト NICE 看護倫理 (改訂第3版) よい看護・よい看護師への道しるべ、南江堂。		
参考文献	サラT. フライ著、片田範子・山本あい子訳 (2005)、看護実践の倫理第3版、日本看護協会出版会、 宮坂道夫 (2018)、系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院 看護職の倫理綱領 (2021) 日本看護協会、 https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rmr/rmri.html		
評価方法	授業への参加度、課題への取組50%、レポート50%の割合で評価する。		
その他	原則、遠隔授業とします。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	コンサルテーション論	学期	秋学期
担当教員	教授 大森真澄、教授 石橋照子	選択/必修	選択
科目コード	I7070004	授業形態	講義
	医療、看護の専門性が高まる中、保健・医療・福祉の分野や組織の部門、部署を超えて、継続的で柔軟なネットワークを構築していくことが重要である。コンサルテーションに必要な知識や技術について学習を深め、看護職のみならず、あらゆる職種と相互に支え合いながら、自己および組織の課題に直面し、問題解決に向かい、行動を変容のプロセスを支援する能力を育成する。大学院生が体験した事例を分析・検討し、最終的には、看護実践に関する相談・支援活動および専門職種間の協働、連携の調整者として、組織または個人を多角的にアセスメントし、看護の質の向上に寄与するコンサルテーションの理論と実践方法を学び、看護職をはじめとする保健・医療・福祉領域の専門家に対する相談・支援・調整活動を行う基盤となる能力を探究する。	単位数	2
授業の概要			
	回数 月日	内容	担当者
	1	コンサルテーションの定義、特性、目的、意義、職業倫理と契約	大森
	2	コンサルテーションの4つのモデルとその特徴	大森
	3	コンサルテーションのプロセス、技法、評価	大森
	4	コンサルティとコンサルタントの関係と面接	大森
	5	リエゾン精神看護とコンサルタントに必要な能力	大森
	6	組織のストレスとコンサルテーション	大森
	7	看護職のストレスの特徴、メンタルヘルズに関する理論とコンサルテーション	石橋
	8	コンサルテーション事例の検討(1) - 院生によるコンサルテーションの事例発表	石橋
	9	コンサルテーション事例の検討(2) - 院生によるコンサルテーションの事例発表	石橋
	10	コンサルテーション事例の検討(3) - 院生によるコンサルテーションの事例発表	石橋
	11	コンサルテーション事例の検討(4) - 院生によるコンサルテーションの事例発表	石橋
	12	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)	大森
	13	個人へのコンサルテーションの実践(ロールプレイ)	大森
	14	グループコンサルテーションの実践(グループワーク)	大森
	15	組織コンサルテーションの実践(グループワーク)	大森
	①	E.H.シャイン著、稲葉元吉、尾川丈一訳(2016)：プロセス・コンサルテーション 援助関係を築くこと、白桃書房。	
	②	土居健郎著(2007)：新訂 方法としての面接 臨床家のために 医学書院	
	③	アントン・オプホルツァー、ヴェガ、ザジェ、ロバーツ編、武井麻子監訳(2014)：組織のストレスとコンサルテーション、金剛出版。	
参考文献	① 宇佐美しおり、野末聖香編集(2014)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会。 ② 山本和郎(2000)：危機介入とコンサルテーション、ミネルヴァ書房。		
評価方法	[レポート] 60% (具体的事例を分析し、考察したレポート) [授業態度] 40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)		
その他	ディスカッション自体がコンサルテーションのスキルを磨くトレーニングでもある。積極的に参加して、これまでの自らの実践経験を振り返る。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究方法論	学期	春学期
担当教員	教授 森山美香、教授 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	I7070005	授業形態	講義
	[目的] 看護専門職として、より良い看護実践を行うために看護研究を行うことは責務である。本科目では、臨床および教育現場における疑問や問題について研究倫理を遵守し、科学的に解明・検証していくために必要となる妥当性・信頼性の高い研究プロセスに関する基本的知識を学ぶ。 [目標] 1) 看護研究の特徴および意義について理解できる。 2) 量的研究・質的研究の特徴および研究プロセスについて理解できる。 3) 量的研究の種類や概略、統計による分析方法について理解できる。 4) 質的研究の種類や概略、データの質的な分析方法について理解できる。 5) 看護研究における倫理的配慮の重要性と具体的な方法について理解できる。 6) 具体的に看護研究計画立案に向けた検討ができる。	単位数	2
授業の概要			
	回数	内容	担当者
	1	研究プロセスの概観と研究倫理	森山
	2	文献検索の方法と文献クリティーク	森山
	3	文献クリティーク：演習	森山
	4	量的研究(1)：量的研究の種類と特徴	藤田
	5	量的研究(2)：課題設定と研究枠組み	藤田
	6	量的研究(3)：記述統計とデータの種類の種類、統計分析の基本	藤田
	7	量的研究(4)：平均値の比較(t検定・分散分析)と相関関係分析	藤田
	8	量的研究(5)：順序分類の比較(χ ² 検定・Mann-Whitney検定・Kruskal-Wallis検定)	藤田
	9	質的研究(1)：質的研究の種類と特徴(1)	森山
	10	質的研究(2)：質的研究の種類と特徴(2)	森山
	11	質的研究(3)：課題設定と研究枠組み	森山
	12	質的研究(4)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(1)	森山
	13	質的研究(5)：データのコーディングと質的帰納的分析の実践(2)	森山
	14	看護研究計画立案の実践(1)：研究計画書の作成	藤田
	15	看護研究計画立案の実践(2)：看護研究計画書の発表	森山・藤田
		D.D.F.ポリーリット/C.T.ベック、監訳：近藤 潤子(2010)。看護研究 原理と方法 第2版、医学書院	
テキスト		2) グレック美鈴、麻原きよみ、横山美江編著(2016)。よくわかる質的研究の進め方・まとめ方 研究のエキスパートをめざして(第2版)、医歯薬出版。	
参考文献	授業内で適宜紹介する		
評価方法	[クリティークレポート] 40% (評価レポートの内容) [演習成果] 40% (質的研究の種類と特徴の成果物、看護研究計画演習の成果物、プレゼンテーション) [受講態度] 20% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)		

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・原則、授業は「遠隔授業」とする。 ・ブレゼンテーションおよびディスカッションを交えて進める。主体的な参加を期待する。 ・15回の「看護研究計画書の発表」は、質疑応答を含め1人10分程度の発表予定である。
-----	---

科目分類	保健統計学特論	対象学年	1
授業科目		学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、非常勤講師 大城 等	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 演習	単位数	2
授業の概要	<p>【目的】 保健医療分野における研究で使用される主要な統計学的手法を理解し、目的に応じたデータ分析を実践するための知識と方法、科学的思考力を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語、保健統計の概要を理解できる。 ② 保健医療活動に必要な統計手法が説明できる。 ③ 高度な分析手法を用いた論文を読み取り、看護研究で活用されている統計方法を批判的な視点で読み取ることができる。 ④ 公衆衛生や疫学の視点で分析された事例を理解し、保健統計の活用について創造することができる。 		
回数	内容		
1	統計学の歴史と意義		吾郷
2	我が国の保健統計と厚生労働統計に用いる主な比率及び用語		吾郷
3	データの要約		吾郷
4	統計的推論		吾郷
5	分散分析		吾郷
6～8	※ブレゼンテーションとディスカッション 高度な分析手法を用いた論文を読み解く。 (主成分分析、因子分析、判別分析、ロジスティック回帰分析、生存分析、etc)		吾郷
9～14	※分析事例 様々な分析事例を学び、ディスカッションにより結果を読み解く。		大城
15	※ディスカッション I keep saying that the sexy job in the next 10 years will be statisticians. And I am not kidding. (2009年 New York Times, Google チーフエコノミスト:ハル・ヴァリアン博士)		吾郷
テキスト	指定しない。		
参考文献	「SPSSによる統計データ解析」 現代数学社 「保健統計・疫学」 福富和夫・橋本修二 南山堂 「国民衛生の動向」 一般財団法人厚生労働統計協会		
評価方法	ブレゼンテーションや授業中のディスカッションや理解度により、総合的に評価する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は、原則として9～14回は対面、他の回は遠隔授業で行う。 ・6～8回は、各学生が高度な分析手法を用いた論文を見つけ、分析方法を中心にその論文のプレゼンテーションを行う。 		

科目分類	対象学年	1
授業科目	学期	春学期
担当教員	選択/必修	必修
科目コード	単位数	2
	授業形態	演習
【目的】	社会環境の変化、フィールド（徳島諸島・島前）の地域特性と健康課題を理解し、フィールドのさらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。またその内容を報告書としてまとめる。	
【目標】	① フィールドの既存資料からアセスメントし、地域特性が説明できる。 ② 現地の人と一緒に生活することで、より深く現地の文化や生活を理解できる。 ③ さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり”について提案できる。 ④ 報告会を通して、プレゼンテーション力とディスカッション力が修得できる。	
授業の概要	コマ数 事前学習：7月2日(土)①～④時限 ◇「地理的・気象的」「生物的」「人為的」「情報」と人々の暮らし ◇統計資料からみた変遷や公共施設・公的サービスの現状 ◇保健医療福祉計画と健康課題 フィールド学習：7月31日(日)～8月1日(月)の1泊2日 ◇地区踏査(地域を歩こう！) ◇住民や関係者にインタビュー(西ノ島の好きなところ、自慢したいこと、気になること、暮らしと催事 など) まとめ(徳島諸島・島前の健康と長寿にむけた提案)：8月6日(土)①②時限 ◇ラベルワーク テーマ：さらなる健康寿命延伸を目指した“健康なまちづくり” 報告会：8月6日(土)8月6日(土)④時限	
テキスト	指定しない	
参考文献	・エリザベスT. アンダーソン 他：コミュニティアイズパートナー、医学書院、2007 ・R. エマソン 他：方法としてのフィールドノート、新曜社、2018 ・佐藤郁哉：フィールドワークの技法、新曜社、2002 ・糸大輔：対話する医療、さくら舎、2018	
評価方法	以下により、総合的に評価する。提出物や提出締切等については、その都度、通知する。 <input type="checkbox"/> 事前学習：20% <input type="checkbox"/> フィールド学習：40% <input type="checkbox"/> まとめ(ラベルワーク)：40%	
その他	・4日間(1泊を含む)の集中講義(対面)として行う。 ・交通費や食費など、フィールド学習に要する費用は全て自己負担である。 ・フィールド学習中のインタビュー先など、教員に確認しながら事前にアポイントを取ること。 ・フェリーの欠航、COVID-19の感染状況によっては、学内学習とし、電話等でインタビューを行う。	

基礎科目	対象学年	1
死生学特論	学期	秋学期
教授 大谷美樹	選択/必修	必修
非常勤講師 安藤泰至 竹下治男	単位数	2
I7070118	授業形態	講義
死生をめぐる宗教と思想、文化と社会、死生観、死生の諸問題についての基礎知識を理解する。現代社会の死生の諸問題に対し、看護専門職に求められる役割と実践について探求する。	単位数	2
回数	内容	
1	死生学とは	【大谷】
2	死生をめぐる宗教と思想	【安藤】
3	死生をめぐる文化と社会	【大谷】
4	日本人の死生観	【大谷】
5	スピリチュアル・ケア	【大谷】
6	終末期医療	【大谷】
7	アドバンス・ケア・プランニング	【大谷】
8	安楽死・尊厳死	【安藤】
9	デス・エデュケーション	【大谷】
10	在宅看取り(1)情報通信機器(ICT)を利用した死亡診断等ガイドライン	【大谷】
11	在宅看取り(2)法医学に関する一般的事項	【竹下】
12	死生の諸問題における看護の役割と実践(1)	【大谷】
13	死生の諸問題における看護の役割と実践(2)	【大谷】
14	死生の諸問題における看護の役割と実践(3)	【大谷】
15	全体を通じたディスカッション・まとめ	【大谷】
テキスト	適宜、資料を配布する。	
参考文献	島藤 進、竹内 整一：死生学とは何か、東京大学出版会、2008 適宜、紹介する。	
評価方法	レポート課題：60% 授業参加態度：40% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション)	
その他	・授業実施方法：原則、「選開授業」とする。ただし、非常勤講師の授業については、「対面」とする場がある。 ・各テーマについて参加者でディスカッションを行い、理解を深める。	

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 谷口敏代	選択/必修	選択
科目コード	I7070010	授業形態	講義
	保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために、保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。 また、地域包括ケアにおけるネットワークの現状も理解し、実務的・具体的なことのようなシステム活用により連携が行われているのか、探求的に学び、地域包括ケアについて理解を深める。		
授業の概要	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 介護保険制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 2) 障害者福祉制度における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 3) 地域包括ケア体制における看護職が果たす役割と課題を述べることができる。 4) 社会保険・社会福祉制度を取り巻く課題を理解し、看護職が果たす役割を述べることができる。 		
	回数	内容	
	1	オリエンテーション・介護保険制度と障害福祉制度(1)	
	2	介護保険制度と障害福祉制度(2)	
	3	介護保険事業計画と障害福祉計画	
	4	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (1)	
	5	サービス利用支援と権利擁護に関する制度 (2)	
	6	障害者の手帳制度	
	7	年金制度と生活保護制度	
	8	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (1)	
	9	医療保険サービスと介護保険サービスにおける看護職の役割と課題 (2)	
	10	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (1)	
	11	保健医療福祉従事者の働き方に関する法規 (2)	
	12	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(1)	
	13	地域包括ケア体制における他職種協働と看護職の役割(2)	
	14	NPOおよびボランティア活動と看護職の役割	
	15	諸外国の高齢者保健福祉施策・まとめ	
テキスト	プリント及び資料を適宜配布する		
参考文献	厚生省の指標臨時増刊「国民衛生の動向」 「国民の福祉と介護の動向」 太田貞司監修：介護福祉の組織・制度論、光生館、2015 基本的には自ら文献検索し、熟読しておくこと		
評価方法	レポート 80%：単元毎の課題に対し、先行研究の検索と分析、看護職の視点から考察したレポート内容 授業態度 20%：授業への取り組み姿勢、ディスカッション、プレゼンテーション によって評価する		
その他	原則として遠隔授業形式で行います。演習課題では、新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面講義を行うこともあります。単元毎に課題を与え、国内外の文献の抄読と意見発表を行います。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	健康栄養特論Ⅰ	学期	秋学期
担当教員	教授 名和田清子	選択/必修	選択
科目コード	I7070011	授業形態	講義
	生活習慣病の一次予防を主要テーマとした食生活・栄養に関する、医療・介護・予防等に必要となる栄養実践に関する専門知識や最新情報を得る。DOHaD 仮説では、「胎児期や生後早期における様々な環境によりその後の環境を予測した適応反応が起こり、そのおりの環境とその後の環境との適合の程度が将来の疾病リスクに関与する」と考えられている。胎児期（妊婦期）から高齢期までのライフステージを通じて、対象者の問題点を的確に捉え、解決に向けて栄養に関する必要な考え方を深める。		
授業の概要	<p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 栄養の概念と意義について説明することができる。 2) 栄養・食生活と健康との関連について説明することができる。 3) ライフステージを通じて適切に栄養管理を行うことの意義を理解することができる。 4) ライフステージを通じた栄養管理・食育を関連職種が連携して行うことの意義を理解することができる。 5) 栄養学の最近の動向について理解することができる。 		
	回数	内容	
	1	栄養とは、栄養学・栄養学研究における最近の話題	
	2	栄養と健康 -日本人の食生活の現状と課題-	
	3	日本人の食事摂取基準	
	4	ライフステージと栄養	
	5	女性のライフステージと栄養ケア	
	6	低栄養、リハビリテーション栄養学	
	7	生活習慣病と栄養	
	8	胎児期からの生活習慣病予防、生活習慣病の予防 における栄養と遺伝子	
	9	食品の機能性	
	10	時間栄養学	
	11	栄養状態の評価 個人の評価	
	12	栄養状態の評価 地域集団の評価、栄養疫学	
	13	在宅における栄養ケア	
	14	災害時の栄養・食生活支援	
	15	栄養学研究最近の話題	
テキスト	必要に応じて資料を配布する。		
参考文献	日本人の食事摂取基準 (2020 年版) 国民健康・栄養調査 授乳・離乳の支援ガイド (2019 年改訂版)		
評価方法	【課題レポート】 60%、【演習】 20%、【受講態度 (授業への取り組み姿勢、ディスカッション等)】 20% 授業実施方法：原則として遠隔授業 (同席型) で行う。		
その他			

科目分類	専門科目	対象学年	1	
授業科目	ブライマリ・ケア看護学特論	学期	秋学期	
担当教員	○横山 淳美、木村 千尋、日高 美晴、加藤 節司	選択/必修	必修	
科目コード	授業形態	単位数	2 (30時間)	
授業の概要	ブライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) としての活動に必要な能力に関する知識・理論について学修する。 具体的には、ブライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) に求められる能力、役割、責任などに関する知識・理論について学修するとともに、多職種との協働についての具体的な方法を修得することや、各ライフサイクルの発達課題の観点から健康を捉え、疾病の予防と健康の維持増進に関する看護実践に必要な知識と技術を修得する。			
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブライマリ・ケアにおける多職種連携・協働の理論を理解することができる。 2. 医療的ケア(児)をめぐり医療的、社会的背景を理解し、医療・福祉・行政・教育の協働の必要性を理解することができる。 3. 高齢者の健康課題とその看護についての説明ができる。 4. ブライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割と機能およびその展望について説明することができる。 			
授業の内容	回数	内容	担当教員	
	1	我が国の医療システムとブライマリ・ケア	加藤 節司	
	2	～ブライマリ・ケアにおける多職種連携・協働～		
	3	ブライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割と実践	木村 千尋	
	4		横山 淳美	
	5～10	高度実践看護におけるリーダーシップ：理論と組織管理	横山 淳美	
		高度実践看護におけるリーダーシップ：コンサルテーション	日高 美晴	
		高度実践看護における医療的ケア(児)をめぐり協働		
		高度実践看護に伴う倫理的意思決定		
			高度実践看護に多職種協働の課題	横山 淳美
	11～	高度実践看護師の役割開発と活動領域の拡大を目指して	野々内 美加	
14	～PEPPAフレームワークを通じた事例分析演習～	(招致講義) 木村 千尋		
15	診療看護師 (NP) の展望	横山 淳美		
テキスト及び参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本ブライマリ・ケア連合会 編：ブライマリ・ケア看護学、南山堂、2016 ・Ann B. Hamric (著)、Charlene M. Hansen (著)、中村美鈴 他 監訳 (2020)、高度実践看護一統的 			

書・参考文献	アブローチー 第2版、へるす出版
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 50% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、論理的思考) ・プレゼンテーション 30% ・レポート 20%
学習の方法・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・ グループワークに積極的に参加してください。 ・ 各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、基本遠隔形式の授業です。 ・ 本科目は、NP資格受験資格に必要な科目です。 ・ 各授業内にディスカッションの時間を特許予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・ 本科目は、ブライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○ 教授 大谷美樹 教授 森山美香	選択/必修	選択
科目コード	I 7070100	授業形態	講義
授業の概要	<p>がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題とがん看護の基礎となる主要な理論や概念について学び、がん看護に必要な知識を深める。また、健康課題の解決に向けた看護職の役割について探究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. がん医療・看護の動向について説明できる。 2. がん看護の基礎となる主要な理論や概念について説明できる。 3. がん患者とその家族、がんサバイバーの体験、苦痛や諸問題を理解し、健康課題について説明できる。 4. がん患者とその家族、がんサバイバーの健康課題の解決に向けた看護職の役割を探究できる。 		
	回数	内容	
	1	がん医療・看護の動向	【大谷】
	2	ストレス・コーピング理論	【大谷】
	3	危機理論	【大谷】
	4	喪失・悲嘆の理論	【大谷】
	5	意思決定支援	【大谷】
	6	レジリエンス	【森山】
	7	自己効力感	【森山】
	8	成人教育 (アンドラゴジー)	【森山】
	9	がん治療と看護	【大谷】
	10	がん患者の緩和ケア	【大谷】
	11	がん患者のエンド・オブ・ライフケア	【大谷】
	12	がん患者の在宅看護	【大谷】
	13	がんサバイバー・AYA 世代のがん看護	【大谷】
	14	がん予防と早期発見	【大谷】
	15	がん患者の健康課題の解決に向けた看護職の役割	【大谷】
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1) 野川道子：看護実践に活かす中範囲理論，メヂカルフレンド社，2018 2) 一般社団法人日本がん看護学会教育・研究活動委員会アカリキュラムワーキンググループ編：がん看護コアアカリキュラム日本版：手術療法・薬物療法・放射線療法・緩和ケア，医学書院，2017 <p>その他、適宜紹介する。</p>		
評価方法	授業参加態度 30%、課題のプレゼンテーション 20%、課題のレポート 50%により総合的に評価する。		
その他	・授業実施方法：対面授業		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 大森眞澄	選択/必修	選択
科目コード	I7070102	授業形態	講義
授業の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護の実践の基礎となる基礎理論を学び、対象理解のための能力を高める。実践の場では患者主な疾患とその治療法、看護ケアを行うためのアセスメント方法について探求する。 2. 精神科医療における主な治療を理解するとともに看護師の役割を探究し、治療的アプローチの根拠と技法を習得する。 3. 身体的健康問題の予防と早期発見における看護師の役割について探求する。 		
	回数	内容	担当
	1	生物-心理-社会モデルを使った生物学的・心理学的・社会的側面からの対象理解	
	2	精神力動論の理解と看護への適用	
	3	自我発達理論の理解と看護への適用	
	4	精神科臨床におけるセルフケア理論の活用	
	5	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (統合失調症)	
	6	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (感情障害)	
	7	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (不安障害・PTSD)	
	8	精神障がい者のリカバリーと看護実践 (アディクション)	大森
	9	精神科における主な治療と課題	
	10	理論と実践の統合：対象関係論	
	11	理論と実践の統合：精神分析	
	12	理論と実践の統合：集団療法	
	13	理論と実践の統合：認知行動療法	
	14	事例検討①-対象理解と自己理解	
	15	事例検討②-対象理解と自己理解	
テキスト	ルイス・アロン/著 横井公一監訳：こころの出会い-精神分析家としての専門技能を習得する-。金剛出版		
	松本邦裕：対象関係論的心理療法入門。金剛出版		
参考文献	<p>B.J.Sadock & V.A.Sadock (2005/2015) 井上令一(監訳)カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5 診断基準の臨床への展開 (第3版)。メディカル・サイエンス・インターナショナル。</p> <p>笠井清登(編)。2020. 講座精神疾患の臨床 統合失調症。中山書店。</p> <p>神庭重信(編)。2020. 講座精神疾患の臨床 気分障害。中山書店。</p> <p>[レポート・学習成果物] 60% (レポートフォリオに蓄積された学習成果物)</p> <p>[受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容)</p> <p>[プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)</p>		
その他	課題の自己学習とプレゼンテーションにもつき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	教授 梶谷みゆき	選択/必修	選択
科目コード	I7070104	授業形態	講義
授業の概要	慢性疾患を有し地域や高齢者施設で療養する高齢者の自己管理やリハビリテーションにおける主要な概念や理論を学修する。さらに、慢性疾患を有する高齢者と家族への療養支援の現状と課題を整理し、療養支援や高齢者リハビリテーション看護における看護者の役割を探索する。		
回数	内容		
1	ガイダンス、地域で暮らす高齢者の健康支援の現状		
2	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (1)		
3	生涯発達理論に基づく高齢者の自我発達 (2)		
4	生涯発達理論を基盤とする事例検討		
5	高齢者学習の理論 (1)		
6	高齢者学習の理論 (2)		
7	高齢者学習を基盤とする事例検討		
8	地域で暮らす高齢者の健康意識 (1)		
9	地域で暮らす高齢者の健康意識 (2)		
10	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (1) 概観		
11	地域で暮らす高齢者の介護予防活動 (2) 有効性と課題		
12	ヘルスリテラシーの概念		
13	ヘルスリテラシーと健康教育		
14	地域で暮らす高齢者の健康支援の成果と課題		
15	まとめ 地域で暮らす (療養支援を含む) 高齢者の健康支援と看護者の役割		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	授業中に紹介する		
評価方法	学生が担当する学習課題に対する準備内容とプレゼンテーション、討議後のリフレクション (40%) 授業への参加姿勢、各回の学習課題に対する事前学習、討議内容 (30%) 科目最終レポート (30%) 計100点満点で評価する。		
その他	高齢者の地域療養生活を支える医療・福祉の現状と課題について、中山間地域における島根県の視野で捉え、看護の視点から課題解決するための具体的な方策を探索することを最終的な目標としている。 特に地方特有の健康に関する価値観や地域の特性を加味しそこに含まれている高齢者ケアやリハビリテーションの意味について分析する。そのような観点で高齢者ケアに関わる最新情報を事前に捉えておいて欲しい。		

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵 教授 谷口敏代 教授 小田美紀子	選択/必修	選択
科目コード		授業形態	講義
授業の概要	<p>【授業の目的】 ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解し、地域の特性を把握・分析をもとに、生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発、コミュニティ開発を探究できる。</p> <p>【授業の目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念を理解できる。 2. 我が国の地域特性の把握・分析をもとに、健康課題が説明できる。 3. 出産や育児を取り巻く健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 4. 成人や高齢者の健康課題の変遷を理解し、保健・医療・福祉制度が考察できる。 5. 健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発が探究できる。 		
回数	内容		
1	ヘルスプロモーションや地域診断モデルの理論と概念		
2	人間の発達や健康に関わる因子		
3	出産や育児を取り巻く健康課題からみた健康課題と保健施策の変遷		
4	親子 (母子) 保健活動と保健行政の体系		
5	学校保健行政の構造と性教育		
6	子育て支援による虐待や事故予防とヘルスプロモーション		
7	成人・高齢者保健に関する保健行政の体系		
8	介護予防とヘルスプロモーション		
9	介護保険制度と地域包括ケアシステム①		
10	介護保険制度と地域包括ケアシステム②		
11	生活再構築のための保健・医療・福祉の連携と協働*		
12	食育と口腔保健		
13	生涯の健康づくりにおけるポピュレーションアプローチとハイリスクアプローチ*		
14	生涯の健康づくりのための社会支援と政策開発やコミュニティ開発*		
15	まとめ		
テキスト	必要に応じて提示する。		
参考文献	<p>[コミュニティ アズ パートナー] 編集: エリザベス T. アンダーソン/タゴ イス・マワアロハ、医学書院</p> <p>[地域づくり型保健活動のすすめ] 著: 岩永俊博、医学書院</p> <p>[実践ヘルスプロモーション] 著: ロリス W. グリン/マツル W. 加伊、医学書院</p> <p>[地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修: 佐々木明子、他、丸善出版</p> <p>[続・地域看護活動とヘルスプロモーション<全4巻> DVD] 監修: 佐々木明子、他、丸善出版</p> <p>[国民衛生の動向] 最新版、厚生労働統計協会</p> <p>その他、必要に応じて紹介する。</p>		

評価方法	筆記試験50%、授業への取り組み姿勢やプレゼンテーション* (資料含む) 50%で評価する。
その他	<ul style="list-style-type: none"> この科目は、遠隔授業として開講する。 課題解決型学習 PBL (Project-Based Learning) を意識して授業を展開するため、受講者の自主性・自律性を重んじ、課題の解決をねらいとする。 自らの生活や健康観を見つめなおし、個人・家族・集団・組織・地域それぞれの視点で、ポピュレーションアプローチの観点から健康づくりを探究するとともに、地域特性と自助・互助・共助・公助による地域づくりとエンバワメントを関連づけて捉えてほしい。

科目分類	専門科目 (専門領域)	対象学年	1
授業科目	ウイメンズヘルス看護学特論 I	学期	春学期
担当教員	○教授 藤田小矢香 教授 秦幸吉 准教授 井上千晶 講師 中谷陽子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2

(※) 別表2：基礎助産学

授業の概要	女性の生涯における健康課題に関する、アセスメント・診断能力を高めるための主要な理論および概念を学修する。これらの理論や評価尺度を用いた看護研究から導かれる科学的根拠を学習し、母子の看護実践への活用方法を探究する。		
	回数	内容	担当者
	1	ガイダンス 女性の生殖機能の発達と健康課題	秦
	2	女性の生涯における発達課題	井上
	3	女性の健康とヘルスプロモーション	藤田
	4	女性の健康とリプロダクティブヘルス・ライツ	藤田
	5	女性の健康とセクシュアリティ	井上
	6	女性の健康と理論：母性論	井上
	7	女性の健康と理論：危機理論	藤田
	8	女性の健康と環境	秦
	9	女性の健康とメンタルヘルス	藤田
	10	女性の健康課題と支援：健康生活と食事	秦
	11	女性の健康課題と支援：思春期・青年期	中谷
	12	女性の健康課題と支援：プレコンセプション	藤田
	13	女性の健康課題と支援：成熟期	井上
	14	女性の健康課題と支援：更年期	中谷
	15	まとめ	藤田
テキスト	特に指定しない、 授業中に紹介する		
参考文献	日本産科婦人科学会・日本産婦人科医学会編、産婦人科診療ガイドライン 産科編2014. 村本淳子他編集、ウイメンズヘルスナージング概論第2版、ヌーベルヒロカワ、2011。 [レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション) ・授業実施方法：遠隔授業 課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		
評価方法	[レポート・学習成果物] 60% [受講態度] 30% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション内容) [プレゼンテーション] 10% (学習課題に沿ったプレゼンテーション)		
その他	・授業実施方法：遠隔授業 課題の自己学習とプレゼンテーションにもとづき、参加者でディスカッションを行い、理解を深める。		

科目分類	専門科目(専門領域)	対象学年	1
授業科目	看護教育学特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 岡安誠子 准教授 川瀬淑子	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義	単位数	2
授業の概要	<p>【目的】看護基礎教育、臨床で教育の役割を担う看護者が、教育・実践領域において体系的な教育活動を展開するために必要な基礎的知識・技術を修得する。また医療提供体制の変化に伴い、より自律して判断し実践できる看護職の養成のニーズに応えていくために看護教育の課題を検討し、問題解決に向けて考察する。</p> <p>【目標】</p> <p>① 看護教育の歴史の変遷を学修し、今日の看護教育の問題点や課題について考察できる。</p> <p>② 教育活動の展開を支える理論等の学修を活かし、教育活動(模擬授業)を展開できる。</p>		
	内容	担当	月日
授業の内容	1 【講義】ガイダンス・看護教育の意義と目的	岡安	
	2 【講義】カリキュラムの変遷からみた今日の看護基礎教育と卒後教育	岡安	
	3 【講義】看護教育制度、関連法規	岡安	
	4 【演習】授業展開・教授活動に活用される理論(1) プレゼンテーション	岡安	
	5 【演習】授業展開・教授活動に活用される理論(2) プレゼンテーション	岡安	
	6 【講義】継続教育における現状と課題	川瀬	
	7 【講義・演習】アクティブラーニング(1)	川瀬	
	8 【講義・演習】アクティブラーニング(2)	川瀬	
	9 【講義・演習】インストラクショナルデザイン(1)	岡安	
	10 【講義・演習】インストラクショナルデザイン(2)	岡安	
	11 【演習】模擬授業とリフレクシオン(1):準備	岡安・川瀬	
	12 【演習】模擬授業とリフレクシオン(2):準備	岡安・川瀬	
	13 【演習】模擬授業とリフレクシオン(3):実施[集中]	岡安・川瀬	
	14 【演習】模擬授業とリフレクシオン(4):実施[集中]	岡安・川瀬	
	15 【演習】模擬授業とリフレクシオン(5):リフレクシオン[集中] リフレクシオンに関する発表・まとめ	岡安・川瀬	
テキスト	杉森みどり、舟島なをみ(2021):看護教育学 第7版、医学書院		
参考文献	杉森みどり 監訳(2003):エビデンスに基づく看護学教育、医学書院 グレッグ美鈴、池西悦子(2009):看護教育学、南江堂 適宜、授業内で紹介する。		
評価方法	[レポート] 30% (最終レポート;その他に概要を記載) [模擬授業の成果] 30% (第11回~第15回の模擬授業とリフレクシオン) [プレゼンテーション] 20% (第4回課題および抄読のプレゼンテーション) [授業への参加] 10% (授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力への行動)		

	<ul style="list-style-type: none"> 何れも、課題設定の明確さ、選択した方法(資料)等の適切性、導き出された見解や結論への多角的検討や妥当性などを踏まえ評価する。 授業を通して考えた看護教育の課題や展望について自ら課題を設定し、2,000字程度のレポートにまとめ提出する。詳細は、授業内で説明する。 原則、授業は「遠隔授業」とする。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	NP 論	学期	春学期
担当教員	○横山 淳美、木村 千尋、小野 美喜	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	1 (15 時間)
授業の概要	社会や医療情勢の変化の中で日本における診療看護師 (NP) の教育の始まりや活動の実際を学ぶ。諸外国における Nurse Practitioner の歴史の変遷や役割、活動について理解するとともに、日本において診療看護師 (NP) に関わる現状の課題や今後の展望から診療看護師 (NP) の役割について考察する。具体的には、日本の医療社会情勢の変化と Nurse Practitioner 教育の創設経緯について学ぶとともに、日本の高度実践看護師としての診療看護師 (NP) に求められる能力・役割・責任に関する知識・理論について学ぶ。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の診療看護師 (NP) の現状と課題を理解することができる。 諸外国における Nurse Practitioner の現状から、日本の高度実践看護師としてのプライマリ・ケアにおける診療看護師 (NP) の役割と機能及びその展望を説明することができる。 		
授業の内容	回数	内容	担当教員
6 6 7 8 6	1	日本における診療看護師 (NP) の現状と課題 ～診療看護師 (NP) 教育や求められる能力～	小野 美喜
	2	諸外国における Nurse Practitioner の裁量範囲 (責任に関する知識と理論)	木村 千尋 横山 淳美
	3		
	4	高度実践看護	筑井菜々子 (招致)
	5	診療看護師 (NP) の役割の探求：現場への導入の実際	横山 淳美
	6	・DNP (Doctor of Nursing) ・コンピテンシー	
	7	グループワーク演習を含む	
	8	診療看護師 (NP) の課題討論	横山 淳美
テキスト及び参考図書・参考文献	<ul style="list-style-type: none"> Ann B. Hamric (著), Charlene M. Hansen (著), 中村美鈴 他 監訳 (2020) . 高度実践看護—統合的アプローチ—第2版, へるす出版 その他、適宜授業内で紹介することとする 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業態度 50% (授業への取り組み姿勢、ディスカッション、論理的思考) プレゼンテーション 30% レポート 20% 		
学習の方法・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 グループワークに積極的に参加してください。 各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバイス</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p>		

担当教員からのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 本科目は、基本遠隔形式の授業です。 本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 各授業内にディスカッションの時間を特許予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1			
授業科目	統合医療安全・特定行為実践特論 (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期			
担当教員	石井 邦子、木澤 晃代、山本 武志、江村 正、船木 祝、大塚 真理子、吉村 学、栗原 博之、土島 智幸	選択/必修	必修			
科目コード	授業形態 (放送大学：オンライン)	単位数	1 (3.6 時間)			
授業の概要	<p>看護師が適切に特定行為を遂行するために、自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることを目指す。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、2019年4月の省令改正に対応し、「医療安全学特論」と「特定行為実践」を統合し、指定の以下の内容を含むものとする。</p> <p>1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証 (Quality CareAssurance) を学修する。</p> <p>① 医療倫理 ② 医療管理 ③ 医療安全 ④ ケアの質保証</p> <p>2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践 (InterProfessional Work (IPW)) (他職種との事例検討)等の演習を含む) を学修する。</p> <p>① チーム医療の理論 ② チーム医療の事例検討 ③ コンサルテーションの方法 ④ 多職種協働の課題</p> <p>3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学修する。</p> <p>① 特定行為実践の関連法規 ② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習</p> <p>4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学修する。</p> <p>① 手順書の位置づけ ② 手順書の作成演習 ③ 手順書の評価と改良</p>					
授業の目標	<p>・多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践する能力を身につけることができる。</p> <p>・問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につけることができる。</p> <p>・自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につけることができる。</p>					
授業計画	回数	授業のテーマ	授業内容	学ぶべき事項	授業方法	担当教員
	1	特定行為関連法規と実践過程の構造	<ul style="list-style-type: none"> 1. 特定行為実践のための法規について学ぶ。 ・特定行為研修制度創設までの経緯 ・特定行為研修制度創設に関連する法的整理 ・特定行為及び指定研究機関に関する規定 	<ul style="list-style-type: none"> 3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ① 特定行為関連法規 ② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習 	講義 (2.7)	石井 邦子 木澤 晃代
		2. 特定行為を活用した実践課程の構造を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為を活用する看護師の役割、機能 ・様々な場での特定行為の活用 ・施設での連携の在り方と活動方法の検討 			

2	医療の質と安全	1 医療の質と安全:その原理・原則について: 医療は患者とその治療・ケアに携わる医療者の存在によって成立する。両者の意思決定は完璧ではないし誤りもある。医療は社会分業によって成り立っており、医療行為には多くの医療専門職が関わりを持っている。安全な医療を提供するには、errorが起こりやすい医療の本質を理解することがまず重要である。	1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証を学ぶ。 ① 医療倫理 ② 医療管理 ③ 医療安全 ④ ケアの質保証	講義 (3.0)	山本 武志
		2 医療安全の組織展開: 医療施設における医療安全は、組織的な管理の対象と位置づけられ、トップダウンだけではなく様々なレベルでの取り組みが推進されることが期待される。また、表層的なイメージの発信ではなく、医療が市民社会に認知され、信頼されるための情報提供や公開もまた医療専門職集団の職務である。 ※参考映像として、医療の質評価の方法論とその実践について、近年、QI (医療の質指標) やビッグデータを活用した医療の質管理及び安全管理の職種横断的、病院全体での取り組みが広まりつつある現状を紹介する。			

3	手順書の位置づけと手順書の作成・演習、及び評価と改良	根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等と共同で作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。 ・手順書の位置づけ ・手順書の作成と改良 ・手順書の評価と改良	4. 根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ。 ① 手順書の位置づけ ② 手順書の作成と改良 ③ 手順書の評価と改良	講義 (1.4) 演習 (3.8)	江村 正
4	アセスメント、仮説検証、意思決定の理論と演習	特定行為の実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ。 ・特定行為研修の活用に必要な思考と実践 ・特定行為実践のプロセスの振り返り ・活動成果の検証 ・活動する上での課題と対応	1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証を学ぶ。 ① 医療倫理 ② 医療管理 ③ 医療安全 ④ ケアの質保証	講義 (1.6) 演習 (3.8)	木澤 晃代
5	医療現場での倫理と患者参画・インフォームド・コンセントの理論と演習	1. 患者から見た医療安全・医療事故：医療の主眼は患者である。しかし、医療者の臨床推論や医療行為は患者からは見えにくく理解しがたい部分がある。また、患者には患者の医療者とは異なる観点や推論が存在する (Insider perspective) ため、それを共有・理解することが医療専門職に求められる。医療行為においてもその安全を確保するために患者が担うことのできる役割がある。 2. 医療安全と倫理：患者の安全を守ることは医療を提供する上で第一義とすべきである。しかし、患者やその家族の希望を優先しながら、一定のリスクを負わなくてはならない場面もある。医療技術の開発の現場においても同様のことが言える。第6回は、医療における	1. 特定行為実践に関連する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証を学ぶ。 ① 医療倫理 ② 医療安全 3. 特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ ① 特定行為関連法規 ② 特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習	講義 (4.7) 演習 (3.8)	船木 祝 山本 武志 石井 邦子

6	多職種協働実践：コンサルテーション・チーム医療の原理	多職種協働実践1 チーム医療の倫理と事例検討：チーム医療に必要なIPEとIPWの基本的な考え方と多職種協働実践の事例検討をするために、問題解決のプロセスとチーム形成のプロセスが運動したIPWを促進させる方法について学ぶ ・チーム医療からIPW及びIPWへの流れ ・IPWの構造と分析方法 ・IPWを促進するための課題と看護師の役割	2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割發揮のための多職種協働実践 (InterProfessional Work (IPW)) (他職種との事例検討等の演習を含む) を学ぶ。 ① チーム医療の理論検討 ② チーム医療の事例 ③ コンサルテーションの方法 ④ 多職種協働の課題	講義 (3.8)	大塚 暲子 吉村 学
	安全と患者中心主義との関係について、倫理原則の観点から、また実践の立場から考へる。 3 インフォームド・コンセントと看護師の役割について学ぶ。 ・患者の権利とインフォームド・コンセント ・インフォームド・コンセントにおける看護の役割と機能 ・インフォームド・コンセントの事例演習	1 多職種協働実践2：多職種協働実践の課題と看護師の役割。多職種協働実践の課題を踏まえ、IPWを促進させる方法について学ぶ。 ・多職種協働実践 (IPW) の課題 3 多職種協働実践3：コンサルテーションの方法 専門看護師が行っているコンサルテーションの実践例を通して、特定行為研修を修了した看護師が行うコンサルテーションのプロセスに	2. 特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割發揮のための多職種協働実践 (InterProfessional Work (IPW)) (他職種との事例検討等の演習を含む) を学ぶ。 ① チーム医療の理論検討 ② チーム医療の事例 ③ コンサルテーションの方法 ④ 多職種協働の課題		

			ついて学ぶ。 ・コンサルテーションのプロセス ・コンサルテーション時の留意点				
7	病院における医療安全	第6回までに医療安全に関する基本的な考え方や基礎知識について学んできた。第7回と第8回は医療施設での医療安全管理の実践について学ぶ。第7回は病院での医療安全の実践について、職場環境の整備、教育・研修、アクシデントやインシデントの分析、医療事故発生時の対応など、実例をまじえて紹介する。 ※参考映像として、医療安全確保のための政策展開について、診療報酬による政策誘導、医薬品・医療機器の標準化の推進、安全文化の提唱、保証制度の推進など、様々な取り組みを紹介する。	講義 (2.3) 演習 (2.5)	栗原 博之 後 信			
8	在宅における医療安全	在宅での治療・療養は、施設での医療と異なり、空間的にまた設備や物品の使用に関する制限がある。またその管理も恒常的に家族や患者本人の関わりが重要となる。第8回は在宅医療の実例をもとに、その安全管理の考え方、実践を学ぶ。	講義 2.7時間 160分	土島 智幸 山本 武志			
9	筆記試験 (オンライン上での試験)		試験 (1.0)				
実習	科目名：NP活動見学実習(1.0)で実施						
テキスト及び参考文献・参考資料							

評価方法	成績評価と単位認定：ディスカッション、レポートを含め演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の評価により行います。 なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要があります。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。 実習の評価は継続評価で行います。
その他	○履修上の留意点：この科目を履修するにあたっては「フィジカルアセスメント」「臨床推論」などの科目とあわせて履修することが望ましいです。受講にあたっては別途指定教科書と別途指定サイトでの自己学習を必須とします。受講にあたっては別途指定教材(図書)での自己学習を必須とします。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・本科目の受講はインターネットなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP 活動見学実習とプライマリケア看護学実習に必要な先修科目です。

科目分類	専門科目	対象学年	1			
授業科目	統合臨床病態生理学・疾病概論 (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期			
担当教員	東本 恭幸、山崎 一人、小川 薫、桐野 衛二、戸叶 隆司、清水 一雄、中井 章人、奈倉 道明、山田 京志、平原 佐斗司、田城 孝雄	選択必修	必修			
科目コード	講義・演習 (放送大学：オンライン)	単位数	2 (69.2時間)			
授業の概要	<p>臨床解剖学および臨床生理学、さらには臨床病理学の原則を理解し、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的かつ迅速に判断できるよう必要な知識と技術を学修する。また、主要疾患の臨床診断・治療を学修する。</p> <p>1. 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 脳血管障害/急性心筋梗塞/糖尿病/精神疾患</p> <p>2. その他の主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 循環器系/呼吸器系/消化器系/腎泌尿器系/内分泌・代謝系/免疫・膠原病系/血液・リンパ系/神経系/小児科/産婦人科/精神科/神経系/感染症/運動器系/感覚器系/その他</p> <p>3. 救急医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>4. 在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習</p> <p>看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、精緻化による時間数の減少に対応して、『臨床病態生理学特論』と『疾病・臨床病態概論』を統合し、再構築した科目である。</p>					
授業の目標	<p>看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において、ケアを安全に実践するために、重要な病態の変化や必要となる治療の特性を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な疾患に関わる臓器の機能異常を説明することができる。 代表的な疾患の病態や全身に及ぼす影響を説明することができる。 代表的な疾患の病態の発症と治療について説明することができる。 多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントすることができる。 多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。 					
授業計画	回数	授業のテーマ	授業内容	学ぶべき事項	授業方法	担当教員
	1	臨床解剖学総論	疾患が発生する基本概念である細胞障害、組織傷害と、これらを引き起こす病気の基本ルールである、「炎症」「腫瘍」「老化」「代謝障害」の原因と機序を学ぶ。	臨床病理学 (3.1)	講義 (3.1)	山崎 一人
	2	臨床解剖学および臨床生理学各論 (1)：呼吸器・循環器系、酸素運搬と赤血球、腎臓	細胞での物質/エネルギー代謝に必要な酸素を取り入れ、生じた二酸化炭素を排出する呼吸器系、物質の運搬/回収を行う基盤である循環器系、老廃物の排泄を担当する腎臓について学修する。さらに酸素や不要物の運搬を担当する赤血球、血漿や酸	臨床解剖学 臨床生理学 (5.6)	講義 (5.6)	山崎 正永

	3	臨床解剖学および臨床生理学各論 (2)：栄養の消化吸収と代謝およびその調節機構	塩基平衡の基礎も学ぶ。疾患が発生する基本概念である細胞障害、組織傷害と、これらを引き起こす病気の基本ルールである、「炎症」「腫瘍」「老化」「代謝障害」の原因と機序を学ぶ。 食物摂取・栄養の消化と吸収を行う消化器系臓器 (口腔から肛門にいたる消化管・膵臓および胆臓) の構造と機能について学び、代謝に関する内分泌系や全体の制御を行う自律神経系についても学ぶ。	臨床解剖学 臨床生理学	講義 (5.5)	東本 恭幸 小川 真
	4	臨床解剖学および臨床生理学各論 (3)：感覚器・中枢および末梢神経系	外界および身体内部からの刺激・情報を統合し、内部臓器系に加えて運動器の機能を統合・総括する中枢神経系の概要・老化に伴う変化などについて画像診断も踏まえて学修し、中枢神経系へ情報や中枢からの指示伝達を担当する末梢神経系についても学ぶ。	臨床解剖学 臨床生理学	講義 (5.3)	小川 真 ゲスト： 高橋 伸佳
	5	臨床解剖学および臨床生理学各論 (4)：皮膚・粘膜、骨および運動器系、泌尿器・生殖器系、血液成分と止血・凝固線溶系	外部環境に近接する皮膚、咽頭・喉頭・気道および泌尿器・生殖器系の構造と機能について感染防御機構と併せて学修する。さらに骨・筋肉系の構造と機能について学び、合わせて損傷治療や回復に必要な止血・凝固線溶系機構についても学ぶ。	臨床解剖学 臨床生理学	講義 (6.1) 演習 (4.5)	小川 真 東本 恭幸
	6	試験	オンライン上での試験		試験 (1.0)	
	7	脳血管疾患	脳血管障害は脳血管の閉塞または破綻により発症する脳障害で、3大死因のひとつであり、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があることを理解する。脳血管、脳循環の特	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	講義 (2.9)	小川 薫

		徴について学ぶ。原因となる疾患、血栓、塞栓、脳動脈瘤、動静脈奇形、などの特徴について理解する。手術やコイル・ステントを用いた血管内治療について学ぶ。			
8	糖尿病	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の成因と診断について学ぶ。 ・インスリン分泌機序と作用機序を理解する。 ・インスリン抵抗性と生活習慣病について学ぶ。 ・糖尿病の食事療法と運動療法を理解する。 ・糖尿病の薬物療法の特徴を学ぶ。 ・糖尿病の合併症について整理し、おのおのの病変の特徴を学ぶ。 	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 内分泌・代謝系/その他	講義 (2.8)	小川 薫
9	精神疾患 精神系疾患 神経系疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・精神障害の診断と疾病分類を理解する。 ・精神疾患の臨床病態を理解する。 ・精神系疾患の臨床病態を理解する。 ・気分障害 (感情障害) の診断と治療を学ぶ。 ・認知症の症状と病態について学ぶ。 ・中枢神経、末梢神経、など神経系の構造と働きを理解する。 ・運動系、感覚系、大脳皮質の3つに分けて、脳・神経系の症状を考える。 ・多岐にわたる神経障害を整理し、おのおのの病変の特徴を学ぶ。 	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 神経系/精神系/その他	講義 (3.4)	桐野 衛二
10	循環器疾患 心筋梗塞	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患の主要な症状を学ぶ。 ・先天性、後天性心疾患の主要な病態について学ぶ。 	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	講義 (4.3)	戸叶 隆司

		<ul style="list-style-type: none"> ・血圧のメカニズムを学び、血圧の異常による疾患について学ぶ。 ・動脈、静脈などの血管の疾患について理解する。 ・心筋梗塞は冠動脈の血流障害 (虚血) によって発症する心筋壊死であり、3大死因のひとつで最近増加傾向にあることを理解する。 ・心臓の構造と機能を理解したうえで、心筋梗塞の症状、診断、合併症、薬物治療、などについて学ぶ。 ・原因となる疾患、動脈硬化、血栓、などの特徴について理解する。 ・手術やステントを用いた血管内治療について学ぶ。 	循環器/その他		
1.1	消化器疾患 呼吸器疾患 感染症	<ul style="list-style-type: none"> ・消化器の構造と機能の概要を理解する。 ・消化器疾患の病状と病態を理解を把握する。 ・肺の構造を理解し、呼吸機能の仕組みを学ぶ。 ・呼吸機能の障害による頻度の高い症状について理解する。 ・感染症の発生機序の概略を理解する。 ・主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。 	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 呼吸器系/消化器系/感染症/その他	講義 (3.1)	小川 薫
1.2	免疫・膠原病 血液疾患 腎・泌尿器疾患	<ul style="list-style-type: none"> ・免疫システムを理解し、獲得免疫で中心的役割を担っているリンパ球の働きを理解する。 ・アレルギー疾患の発生機序の概略を理解する。 ・代表的な自己免疫疾患である膠原病に含まれる病気の 	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 免疫・膠原病系/血液・リンパ系/腎・泌尿器系/その他	講義 (4.8)	小川 薫

1.6	救急医療の臨床 診断・治療の 特性	救急医療の定義、仕組み、 救急医療システム、搬送シ ステムについて理解する。 ・初期治療のフィジカルアセ スメント、トリアージ、緊 急度判定、重症度判定につ いて学び、演習する。	状況に応じた臨床診断・ 治療(年齢特性を含む)を 学ぶ；救急医療の臨床診 断・治療の特性と演習	講義 (2.4) 演習 (3.0)	山田 京志 ゲスト： 川原 千香子
	1.7	在宅医療の臨床 診断・治療の 特性	在宅医療は療養者と家族が 暮らす生活のおこなわ れる。この在宅医療の特徴を 踏まえ、在宅の視点となる本 人・家族・環境のアセスメン トを学び、訪問看護の特徴に ついて学び、演習する。	講義 (1.7) 演習 (3.0)	平原 佐斗司
	1.8	試験	オンライン上での試験	試験 (1.0)	
	テキスト 及び参 考文 献・参 考資料				
	評価方法		成績評価と単位認定：ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の評価により行います。 なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要があるとあります。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。		
	その他		○履修上の留意点：この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「フィジカルアセスメント特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」「臨床薬理学特論」などの科目と合わせて履修することが望ましいです。受講にあたっては別途指定教材(図書)での自己学習を必須とします。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・本科目の受講にはインターネットなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP 活動見学実習とブライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。		

	それぞれその病態生理を理解する。 ・免疫不全症の種類と概要を説明できる。 ・貧血、感染、など血液疾患の主要な症状について学ぶ。 ・白血球疾患、赤血球疾患の臨床的特長を理解する。 ・腎臓の構造と機能の概要を理解する。 ・腎疾患の病状と病態生理を把握する。 ・主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 内分泌・代謝系/その他	講義 (2.9)	清水 一雄
1.3	内分泌疾患 の構造と機能の概要を理解する。 ・内分泌疾患の病状と病態生理を正確に把握する。 ・主な内分泌疾病について、その概要が述べられる。 ・主な疾病ごとに、特徴的な症状、診断基準、検査、患者指導のポイントが説明できる。			
1.4	運動器疾患 感覚器疾患 産婦人科疾患 小児科疾患 の構造と機能の概要を理解する。 ・運動器・感覚器疾患の病状と病態生理を把握する。 ・産婦人科疾患の病状と病態生理を把握する。 ・小児科疾患の臨床病態を理解する。 ・主な疾病ごとに特徴的な症状があり、その診断基準、必要な検査、患者指導のポイントを学ぶ。	主要疾患の臨床診断・治療を学ぶ 主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論 運動器系/感覚器系/小児科/産婦人科/その他	講義 (4.8)	小川 薫 中井 章人 奈倉 道明
1.5	試験	オンライン上での試験	試験 (1.0)	

4	<p>栄養・消化系・泌尿器系のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栄養・消化系・泌尿器系の概要 ・脳神経系の意義 ・腹部臓器とフィジカルアセスメント、腹部のアセスメントの順序・問診、腹部の視診、腹部の聴診、腹水のアセスメント、腹部の触診・腹部のアセスメントのまとめ ・消化・排泄のアセスメントのまとめ 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、腹部／泌尿器	講義 (4.7)	山内 豊明
5	<p>中枢神経系のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系のフィジカルアセスメントの進め方 ・意識とは、「生きていく」前提条件としての意識レベルの評価 ・意識障害の原因、緊急性の高い意識障害についてのフィジカルアセスメント ・「生きていく」ための高次脳機能の基本性能評価、高次脳機能ならではの評価 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、頭頸部 4. 状況に応じた身体診察 救急医療	講義 (3.9)	山内 豊明
6	<p>感覚系のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神経系の考え方とフィジカルアセスメント ・視覚のフィジカルアセスメント ・聴覚のフィジカルアセスメント ・他の感覚系のフィジカルアセスメント 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、頭頸部／神経系	講義 (4.3)	山内 豊明
7	<p>運動系のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動系のフィジカルアセスメントのコアと進め方 ・関節可動域の評価方法の原理、関節可動域の評価の実際と看護臨床への活用 ・筋力のスクリーニング評価、MMTの評価方法の原理、MMTの評価の実際と看護臨床への活用 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、神経系 ／四肢・脊柱	講義 (3.8)	山内 豊明
8	<p>発達課題・場面に応じたフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたフィジカルアセスメントの進め方、生直後、乳児期、幼児期の救急場面・在宅場面におけるフィジカルアセスメントの進め方 ・対象の特性に応じたフィジカルアセスメントの進め方、高齢者 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、乳房・リンパ節 3. 身体診察の年齢による変化、小児／高齢者 4. 状況に応じた身体診察 救急医療／在宅医療	講義 (4.9)	山内 豊明

科目分類	専門科目	対象学年	1	
授業科目	フィジカルアセスメント 特論Ⅰ (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期	
指導者	山内 豊明 (放送大学 教授)	選択/必修	必修	
科目コード	<p>講義 (放送大学:オンライン)</p>	単位数	1 (34.4時間)	
授業の概要	<p>看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かせない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論と技能を学修する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体診察基本手技の理論 2. 部位別身体診察手技と所見の理論 : 全身状態とバイタルサイン/頭頸部/胸部/腹部/四肢・脊柱・泌尿・生殖器/乳房・リンパ節/神経系 3. 身体診察の年齢による変化: 小児/高齢者 4. 状況に応じた身体診察: 救急医療/在宅医療 			
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め、生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 2. 1の根本にある生命体として「生きていく」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対処への連携を著実に果たせる医療者としての責務を果たすことができるようになることを目指し、それにより不可欠な知識及び技能の理論を学ぶことができる。 3. 以上を通して、多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることができる。 			
回数	授業内容	授業方法 (時間)	担当教員	
1	<p>フィジカルアセスメントの進め方・臨床推論 /バイタルサイン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論の実際・進め方 ・「生きていく」と「生きていく」 : 生命維持と生活場面 ・フィジカルアセスメントの進め方 ・バイタルサインの意義: コア中のコアとなる情報 	<p>学ぶべき事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体診察基本手技の理論 2. 部位別身体診察手技と所見の理論、全身状態とバイタルサイン 4. 状況に応じた身体診察 救急医療/在宅医療 	講義 (4.6)	山内 豊明
2	<p>呼吸のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸のフィジカルアセスメント方略 ・異常呼吸音 ・呼吸音聴取の完成に向けて ・呼吸音聴取の手技 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、胸部	講義 (4.0)	山内 豊明
3	<p>循環のフィジカルアセスメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環の総合評価 ・動脈系・静脈系のアウトカム評価 ・心音聴取の原理と手法 ・心雑音の臨床的意義の理解と判断手法 	2. 部位別身体診察 手技と所見の理論、胸部	講義 (4.2)	山内 豊明

9	筆記試験 (オンライン上での 試験)	試験 (1.0)
---	--------------------------	-------------

実習	科目名：N P P活動見学実習 (3.0) で実施 ・山内豊明 (2011) . フィジカルアセスメントガイドブック-目と手と耳とこまでわかる 第2版, 医学書院 筆記試験：筆記試験 (小テスト50%、最終テスト50%) ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。 実習の評価は観察評価で行います ○履修上の留意点：この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実習特論」「臨床推論」などの科目とあわせて履修することが望ましいです。受講にあたっては別途指定教科書と別途指定サイトでの自己学習を必須とします。受講にあたっては別途指定教材 (図書) での自己学習を必須とします。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっています。 ・本科目の受講にはインテナーネットなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、N P 活動見学実習とブライマリアケア看護学実習に必要な先修科目です。
----	---

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	フィジカルアセスメント特論II	学期	秋学期
担当教員	○横山淳美、山下一也、山崎啓一	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	1 (15 時間)
授業の概要	看護師が適切に特定行為を進行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法技能と所見の解釈を修得することを旨とする。具体的には、 ・複雑な健康問題を持った対象の身体状況について系統的に全身を審査し、対象の身体状態について、正 常から逸脱した状態が否か、根拠に基づき判断できる能力を学修する。 ・健康問題を解決する上で必要とされる、身体的・包括的な機能評価のための医学的知識を用いた視診・聴診・打診・触診などフィジカルアセスメントの技術を学修する。 1. フィジカルアセスメントに必要な基礎的知識を理解することができる。 2. 系統的にフィジカルイクサミネーションを実施することができる。 3. 複雑な健康問題を持った対象の重要な病態の変化や疾患を、包括的にいち早くアセスメントするための情報収集の方法と所見の解釈のための技能を身につけることができる。		
授業の目標	回数 1 身体診察の基本手技、全身状態とバイタルサイン 2 意識レベルの評価、意識障害の原因、緊急性の高い意識障害についてのフィジカルアセスメント (講義・演習) 3 脳神経系・視覚・聴覚・他の感覚系フィジカルアセスメント (講義・演習) 4 呼吸・循環のフィジカルアセスメント/超音波検査の活用 (講義・演習) 5 腹部を中心としたフィジカルアセスメント/超音波検査の活用 (講義・演習) 6～8 プライマリケア領域で遭遇する事例を用いたフィジカルアセスメント演習 ・小児/高齢者に応じたフィジカルアセスメント ・在宅・高齢者施設症例のシミュレーション		
授業の内容	テキスト及び 参考文献 ・参考資料 ・ Lynn S. Bickey (著), 福井次夫・井部俊子 他 監修 (2015) . ベイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル ・ Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学 原著 第4版, 診断と治療社 ・ 古谷伸之 (編) (2007) . 診察と手技がみえる1 第2版, メディックメディア 授業参加 (技術演習) における観察評価・討議内容・事前学習) 70% 筆記試験/課題レポート 30% 本科目は、授業目標達成状況に応じて総合的に評価し、フィードバックは適宜行う 受講のあり方 ・ 課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・ グループワークに積極的に参加してください。		

時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> 各々の予習内容をグループ内で検討し、内容をとりまとめ発表します。 <p>授業時間外学習（予習・復習）のアドバイス</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p> <p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は、基本対面形式で219 教室を使用します。動きやすい服装で授業に臨んでください。 本科目はNP 見学活動実習とブライマリアケア看護学実習 II に必要な先修科目です。 本科目は、特定行為研修の共通科目です。 授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の望んでください。 授業の前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行って臨んでください。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	1																								
授業科目	臨床推論 (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期																								
担当教員	北村 聖、山脇 正永、内藤 俊夫、桐生 茂	選択/必修	必修																								
科目コード	授業形態 (放送大学：オンライン)	単位数	1 (28.1時間)																								
授業の概要	<p>看護師が特定行為を行う場合に必要とされる実務能力の基礎となる知識・技能の向上を図るために、臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について学習する。看護師の特定行為研修制度の対応科目のひとつであり、指定の以下の内容を含むものをも学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床推論とは 2. 診療のプロセス 3. 臨床推論 (症候学を含む) の理論 4. 医療面接の理論 5. 各種臨床検査の理論 6. 画像検査の理論 7. 臨床疫学の理論 8. まとめ-EBM、生涯教育と行動の学習 																										
授業の目標	<p>看護師が適切に臨床実践するに際して、対象の身体的情報を的確に捉え、それらを臨床場面における推論に結びつけていく必要がある。本科目においては看護師が適切に臨床実践するに際して、多様な臨床場面において必要な治癒を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につけることを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床推論の基本的な考え方について説明することができる。 症例に関する情報の収集・分析することができる。 得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出することができる。 																										
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業のテーマ</th> <th>授業内容</th> <th>学ぶべき事項</th> <th>授業方法</th> <th>担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>臨床推論とは</td> <td> <p>医科目全体の導入として、「臨床推論」とはどのようなのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床推論の基本的考え方はもつとも重要な項目で、論理的な思考法の導入部である。 その他の概念や用語についても考える。科目の受講の仕方についても、紹介する。 </td> <td> <p>1. 臨床推論とは</p> </td> <td> <p>講義 (1.9)</p> </td> <td> <p>北村 聖 山脇 正永</p> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>診療のプロセスについて</td> <td> <p>診療プロセスについて考える。患者が主訴を持って受診し、医療面接から診療が始まる。医療面接で得られた情報から、検査計画が立てられ、実行に移される。検査結果から治療計画が立てられる。このようなプロセスでの思考法について学ぶ。</p> </td> <td> <p>2. 診療のプロセス</p> </td> <td> <p>講義 (3.5)</p> </td> <td> <p>山脇 正永</p> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>臨床推論 (症候学)</td> <td> <p>臨床推論の理論について学</p> </td> <td> <p>3. 臨床推論 (症候学を</p> </td> <td> <p>講義</p> </td> <td> <p>内藤 俊夫</p> </td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業のテーマ	授業内容	学ぶべき事項	授業方法	担当教員	1	臨床推論とは	<p>医科目全体の導入として、「臨床推論」とはどのようなのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床推論の基本的考え方はもつとも重要な項目で、論理的な思考法の導入部である。 その他の概念や用語についても考える。科目の受講の仕方についても、紹介する。 	<p>1. 臨床推論とは</p>	<p>講義 (1.9)</p>	<p>北村 聖 山脇 正永</p>	2	診療のプロセスについて	<p>診療プロセスについて考える。患者が主訴を持って受診し、医療面接から診療が始まる。医療面接で得られた情報から、検査計画が立てられ、実行に移される。検査結果から治療計画が立てられる。このようなプロセスでの思考法について学ぶ。</p>	<p>2. 診療のプロセス</p>	<p>講義 (3.5)</p>	<p>山脇 正永</p>	3	臨床推論 (症候学)	<p>臨床推論の理論について学</p>	<p>3. 臨床推論 (症候学を</p>	<p>講義</p>	<p>内藤 俊夫</p>		
回数	授業のテーマ	授業内容	学ぶべき事項	授業方法	担当教員																						
1	臨床推論とは	<p>医科目全体の導入として、「臨床推論」とはどのようなのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床推論の基本的考え方はもつとも重要な項目で、論理的な思考法の導入部である。 その他の概念や用語についても考える。科目の受講の仕方についても、紹介する。 	<p>1. 臨床推論とは</p>	<p>講義 (1.9)</p>	<p>北村 聖 山脇 正永</p>																						
2	診療のプロセスについて	<p>診療プロセスについて考える。患者が主訴を持って受診し、医療面接から診療が始まる。医療面接で得られた情報から、検査計画が立てられ、実行に移される。検査結果から治療計画が立てられる。このようなプロセスでの思考法について学ぶ。</p>	<p>2. 診療のプロセス</p>	<p>講義 (3.5)</p>	<p>山脇 正永</p>																						
3	臨床推論 (症候学)	<p>臨床推論の理論について学</p>	<p>3. 臨床推論 (症候学を</p>	<p>講義</p>	<p>内藤 俊夫</p>																						

	学を含む の理論	らえ、その中で、症候学や診 断仮説について学ぶ。 医療面接の理論の実際につ いて学ぶ。医療面接は診療で もっとも重要なステップで あり、患者満足度にも直結す る。講義では医療面接のポイ ントをしっかりと学ぶ。	む) の理論	(3.7) 講義 (4.2)	北村 聖
4	医療面接の理論	医療面接の理論の実際につ いて学ぶ。医療面接は診療で もっとも重要なステップで あり、患者満足度にも直結す る。講義では医療面接のポイ ントをしっかりと学ぶ。	4. 医療面接の理論		北村 聖
5	各種臨床検査の 理論	臨床検査における臨床推論 の理論について考える。とく に、有効な検査計画について 考えたい。ついで、検査判断 法の理論と実践についても 考える。	5. 各種臨床検査の理論 心電図/血液検査/尿検査 /病理検査/微生物学検査 /生理機能検査/そのほか の検査	講義 (4.3)	北村 聖
6	画像検査の理論	画像検査の理論と実践につ いて学ぶ。各検査法における 画像の成り立ちを理解して、 得られた画像検査結果の解 釈の基本についても学ぶ。	6. 画像検査の理論 放射線の影響/単純エツ クス線検査/超音波検査 /CT・MRI/そのほかの画像 検査	講義 (4.4)	桐生 茂
7	臨床疫学の理論	臨床疫学は科学的根拠に基 づいた医療 (EBM) の基本であ る。EBM は臨床推論の根底を 流れる思考法であり、現代医 療においては最も重要な臨 床疫学である。この臨床 疫学について学ぶ。	7. 臨床疫学の理論	講義 (3.9)	山脇 正永
8	まとめ-EBM、生 涯教育と行動の 学習について	EBM(evidence-based medicine)、生涯教育と行動 の学習について考える。科目 のまとめとして論理的思考 法、臨床判断学、そして生涯 学習について考える。	3. 臨床推論 (症候学を含 む) の理論 4. 医療面接の理論 7. 臨床疫学の理論	講義 (2.2)	北村 聖 山脇 正永
9	試験	オンライン上での試験		試験 (1.0)	
実習	科目名：NP 活動見学実習(1.0)で実施				
テキスト 及び参 考文 献・参 考資料					

評価方法	成績評価と単位認定：筆記試験の小テスト(50%)および最終テスト(50%)の評価により行います。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。 実習の評価：観察評価で行います。
その他	○履修上の留意点：この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「フィジカルアセ スメント特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」「臨床薬理学特論」などの科目と合わせて履修すること が望ましいです。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・本科目の受講にはインターネットなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP 活動見学実習とプライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	臨床薬理学特論 I (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期
担当教員	柳田 俊彦	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 (放送大学：オンライン)	単位数	1 (45 時間)
授業の概要	薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、主要な疾患別の治療薬ならびに予防薬の薬効、作用機構、副作用、リスクマネジメント等、臨床における薬物の理論と実際について学修する。また、小児、女性、高齢者等、年齢による特性、個体差のある薬理作用と主要薬物の安全管理を学修する。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 薬理学・薬剤学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を理解することができる。 薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明することができる。 各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討することができる。 主要薬物の安全管理と処方理論を理解することができる。 		
回数	授業のテーマ	授業内容	授業方法
1	薬理学総論	医薬品と、その適性な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物治療の基本概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律、開発から臨床応用まで ・作用原理について (薬力学と薬物動態学) ・好ましくない副作用 (有害作用) と薬物相互作用	講義 (4.0) 演習 (4.5)
2	薬理学各論 (1) 末梢神経、中枢神経に作用する薬物	末梢神経、中枢神経に作用する薬物について、主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係について学ぶ。	講義 (3.6) ゲスト： 上園 保仁
3	薬理学各論 (2) 抗炎症薬、抗アレルギー薬、呼吸器系に作用する薬物	根拠抗炎症薬、抗アレルギー薬、呼吸器系に作用する薬物について、主要薬物の薬理作用・副作用とはどうい	講義 (3.5) ゲスト： 磯濱 洋一郎
4	薬理学各論 (3) 心血管系、血液系に作用する薬物	1. 薬物動態の理論と演習 2. 主要薬物の薬理作用・副作用の理論	講義 (3.9) 演習 (4.5)

5	試験	オンライン上での筆記試験	試験 (1.0)	ゲスト： 武田 泰生
6	薬理学各論 (4) 内分泌系、代謝系、泌尿生殖器系に作用する薬物	薬理学各論 (4) 内分泌系、代謝系、泌尿生殖器系に作用する薬物	講義 (3.5)	柳田 俊彦 ゲスト： 武田 泰生
7	薬理学各論 (5) 感染症に使用する薬物、消毒薬	感染症に使用する薬物について、主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係、及び用法について学ぶ。	講義 (3.5)	柳田 俊彦 ゲスト： 赤瀬 智子
8	薬理学各論 (6) 抗がん薬、緩和ケア、漢方薬	抗がん薬、緩和ケアに使用する薬物、漢方薬について、主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係について学ぶ。	講義 (3.8)	柳田 俊彦 ゲスト： 上園 保仁
9	主要薬物の安全管理と処方論	主要薬物の安全管理と処方とはどういうものか、年齢による特性 (小児/高齢者) や妊娠・出産・授乳期の特性も含めて、医療安全、高リスク患者について学ぶ。さらに、医薬品をめぐる問題として、誤った使用に起因する事故の回避や副作用の回避、疑義照会などについて学ぶ	講義 (3.9) 演習 (4.5)	柳田 俊彦 ゲスト： 武田 泰生
10	試験	オンライン上での試験	試験 (1.0)	
				テキスト 及び参考文献・参考資料

評価方法	成績評価と単位設定：ディスカッション、レポートを含む演習(20%)、小テスト(40%)、および最終テスト(40%)の評価を行います。なお、最終テストを受験するには演習課題をすべて提出する必要があります。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかった場合の再試験制度はありません。
その他	○履修上の留意点：この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定行為実践特論」「臨床推論」「フイジカルアセスメント特論」「統合臨床病態生理学・疾病概論」などの科目と合わせて履修することが望ましい。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に該当した科目となっております。 ・本科目の受講にはインテナーネットワークなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP 活動見学実習とブライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	臨床薬理学特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	直良浩司、玉木宏樹、後藤貴樹、遠藤進一、矢野貴久、石原慎之、曾田重人	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義	単位数	1
授業の概要	慢性疾患を中心とした疾患の治療に用いる薬物についての作用機序、体内動態(血中濃度)、代謝経路、副作用、適応疾患、年齢依存性などの基本的事項を理解し、安全管理の視点での処方にあたっての留意点、年齢や病態による薬物動態の変動、および薬物相互作用について学ぶ。薬物療法を受ける対象者に対する実践的な観察能力、判断能力を高めることを目指す。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定行為に係る薬物の作用機序、生体内動態、及び薬理作用と副作用の関係を説明できる。 ・各種疾病の病態生理や病状を考慮した上で、薬理学的根拠に基づいた適切な治療薬物の使用方法を検討できる。 ・主要薬物の安全管理と処方の理論を理解できる。 		
回	内容	特定行為ごとに学ぶべき事項	担当
1-2	薬理学の概要、薬物の作用様式と作用機序 薬物動態、相互作用 薬害と有害作用、処方の概要と薬の投与設計 医薬品の関与する医療事故の現状 添付文書・医薬品インタビューフォームの見方	血糖コントロール ・インスリン製剤の種類と臨床薬理 ・各種インスリン製剤の副作用 栄養水分管理 ・高カロリー輸液の種類と臨床薬理 ・高カロリー輸液の副作用と評価 ・脱水症状に対する輸液補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	直良浩司 玉木宏樹 (島根大学医学部 附属病院)
3	インスリン製剤の種類と臨床薬理及び副作用	感染症に係る薬剤投与 ・抗生剤の種類と臨床薬理 ・感染徴候がある者に使用するその他の薬剤の種類と臨床薬理 ・感染徴候がある者に使用するその他の各種薬剤の副作用	後藤貴樹 (島根大学医学部 附属病院) 遠藤進一 (島根大学医学部 附属病院)
4	高カロリー輸液の種類と臨床薬理及び副作用と評価 脱水症状に対する輸液補正に必要な輸液の種類と臨床薬理	他の各種薬剤の副作用 精神および神経症状 ・抗けいれん剤の種類と臨床薬理 ・各種鎮痛薬の種類と臨床薬理 ・抗精神薬の種類と臨床薬理 ・各種抗精神病薬の副作用 ・抗不安薬の種類と臨床薬理 ・抗不安薬の副作用	矢野貴久 石原慎之 (島根大学医学部 附属病院)
5-6	抗菌薬の種類と臨床薬理及び抗菌薬の副作用 感染兆候がある者に使用する抗菌薬以外の薬剤とその副作用	精神および神経症状 ・抗けいれん剤の種類と臨床薬理 ・各種鎮痛薬の種類と臨床薬理 ・抗精神薬の種類と臨床薬理 ・各種抗精神病薬の副作用 ・抗不安薬の種類と臨床薬理 ・抗不安薬の副作用	曾田重人 (島根大学医学部 附属病院)
7	抗けいれん剤・抗精神病薬・抗不安薬の種類と臨床薬理及び副作用		
8	試験		
参考文献	特に定めない。(授業で資料を配布する)		
テキスト	臨床薬理学第4版(日本臨床薬理学会編) 医学書院、 病氣とくすり2020基礎と実践 Expert's Guide(薬局2020年3月増刊号) 南山堂、 糖尿病治療ガイド2020-2021(日本糖尿病学会編) 文光堂		
評価方法	筆記試験		

その他
 ・授業は原則「対面」で行う。

科目分類	専門科目	対象学年	1				
授業科目	特定行為共通科目統合演習 (放送大学大学院 単位互換科目)	学期	春学期				
指導者	山内 豊明、北村 聖、三苫 里香、橋本 迪生、栗原 博之、山本 武志、土島 智幸	選択/必修	必修				
科目コード	<table border="1"> <tr> <td>授業形態</td> <td>演習 (放送大学：オンライン)</td> </tr> <tr> <td>単位数</td> <td>1 (33.3時間)</td> </tr> </table>	授業形態	演習 (放送大学：オンライン)	単位数	1 (33.3時間)		
授業形態	演習 (放送大学：オンライン)						
単位数	1 (33.3時間)						
授業の概要	<p>看護師の特定行為研修制度の対応科目である「医療安全学特論」「臨床推論」「フィジカルアセスメント特論」の演習をとおして、実践能力の基礎となる知識・技能の向上を図る。演習には、指定の以下の内容を含むものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する理論・原則、医療安全の推進に関わる制度・システム、医療施設における組織的な取組みや実践例、患者との関わりについて、事例検討をとおして実践につなげる能力を身につける。 2. 臨床診断学、臨床検査学、症候学、臨床疫学について、以下の演習をとおして実践につなげる能力を身につける。 <ul style="list-style-type: none"> ・臨床推論 (症候学を含む) 演習 ・医療面接演習 ・各種臨床検査演習 ・画像検査演習 ・臨床疫学演習 3. 看護師が適切に特定行為を遂行するために欠かすことのできない身体面に関する情報収集の方法論と所見の解釈についての理論に基づき、以下の演習をとおして技能の習得を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・身体診察基本手技演習 ・個別身体診察手技と所見演習 						
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全の原理・原則を理解し、実践につなげることができる。 ・医療安全に関わる法、倫理、制度、システムを理解することができる。 ・医療事故事例を分析し、対策を検討することができる。 ・臨床推論の基本的な考え方について説明することができる。 ・症例に関する情報の収集・分析することができる ・得られた情報をもとにその症例の問題点を抽出することができる。 ・生活者として「生きていく」ための身体機能のアセスメントを進め生活者を支える看護活動への指針を与えることができる。 ・生命体として「生きている」ことをモニタリングし、その逸脱の早期発見と適切な対処への連携を着実に果たせる医療者としての責務を果たすことができる。 ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につけることができる。 						
授業計画	回数	授業内容	学ぶべき事項	授業方法 (時間)	担当教員		
	1	臨床推論・医療面接演習 医療面接の動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び学習論への参加) を行う。良い点、改善すべき点などを議論する。	臨床推論 2. 臨床推論 (症候学を含む) 演習 3. 医療面接の演習	演習 (3.5)	北村 聖		

9	筆記試験 (オンライン上での試験) :臨床推論、フィジカルアセスメント、医療安全	試験 (1.0)
テキスト	【指定教材 (図書)】『フィジカルアセスメント ガイドブック-目と手と耳とでここまでわかる』 (山内豊明/医学書院; 第2版 (2011/12/9)/¥2,592/単行本 224 頁/ISBN978-4-260-01384-0) 【指定教材 (聴診器) Web 教材】ではイヤホンを用いて呼吸音聴取の演習を行います。その後、生体に対して実際の聴診を演習する際には聴診器が必要となります。呼吸音聴取のためには、ある程度の品質を備えた聴診器が不可欠です。定価で15,000~20,000 円程度のものが相応しいと考えます (販売価格は時期により変動します)。 【指定サイト】授業内で提示します。※この科目を受講する際には、ご自身で指定教材をご用意ください。 成績評価と単位認定: 演習 (ディスカッション、レポート、シミュレーション) による演習) の評価により行います。 ※オンライン上の学習で評価します。単位修得できなかつた場合の再試験制度はありません。	
評価方法	その他	
その他	○履修上の留意点: この科目を履修するにあたっては「統合医療安全・特定指定教科書と別途指定サイトでの自己学習を必須とします。受講にあたっては別途指定教材 (図書) での自己学習を必須とします。 本学教員からのメッセージ ・本科目は、遠隔形式の授業です。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の共通科目に対応した科目となっております。 ・本科目の受講にはインターネットなどの受講環境が必要です。詳細は放送大学ホームページをご覧ください。 ・本科目は、NP 活動見学実習とブライマリアケア看護学実習に必要な先修科目です。	

2	身体診察基本手技演習 身体診察基本手技の動画をみた後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	山内 豊明 三宮 里香
3	部位別身体診察手技と所見演習 指定のシミュレーション教材を用いて自己演習をした後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	山内 豊明 三宮 里香
4	各種臨床検査演習 各種臨床検査の結果を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	北村 聖
5	画像検査演習 各種画像検査の画像を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	北村 聖
6	臨床疫学演習 EBM (evidence-based medicine) によって臨床判断を行う動画を見た後に、一定期間内にオンライン上で設問解答、課題解答 (及び討論への参加) を行う。	北村 聖
7	医療安全・ケアの質保証の事例検討 医療事故事例、警鐘事例を取り上げ、その原因や対策を具体的に検討することにより、医療安全に関わる知識、方法論を習得する。	橋本 由生 栗原 博之
8	医療倫理・医療管理の事例検討 医療安全のための組織的な取り組みとして TeamsTEPPS を取り上げる。また、具体的な事例の検討・分析に基づき、医療安全にかかわるマネジメントに携わる知識・態度を身につける。	山本 武志 土屋 智幸

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリ・ケア看護学演習Ⅰ： ・呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連 ・血糖コントロールに係る薬剤投与関連	学期	春学期
担当教員	横山 淳美、田原 英樹、磯和 理貴、並河 哲志、長見 晴彦、山下 一也	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習・実習	単位数	1 (26時間)
授業の概要	看護の対象（成人を含む高齢者・家族・地域社会）に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。 具体的には、 ・安全に気管カニューレの交換を実施するための臨床判断と知識、技術、態度を学修する。 ・患者特性に応じた血糖コントロールを行うためのインスリン投与量の調整の根拠と方法を学修する。 ・多様な臨床場面において気管カニューレの交換を行うための知識、技術、態度の基礎を見つけることができる ・多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、気管カニューレ交換の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身に付けることができる ・多様な臨床場面においてインスリン投与量の調整の根拠と方法を理解することができる ・多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、インスリン投与量調整の実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身に付けることができる		
授業計画	回数	授業内容	担当教員
	1～5	長期呼吸療法にかかわるもの 1. 気管切開に関する局所解剖 2. 気管切開を要する主要疾患の病態生理 3. 気管切開を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 気管切開の目的 5. 気管切開の適応と禁忌 6. 気管切開に伴うリスク（有害事象とその対策等） 気管カニューレの交換 1. 気管カニューレの適応と禁忌 2. 気管カニューレの構造と選択 3. 気管カニューレの交換の手法 4. 気管カニューレの交換の困難例の種類とその対応	磯和 理貴 田原 英樹 山下 一也 横山 淳美

	1. 長期呼吸療法における気管カニューレ交換の事例を作成、病態に応じた気管カニューレ交換の判断、全身状態の評価と交換後のケアとその報告についてグループワークをする。 2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献購読	実技試験 (1.5)	外部 評価者 横山 淳美
6	OSCE (Objective Structured Clinical Examination)	試験 (1.0)	長見 晴彦 並河 哲志
7	筆記試験 血糖コントロールに係る薬剤投与関連 1. 糖尿病とインスリン療法に関する局所解剖 2. 糖尿病とインスリン療法に関する病態生理 3. 糖尿病とインスリン療法に関するフィジカルアセスメント 4. インスリン療法の目的 5. 糖尿病とインスリン療法に関する検査（インスリン療法導入基準を含む） 6. 各種インスリン製剤の種類と臨床薬理 7. 各種インスリン製剤の適応と使用方法 8. 各種インスリン製剤の副作用	講義 (5.5)	
8～18	インスリンの投与量の調整 1. 病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準（ペーパーベース・ミレーションを含む） 2. 病態に応じたインスリンの投与量の調整のリスク（有害事象とその対策等） 3. 外来でのインスリン療法と入院の適応 4. インスリン療法に関する患者への説明 1. 糖尿病ケトアシドーシス、糖尿病高浸透圧症候群、重篤な合併症、シックデイなど患者の病態の特性に応じたインスリン投与量の調整の判断基準と具体的方法、およびそのリスクについて、ケアとその報告についてそれぞれグループワークをする。 2. 低血糖と治療変更時のインスリン投与量の調整への対応を中心とした事例を作成、病態に応じたインスリン投与量の調整の判断基準とその具体的方法、およびそのリスクについて、ケアとその報告についてグループワークをする。 2. 手順書作成 3. 診療治療ガイドライン・文献購読	講義 演習 (9.0)	並河 哲志 山下 一也 横山 淳美
19	筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美

テキスト及び参考図書・参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・Harrison 著者、福井次矢 監修 (2017) : ハリソン内科学 第5版, メディカルサイエンスインターナショナル ・独立行政法人地域医療機能推進機構 (JHCO) 監修 (2018) : 呼吸器 (長期呼吸療法に係関連), メディカ出版, 2018. ・日本慢性期医療協会 編集 (2015) : 看護師特定行為研修テキスト - 区分別科目編, 株式会社メディクス ・各疾患診療ガイドライン 他
評価方法	<p>試験 40% (筆記試験、実技評価)</p> <p>レポート 20 % (事例レポート、手順書)</p> <p>授業態度 40% (事前学習、参加態度 等)</p> <p>OSCE 評価者: 田邊 翔太 医師 (松江赤十字病院 救急総合診療科 部長)</p>
学習の方法	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・グループワークに積極的に参加してください。 ・各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバイス</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめるとを勧めます。</p>
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、基本対面形式の授業です。 ・本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 ・各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の区分別科目に对应した科目となっております。 ・本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の望んでください。 ・OSCE の実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行って臨んでください。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学演習Ⅱ：ろう孔管理関連	学期	春学期
担当教員	横山 淳美、藤代 浩史、田原 英樹、吉野 千城、山下 一也	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習・実習	単位数	1 (25時間)
授業の概要	<p>看護の対象 (成人を含む高齢者・家族・地域社会) に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を修得するために、シミュレーショントレーニングを行う。</p> <p>具体的には、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・胃ろう・腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンを安全に交換・管理するための基礎的な知識及び方法を学修する ・ろう孔造設に関連する病態から的確に判断するための根拠と方法を学修する。 ・膀胱ろうカテーテルを安全に交換・管理するための基礎的な知識及び方法を学修する。 ・多様な臨床場面において胃ろうカテーテルもしくは腸ろうカテーテルまたは胃ろうボタンの交換を実施するための基礎的な知識を身につけることができる。 ・多様な臨床場面において膀胱ろうカテーテルの管理を行うための知識、技術及び態度の基礎を身につけることができる。 ・多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。身につけることができる。 		
授業の目標	<p>胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胃ろう、腸ろうに関する局所解剖 2. 胃ろう、腸ろうを要する主要疾患の病態生理 3. 胃ろう、腸ろうを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. カテーテル留置と患者のQOL 5. カテーテルの感染管理 6. カテーテル留置に必要なスキンケア 		
授業計画	回数	授業方法 (時間)	担当教員
	1~6	講義 (9.0)	田原 英樹 藤代 浩史 吉野 千城 山下 一也 横山 淳美
	7~11	講義 演習 (7.5)	田原 英樹 藤代 浩史 山下 一也 横山 淳美

	<p>8. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の時期</p> <p>9. 胃ろう、腸ろうカテーテル及び胃ろうボタンの交換の方法</p> <p>1. 胃ろう・腸ろう管理関連に関する演習 ろう孔管理への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた胃ろう若しくは腸ろう及び胃ろうボタンの交換への判断基準、交換時のリスク評価（有害事象とその対応など）、交換後のケアと報告について</p> <p>2. 手順書作成</p> <p>3. 治療ガイドライン・文献精読</p> <p>胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換の方法の演習</p> <p>腸ろうカテーテルの交換</p> <p>1. 腸ろうの目的</p> <p>2. 腸ろうの適応と禁忌</p> <p>3. 腸ろうに伴うリスク（有害事象とその対策等）</p> <p>4. 腸ろう造設術</p> <p>5. 腸ろうカテーテルの種類と特徴</p> <p>6. 腸ろうカテーテルの交換の時期</p> <p>7. 腸ろうカテーテルの交換の方法</p>	<p>講義 演習 (5.5)</p>	<p>吉野 千城 横山 洋美</p>
12～15	<p>OSCE (Objective Structured Clinical Examination)</p>	<p>実技試験 (1.5)</p>	<p>外部 評価者</p>
17	<p>筆記試験</p>	<p>試験 (1.5)</p>	<p>横山 洋美</p>
テキスト及び参考図書・参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・Harrison(著)、福井次夫(監修) (2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインターナショナル ・独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）監修、ろう孔管理関連、メディアカ出版、2019. ・各種が疾患治療ガイドライン 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 30% ・レポート 20% (事例レポート、手順書作成を含む) ・授業態度 50% (事前学習、参加態度等) <p>OSCE 評価者：大野 博文 医師（松江赤十字病院 泌尿器科・副腎外科、医療技術部部长）</p>		
学習の方法	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・グループワークに積極的に参加してください。 ・各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習（予習・復習）のアドバイス</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p>		
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p>		

<ul style="list-style-type: none"> ・本科目は、基本対面形式の授業です。 ・本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 ・各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の区分別科目に対応した科目となっております。 ・本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の望んでください。 ・OSCE の実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画に行なって臨んでください。 	
--	--

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	ブライマリ・ケア看護学演習Ⅲ： ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 ・栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連	学期	春学期
担当教員	横山 淳美、徳家 敦夫、山崎 啓一、山下 一也	選択必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習・実習	単位数	1 (26時間)
授業の概要	看護の対象(成人を含む高齢者・家族・地域社会)に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。 具体的には、安全に栄養に係るカテーテル管理を実施することや安全に栄養・水分管理に薬物投与を実施するための臨床判断と知識・技術・態度の基礎を学ぶ。		
授業の目標	・多様な臨床場面において慢性創傷の管理を実施するための知識・技術・態度の基礎を身につけることができる ・多様な臨床場面において、栄養に係るカテーテル管理や利用及び水分管理に係る薬剤投与の実施、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。		
	授業内容	授業方法 (時間)	担当教員
授業計画	授業内容 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 1. 循環動態に関する局所解剖 2. 循環動態に関する主要症候 3. 脱水や低栄養状態に関する主要症候 4. 輸液療法に関する目的と種類 5. 病態に応じた輸液療法に適応と禁忌 6. 輸液時に必要な検査 1～4	講義 (5.5)	徳家 敦夫 山崎 啓一 山下 一也
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連：持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 1. 低栄養状態に関する局所解剖 2. 低栄養状態の原因と病態生理 3. 低栄養状態に関するフィジカルアセスメント 4. 低栄養に関する検査 5. 高カロリー輸液の適応と使用方法 6. 高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 9. 低栄養状態の判断と高カロリー輸液のリスク(有害事象とその対策等) 10. 高カロリー輸液に関する栄養学 5～7	講義 演習 (4.5)	徳家 敦夫 山崎 啓一
	1. 低栄養の程度に応じた補液の選択・実施・評価；高カロリー輸液		

	投与における事例を作成、病態に応じた輸液の判断基準、投与時のリスク評価(有害事象とその対応など)、投与後のケアと報告について；ペーパーシミュレーション演習 2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献講読		徳家 敦夫 山崎 啓一 横山 淳美
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連；脱水症状に対する輸液による補正 1. 脱水症状に関する局所解剖 2. 脱水症状の原因と病態生理 3. 脱水症状に関するフィジカルアセスメント 4. 脱水症状に関する検査 5. 脱水症状に対する輸液による補正の適応と使用方法 6. 脱水症状に対する輸液による補正の副作用 7. 脱水養生に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む) 8. 脱水症状の程度と輸液による補正のリスク(有害事象とその対策等) 2. 脱水の程度に応じた輸液の選択・実施・評価；脱水症状による補正における事例を作成、病態に応じた輸液の判断基準、投与時のリスク評価(有害事象とその対応など)、投与後のケアと報告について；ペーパーシミュレーション演習 2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献講読	講義 演習 (4.5)	徳家 敦夫 山崎 啓一 横山 淳美
8-10			
11	筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに関する局所解剖 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患の病態生理 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルを要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの目的 5. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの適応と禁忌 6. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルに伴うリスク(有害事象とその対策等)	講義 (2.5)	徳家 敦夫 山崎 啓一
12・13			
14～17	栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管	講義	徳家 敦夫

・OSCEの実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行って臨んでください。

		理)関連：末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入 1. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の適応と禁忌 2. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入に伴うリスク (有害事象とその対策等) 3. 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入の方法と手技 4. オリエンテーション (演習・手順書作成)	演習 (5.0)	山崎 啓一
	18	筆記試験	試験 (1.0)	横山 淳美
	19	OSCE Objective Structured Clinical Examination) ・Harrison 著者, 福井次矢 監修 (2017) : ハリソン内科学 第5版, メディカルサイエンスインターナショナル ・独立行政法人地域医療機能推進機構 (JHCO) 監修 (2019) : 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連, メディカ出版 ・各種疾患治療ガイドライン	実技試験 (1.5)	外部 評価者
テキスト及び参考図書・参考資料	<ul style="list-style-type: none"> ・Harrison 著者, 福井次矢 監修 (2017) : ハリソン内科学 第5版, メディカルサイエンスインターナショナル ・独立行政法人地域医療機能推進機構 (JHCO) 監修 (2019) : 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連, メディカ出版 ・各種疾患治療ガイドライン 			
評価方法	<p>1. 栄養及び水分管理にかかわる薬剤投与関連栄養に係るカテーテル管理関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 30% ・レポート 20% (事例レポート, 手順書作成を含む) ・授業態度 50% (事前学習, 参加態度 等) <p>2. 栄養に係るカテーテル管理関連</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 20% ・レポート 20% (事例レポート, 手順書作成を含む) ・技術試験 30% ・授業態度 30% (事前学習, 参加態度 等) <p>OSCE 評価者: 宇賀田 圭 医師 (松江赤十字病院 集中治療部)</p>			
学習の方法 ・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・グループワークに積極的に参加してください。 ・各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバイス 授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめます。</p>			
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本科目は基本対面形式の授業です。 ・本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 ・各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・本科目は、看護師の特定行為研修の区分別科目に対応した科目となっております。 ・本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 ・授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の望んでください。 			

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学演習Ⅳ：創傷管理関連	学期	春学期
担当教員	横山 淳美、辻野 佳雄、東 耕一郎、西村 恭子、小原 友子、山下 一也	選択/必修	必修
科目コード	授業形態	単位数	1 (28 時間)
授業の概要	看護の対象（成人を含む高齢者・家族・地域社会）に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーショントレーニングを行う。 具体的には、安全に慢性創傷の管理を実施するための臨床判断と知識・技術・態度の基礎を学修する。 ・多様な臨床場面に於いて慢性創傷の管理を実施するための知識・技術・態度の基礎を身につけることができる ・多様な臨床場面に於いて、慢性創傷の予防・悪化予防の実施、医師または歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。		
授業計画	授業内容	授業方法 (時間)	担当教員
回数			
1～7	1. 創傷管理関連 2. 皮膚、皮下組織（骨を含む）に関する局所解剖 3. 主要な基礎疾患の管理 4. 全身・局所のフィジカルアセスメント 5. 慢性創傷の種類と病態 6. 褥瘡の分類、アセスメント・評価 7. 治療のアセスメントとモニタリング（創傷治療過程、TIME理論等） 8. リスクアセスメント 9. 褥瘡及び創傷治療と栄養管理 10. 褥瘡及び創傷治療と栄養管理、体圧分散、排せ管理 11. DSI(NG-R)に基づいた治療指針 12. 褥瘡及び創傷の診療のアルゴリズム 13. 感染のアセスメント 14. 褥瘡の治療のステージ別同所療法 15. 下肢創傷のアセスメント 16. 下肢創傷の病態別治療 17. 創部多開創のアセスメントと治療	講義 (11.0)	辻野 佳雄 東 耕一郎 西村 恭子 小原 友子 横山 淳美 山下 一也
8～17	1. 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 2. 褥瘡及び慢性創傷における血流のない壊死組織の除去の目的 3. 褥瘡及び慢性創傷における血流のない壊死組織の除去の適応と禁忌 4. 褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴うリスク（有害事象とその対策等）	講義 (12.0) 演習 (2.0)	辻野 佳雄 東 耕一郎 西村 恭子 小原 友子 横山 淳美 山下 一也

5.	DSI(NG-R)に準拠した壊死組織の除去の判断		
6.	全身状態の評価と除去の適正判断（タンパク量、感染リスク等）		
7.	壊死組織と健康組織の境界判断		
8.	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去の方法		
9.	褥瘡及び慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去に伴う出血の止血方法		
1.	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去への対応を中心とした2事例以上作成し、病態に応じた血流のない壊死組織におけるDSI(NG-R)に準拠した除去の判断、全身状態の評価と除去の適正判断（タンパク量、感染リスク）、ケアとその報告についてグループワークをする。		
2.	手順書作成		
3.	治療ガイドライン・文献購読		
18	OSCE (Objective Structured Clinical Examination)	実技試験 (1.5)	外部 評価者
19	筆記試験	試験 (1.5)	横山 淳美
	・Harrison 著者、福井英矢 監修 (2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインターナショナル ・独立行政法人地域医療推進機構（JHCO）監修(2019)：創傷管理関連、メデイカ出版。 ・各種疾患治療ガイドライン		
	評価方法	筆記試験 30% レポート 20%（事例レポート、手順書作成を含む） 授業態度 50%（事前学習、参加態度等）	
	OSCE 評価者：池野屋 慎太郎 医師（松江赤十字病院 第1形成外科部 部長）		
	受講のあり方	・課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・グループワークに積極的に参加してください。 ・各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 授業時間外学習（予習・復習）のアドバイス 授業進度に応じた課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。	
	学習の方法	・準備学習に 必要な学習 時間の目安	
	その他	担当教員からのメッセージ ・本科目は、基本対面形式の授業です。 ・本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 ・各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・本科目は、看護師の特定研修の区分別科目に対応した科目となっております。 ・本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。	

	difficile 関連の代表的な事例を2事例選択し、その事例に基づき、病歴聴取、身体診察、感染のアセスメント、起因微生物の予想と検査、抗菌薬の選択、効果判定、抗菌薬の変更の必要性の判断、投与終了後の評価について、投与後のケアと報告についてグループワークをする。		
	2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献購読		
	筆記試験	試験 (1.5)	横山淳美
テキスト及び参考図書・参考資料	<ul style="list-style-type: none"> Harrison 著者、福井次矢 監修 (2017) :ハリソン内科学 第5版, メディカルサイエンスインターナショナル 独立行政法人地域医療機能推進機構 (HCO) 監修 (2018) : 感染に係る薬剤投与関連, メディカ出版. 各種疾患ガイドライン 		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 30% レポート 20% (事例レポート、手順書作成を含む) 授業態度 50% (事前学習、参加態度 等) 		
学習の方法	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題作成に当たり、文献検索、情報収集を行ってください。 グループワークに積極的に参加してください。 各自の予習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバース</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p>		
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 本科目は、看護師の特定行為研修の区分別科目に対応した科目となっております。 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 授業に関連する教材を活用し、局所解剖を理解して上で各講義の望んでください。 OSCEの実施前には十分なシミュレーション演習を各自計画的に行って臨んでください。 		

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学演習VI：精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	学期	春学期
担当教員	横山 淳美、山下 一也、小林 孝文	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義・演習	単位数	1 (26 時間)
授業の概要	看護の対象 (成人を含む高齢者・家族・地域社会) に対して包括的健康アセスメント、看護的治療マネジメントを行うための専門的知識と技術を習得するために、シミュレーションとレナーニングを行う。チーム医療の中で安全に精神及び神経症状に係る薬剤管理の臨床判断と技術を学ぶ。		
具体的には、薬物療法を受けている人の臨時薬剤(抗けいれん剤、抗精神病薬、抗不安薬)投与に関する判断に必要なアセスメントとケアを学ぶ。			
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> 多様な臨床場面において精神・心理症状にかかわる薬剤投与を実施するための知識、技術及び態度の基礎を身につけることができる。 多様な臨床場面において、医師または歯科医師から手順用による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につけることができる。 		
	授業内容	授業方法 (時間)	担当教員
授業計画	回数	講義 (7.5)	山下 一也 小林 孝文
	1～5	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神・神経系の局所解剖 2. 神経学的主要症候 3. 精神学的主要症候 4. 主要な神経疾患と病態生理 5. 主要な精神疾患と病態生理 6. 主要な神経系のフィジカルアセスメント 7. 主要な精神疾患の面接所見 8. 神経学的検査 9. 心理・精神機能検査 10. 精神・神経系の臨床薬理(副作用、耐性と依存性を含む) 	

	<p>抗けいれん剤の臨時の投与</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. けいれんの原因・病態生理 2. けいれんの症状・診断 3. 各種抗けいれん剤の適応と使用方法 4. 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（ペーパー・シミュレーションを含む） 5. 抗けいれん剤の投与のリスク（有害事象とその対策等） 6. 病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準（シミュレーションを含む） 7. 抗けいれん剤の投与のリスク（有害事象とその対策等） <p>抗精神病薬の臨時の投与</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統合失調症の原因・病態生理 2. 統合失調症の症状・診断 3. 各種抗精神病薬の適応と使用方法 4. 病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準（ペーパー・シミュレーションを含む） 5. 抗精神病薬の投与のリスク（有害事象とその対策等） 6. 病態に応じた抗精神病薬の投与の判断基準（シミュレーションを含む） 7. 抗精神病薬の投与のリスク（有害事象とその対策等） <p>抗不安薬の臨時の投与</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 不安障害の原因・病態生理 2. 不安障害の症状・診断 3. 各種抗不安薬の適応と使用方法 4. 病態に応じた抗不安薬の投与とその判断基準（ペーパー・シミュレーションを含む） 5. 抗不安薬の投与のリスク（有害事象とその対策等） 6. 病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準（シミュレーションを含む） 7. 抗不安薬の投与のリスク（有害事象とその対策等） <p>抗けいれん薬の臨時投与に関する演習</p> <p>てんかんの重責状態、予測された痙攣への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗けいれん薬投与の判断基準、抗けいれん薬投与のリスク評価（有害事象とその対応など）、抗けいれん薬の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献購読 <p>抗精神病薬の臨時投与に関する演習</p> <p>予測された抗精神病薬投与への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗精神病薬投与の判断基準、抗精神病薬投与のリスク評価（有害事象とその対応など）、抗精神病薬の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 手順書作成 	<p>講義 演習 (17.0)</p> <p>山下 一也 小林 孝文 横山 淳美</p>
--	---	--

	<p>3. 治療ガイドライン・文献購読</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抗不安薬の臨時投与に関する演習 予測された抗不安薬への対応を中心とした事例を作成、病態に応じた抗不安薬投与の判断基準、抗不安薬投与のリスク評価（有害事象とその対応など）、抗不安薬の臨時投与後のケアと報告についてグループワークをする。 2. 手順書作成 3. 治療ガイドライン・文献購読 	<p>試験 (1.5)</p>	<p>横山 淳美</p>
<p>テキスト及び参考図書・参考資料</p> <p>評価方法</p>	<p>18</p> <p>筆記試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Harrison(著)、福井次矢(監修)(2017)：ハリソン内科学 第5版、メディカルサイエンスインターナショナル ・各疾患診療ガイドライン他 <p>筆記試験 30%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート 20% (手順書作成を含む) ・授業態度 50% (事前学習、参加態度 等) 		
<p>学習の方法</p> <p>準備学習に必要な学習時間の目安</p>	<p>受講のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作成にあたり、文献検索、情報収集を行ってください。 ・ グループワークに積極的に参加してください。 ・ 各自の学習内容をグループ内で検討し、内容を取りまとめ発表します。 <p>授業時間外学習（予習・復習）のアドバイス</p> <p>授業進度に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。</p>		
<p>その他</p>	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本科目は、基本対面で行います。 ・ 本科目は、NP 資格受験資格に必要な科目です。 ・ 各授業内にディスカッションの時間を持つ予定です。自分の意見をもって授業に臨んでください。 ・ 本科目は、看護師の特定行為研修の区分別科目に対応した科目となっています。 ・ 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。 		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	NP活動見学実習	学期	春学期
担当教員	○横山 淳美、日高 美晴、板持 卓弥、松本玄智江	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 実習	単位数	1 (40時間)
実習の概要	<p>プライマリ・ケア領域の診療看護師 (NP) の診療活動に同行し、診療の実践を体験することで、地域医療のニーズ、診療看護師 (NP) の役割を理解し、診療看護師 (NP) に必要な高度な看護実践能力と自己の課題を明確にする。</p> <p>具体的には、診療看護師 (NP) の診療活動における同行をおとし、高度実践能力を理解し、今後必要となる診療看護師 (NP) の高度実践看護実践能力と自己の課題を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療看護師 (NP) の実践の見学を通して、看護学に基づいた実践について説明することができる。 診療看護師 (NP) の実践の見学を通して、チーム医療及び多職種協働のための姿勢とコミュニケーション方法を学び、自己の今後の実践のあり方について説明することができる。 診療看護師 (NP) の実践の見学を通して、診療看護師 (NP) が活動する施設における医療安全の管理体制を理解し、構築方法について説明することができる。 地域医療における診療看護師 (NP) の役割について説明することができる。 診療看護師 (NP) としての能力を習得していく今後の自己の課題が明確にすることができる。 		
実習の目標	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 診療看護師 (NP) の実践の見学を行い、看護学に基づいた実践について説明する。 チーム医療及び多職種協働のための姿勢とコミュニケーション方法を学び、自己の今後の実践のあり方について説明する。 診療看護師 (NP) の活動における医療安全の管理体制を理解し、説明する。 受け持ち患者事例を通して、ケースレポートを1事例作成する。 実習の学びから得た診療看護師 (NP) の役割について考察し、実習報告会で報告する。 <p>実習施設 公立 邑智病院 内科(総合診療科)</p> <p>実習期間 実習日程は、目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討(概ね1週間程度)する。 ※詳細は実習要項参照</p>		
実習の計画	<p>テキスト及び 参考図書 ・ 参考資料</p> <p>・ Lynn S. Bickley (著), 福井次矢, 井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル ・ Steven McGee (著), 徳田安春, 平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診断学 原著 第4版, 診断と治療社</p> <p>実習記録 20% ケースレポート 40% 実習中の参加観察評価 40%</p> <p>受講のあり方 ・ 対象となる領域に該当する患者の疾患、検査、治療についてまとめておいてください。</p>		

必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスや勉強会に積極的に参加してください。 <p>授業時間外学習(予習・復習)のアドバース</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習内容に応じて課題を課すので、与えられた課題提出に向け、図書館やインターネットを活用し情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめることを勧めます。 1 症例を発表し、議論する症例報告会があります。
その他	<p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 特定行為研修内の実習も含まれています。 <p>臨床推論 (1 時間)、フィジカルアセスメント (3 時間)、医療安全学・特定行為実践 (12 時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> 本科目は、プライマリ・ケア看護学実習に必要な先修科目です。

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学実習	学期	秋学期
担当教員	横山 淳美 雲南市立病院地域ケア科指導医、同 診療看護師 (NP) 公立邑智病院 内科 (総合診療科) 指導医、同 診療看護師 (NP) 島根県立こころの医療センター 指導医 松本玄智江	選択/必修	必修
科目コード	授業形態	実習	単位数 14 (630時間)
実習の概要	慢性疾患をもちながら地域で暮らす療養者に対して、多職種と連携しながら自律的に医療介入を行い、プライマリ・ケアを提供できる実践力を養うことをねらいとしている。 プライマリ・ケア領域における診療看護師 (NP) の役割を理解し、診療看護師 (NP) に必要とされる包括的健康アセスメントおよび看護的治療マネジメントの実践を通して、必要な能力(7 コンピテンシー)を統合・習得することを目的とする。		
実習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 地域で生活する療養者に対する初期診療および継続診療において包括的健康アセスメントをすることができるとができる。 地域で生活する療養者に対する初期診療および継続診療において看護的治療マネジメント (特定行為を含む) を行うことができる。 地域で生活する療養者とその家族の健康レベルに応じた健康増進の支援をすることができる。 診療看護師 (NP) のチームにおける位置づけと役割を理解し、多職種との連携や調整をすることができる。 倫理観を持って診療看護師 (NP) としての実践を行うことができる。 		
実習の計画	<p>実習内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 急性・慢性症状を持つ患者に対して、医療面接・身体診察を実施し、臨床推論を用いて医学的な診断を行い、診断に基づいた治療計画と疾病予防計画を作成する。 受け持ち患者事例を通して、1 について指導者から評価を受ける。 在宅・施設などで実施することの多い特定行為 (8区分行為) について、実施の判断から実施、報告までの一連のプロセスを行い、指導者から評価を受けるとともに症例レポートを作成する。 積極的にケースカンファレンスなどに参加し、多職種協働における診療看護師 (NP) 実践についてレポートする。 倫理的意思決定を行う必要のあった事例における診療看護師 (NP) 実践レポートを1例作成する。 実習の学びから得た診療看護師 (NP) の役割について考察し、実習報告会で報告する。 <p>実習施設 雲南市立病院 地域ケア科/同外科 公立邑智病院 内科 (総合診療科) 島根県立こころの医療センター</p> <p>実習期間 実習日程は目標達成状況と実習施設の状況により適宜検討する。 ※詳細は実習要項参照</p>		

テキスト及び参考文献	<ul style="list-style-type: none"> Lynn S. Bicker (著), 福井次夫・井部俊子 他 監修 (2015) . ペイツ診察法 第2版, メディカル・サイエンス・インターナショナル Steven McGee (著), 徳田安春・平島 修・和足孝之 監修 (2019) . マクギーのフィジカル診察学 原著 第4版, 診断と治療社 各種疾患治療ガイドライン
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 実習記録 30% ケースレポート 30% 実習中の参加観察評価 40% (出席日数も含む)
学習の方法・準備学習に必要な学習時間の目安	<p><u>受講のあり方</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 対象となる領域に該当する患者の疾患、検査、治療についてまとめておいてください。 カンファレンスや勉強会に積極的に参加してください。 <p><u>授業時間外学習 (予習・復習) のアドバイス</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 実習内容に応じて臨床指導者から出た課題において、図書館やインターネットを活用し、情報収集や配布資料の事前学習を行い、自分の考えをまとめた課題提出をお願いします。 各領域実習内では、少なくとも1症例は領域内発表をし、議論する症例報告会があります。 <p>担当教員からのメッセージ</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習の知識・技術を再確認して実習に臨んでください。 (一連の身体診察の流れは、必ずシミュレーションした上で実習に臨んでください。) 本科目は、特定行為研修における実習も含まれています。 本科目は、NP 資格試験受験に必要な科目です。 本科目を受講するためには、プライマリ・ケア領域の必修科目をすべて修得している必要があります。
その他	

科目分類	専門科目	対象学年	2
授業科目	プライマリ・ケア看護学探求セミナー	学期	秋学期
担当教員	松本玄智江 横山 淳美	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	1
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読や専門学会、専門セミナー、講演会等への参加を通して、診療看護師 (NP) として知見を深めるとともに診療看護師 (NP) に期待される役割やニーズについて理解を深める。 ・プライマリ・ケア看護学実習において診療を担当したケースを振り返り、診療看護師に求められる7つの能力 (包括的健康アセスメント能力、医療処置管理の実践能力、熟練した看護の実践能力、看護管理能力、チームワーク・協働能力、医療保健福祉の活用・開発能力、倫理的意思決定能力) を意識して、ケースについてエビデンスを示しながらレポートにまとめ、発表する。 ・専門学会、専門セミナー、講演会等への参加を通して得られた知見や診療看護師 (NP) に期待する役割やニーズについて述べて述べる事ができる。 ・ケースレポートのまとめ、発表、ディスカッションを通して、診療看護師としての今後の課題について述べる事ができる。 		
授業の目標	テーマ	内容	
	1-4 新たな知見の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・文献講読や NP に関する学会および専門セミナー等に参加し知見を得る 	
	5-7 リフレクション	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での担当ケースを振り返り、ケースについてエビデンスを示しながらレポートにまとめる 	
	8 ケースレポートの発表	<ul style="list-style-type: none"> ・実習での担当ケースのアセスメントおよび実践について発表する ・ケースに対する意見交換、助言を得て診療看護師としての今後の課題を明確にする 	
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学外における専門学会、専門セミナー、講演会等への参加状況 30% ・プレゼンテーション 40% ・レポート 30% 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学外における専門学会やセミナー、講演会等に積極的に参加し、診療看護師 (NP) やともに学ぶ仲間との交流を通して、診療看護師 (NP) に期待される役割やニーズについて理解を深めるとともに、修了後のネットワークづくりに繋いでください。 ・原則、授業は「遠隔授業」とする。 		

科目分類	専門科目 (研究)	対象学年	1～2
授業科目	課題研究 (プライマリ・ケア看護学領域)	学期	通年
担当教員	森山美香 ○松本玄智江 横山 淳美	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 演習	単位数	4
授業の概要	<p>プライマリ・ケア看護学に関する実践的課題を決定し、研究過程を通して論文を作成し、発表する。具体的には、プライマリ・ケア看護学特論、プライマリ・ケア看護学演習 I～VI、プライマリ・ケア看護学実習に関連する特定の実践課題に関して、研究計画書を作成し、その計画に従い研究を実施、研究成果を課題論文として作成する。</p>		
授業の内容	<p>授業内容・授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献レビューを通して研究課題を絞り込み、その背景や研究課題を明らかにする。 2. 研究デザインを検討して研究計画書を作成し、研究倫理審査を受ける。研究協力依頼ならびに研究対象者の選択方法の明確化等、適切なフィールド開拓と協力体制づくりに関する方法を学ぶ。 3. データ収集の実施：データ収集を行い、適切なデータ収集の方法およびデータ収集に伴う諸問題への対処方法を体系的に学習する。 4. データ分析の実施：指導教員の指導を継続的に受けることにより、分析結果の妥当性と信頼性を高めると同時に、分析能力を培う。 5. 分析結果の考察：分析結果を踏まえて考察し、中間発表の準備を行う。 6. 研究論文の作成：修士論文を作成する。 7. 研究論文の発表：公開発表会で成果を発表する。 8. 研究論文の修正・完成：発表および論文審査で指摘を受けた箇所を修正し、論文を仕上げる。 		
テキスト	適宜紹介する		
参考文献	適宜紹介する		
評価方法	研究への取り組み、最終提出の修士論文で総合的に評価する。		
	【進度例】		
	時期	内容	備考
1 年次	4～10月	課題の明確化及び課題研究計画書の作成	4月：指導教員決定 必要時副研究指導教員を設ける 倫理審査を受ける 1月：修士論文題目届 (仮) 提出
	10月 11～2月	合同検討会 (研究計画発表) 研究倫理審査に向けての準備 課題研究の実施 (倫理審査承認後)	
2 年時	4～8月	課題研究の実施・分析、論文作成	
	7月	中間発表 合同検討会 (中間報告発表)	
	8～12月	課題研究論文作成	11月：修士論文題目届提出
	12月	課題研究論文の提出	課題研究論文に課題研究論文審査 願及び論文要旨を添えて研究科長 に提出する
	1月	修士論文公開発表会	
	2月	最終発表の実施	
	3月	課題研究論文の判定及び学位の授与	
その他			

・授業は原則「遠隔」で行う。ただし、指導教員の個別指導は「対面」で行う場合もある。

博 士 後 期 課 程

博士後期課程

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数		担当教員	
			必修	選択	職名	氏名
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	1春	2		教授	吾郷美奈恵
					教授	山下一也
					非常勤講師	瀬戸和希
	看護研究特論Ⅱ	1春	2		教授	石橋照子
					非常勤講師	田中美恵子
	看護教育学研究	2春	2		教授	岡安誠子
					非常勤講師	舟島なをみ
	島根と地域医療	1春		2	教授	山下一也
					非常勤講師	西藤真一
					非常勤講師	片岡大輔
非常勤講師					中本 稔	
保健医療福祉政策論Ⅱ	2春		2	教授	谷口敏代	
				非常勤講師	宮本恭子	
健康栄養特論Ⅱ	2春		2	非常勤講師	籠橋有紀子	
				非常勤講師	原田永勝	
小計（6科目）			6	6	—	—
専門科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	秦 幸吉
					教授	藤田小矢香
					准教授	井上 千晶
	がん看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	大塚美樹
	精神看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	石橋照子
					教授	大森眞澄
	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	1通		2	教授	梶谷みゆき
地域保健学特論Ⅲ	1通		2	教授	吾郷美奈恵	
				教授	山下一也	
				教授	谷口敏代	
小計（5科目）			0	10	—	—
研究科目	後期特別研究	1～3通	6		教授	山下一也
					教授	石橋照子
					教授	谷口敏代
					教授	秦 幸吉
					教授	吾郷美奈恵
					教授	梶谷みゆき
					教授	大森眞澄
					教授	岡安誠子
					教授	森山美香
					教授	藤田小矢香
					教授	大塚美樹
准教授	井上 千晶					
小計（1科目）			6	0	—	—
合計（12科目）		—	12	16	—	—
卒業要件及び履修方法						
<ul style="list-style-type: none"> ・本課程研究科に3年以上在学すること。 ・指導教員の指導下に博士論文を作成し、その審査及び最終試験に合格すること。 ・履修方法 <p>①基盤科目から5科目10単位以上（必修科目3科目6単位を含む）、専門科目から1科目2単位以上、研究科目6単位、合計18単位以上を修得すること。</p> <p>※：必修 *：3科目のうち2科目を選択必修 専門科目は5科目から1科目選択必修とする</p>						

授業科目の概要（看護研究科 看護学専攻 博士後期課程）

授業科目の概要		
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
基盤科目	看護研究特論Ⅰ	<p>（概要）</p> <p>地域医療での保健・医療・福祉に関する様々な国内外の研究論文・資料を用いて、看護に関する評価方法・統計に関して探究する。また、医療ビッグデータの利活用で看護に関するデータ収集の取り組み、看護領域のビッグデータの利用方法について探究する。自治体の国民健康保険・後期高齢者医療制度、医療・介護費分析から見えてくる医療費の使われ方とその意味について探求する。さらに、島根県の医療費適正化計画、国保データベースを用いて、医療費適正化の自治体の取組、利用者の健康支援やQOL向上を目指した生活支援及び健康政策や保健サービス等に関する多角的に探究する。</p>
基盤科目	看護研究特論Ⅱ	<p>（概要）</p> <p>看護現象における諸課題を解釈的スタンスから探究することができるよう、質的研究法について学び、研究プロセス、主要方法論や重要概念を理解し、実際の研究活動や論文作成に応用できる能力を培う。また、研究成果を産出する過程において必要となる倫理的知識・技術・態度を理解する。</p>
基盤科目	看護教育学研究	<p>我が国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状を概観し、看護学教育の課題や将来について理解を深める。</p> <p>また、看護教育学の教育方法として、参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。</p> <p>さらに、質の高い看護の提供を実現に向けて展開される看護職者・看護学生の生涯学習支援のための教育活動や研究活動を探究する方法として、先行研究を検討することにより看護学教育研究に必要となる方法論を理解する。</p> <p>そして、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。</p>
基盤科目	島根と地域医療	<p>（概要）</p> <p>島根県の高齢多死社会や地方における中山間地域問題、農山村における産業の自立、新たなコミュニティのあり方など、社会科学、行政などの視点から地域社会を考える。また、島根県は、全国一、二を争うスピードで超高齢社会へと向かっており、県民の健康や安全を守る施策に重点を置き、特に、健康で自立して生活できる期間である「健康寿命」で日本一となるために、健康づくり施策に積極的に取り組んでいる。こうした地域包括ケアシステムの中での様々な取組みや自治体の保健行政を理解し、地域医療のシステムを支える理論と方法論を多角的に探究する。</p>
基盤科目	保健医療福祉政策論Ⅱ	<p>（概要）</p> <p>保健福祉・医療の提供体制のあり方について理解し、保健福祉・医療の制度・政策の現状と課題に関する歴史的背景や国際比較、島根県の状況を通して考察する。その上で、各専門職間の連携について資格制度や地域包括ケアのあり方について検討する。</p>
基盤科目	健康栄養特論Ⅱ	<p>（概要）</p> <p>健康寿命の更なる延伸に向けた栄養・食事サービスに関する多様な健康課題の分析や評価に関する研究法を修得し、これらの研究成果を利用した栄養・食事サービスの創造・再生に関する戦略的取り組みについて探求する。栄養と疾患の予防については、島根の中山間地域・離島での実践例を取り上げながら探求する。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	ウィメンズヘルス 看護学特論Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>女性の生涯を通して健康を保持・増進することを目的として、その援助方法の開発を探究する。青年期から老年期にわたる女性の健康に関する学術的な研究論文をクリティークして健康課題を多角的に分析し、論点を整理する。これらを基盤として、女性の生涯における健康の保持・増進のための援助方法構築のための理論と概念を探究する。</p> <p>主なテーマとしては、周産期の対象者とその家族の健康課題に関する周産期のチーム医療とリスクマネジメント、母親を取り巻く現代的課題と子どもに及ぼす影響、女性の生涯における骨盤底機能不全のリスク要因と排尿障害をはじめとする健康課題、成熟期女性における性周期と自律神経機能が健康に及ぼす影響等。</p> <p>1) 少子高齢化社会における女性のライフサイクルと健康について概観し、健康課題について検討する。</p> <p>2) 女性のライフサイクルにおける健康課題を取り上げ、関連する研究論文をクリティークし、多角的な分析を通して論点を整理し、研究の動向や追求すべき課題を明らかにする。</p> <p>3) 女性の生涯における健康の保持・増進のための援助方法の構築に寄与するために、自己の研究課題および研究に取り組む意義を明らかにし、解決すべき研究方法と仮説を追求する。</p>
専門科目	がん看護学特論Ⅲ 精神看護学特論Ⅲ	<p>がんを伴う人々の看護に係る概念・理論について検討する。がん患者や家族の看護に関する研究論文を多角的に分析し、研究の動向と課題を探索する。これらを通して、がんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解し、エビデンスに基づく援助方法を探究する。また、エンドオブライフケア、グリーフケアを学び、終末期がん患者と家族の Quality of Life の維持向上に寄与する援助方法を探究する。</p> <p>各テーマについての発表とディスカッションを中心に行う。具体的には、がん患者の全人的苦痛に対するアセスメントと援助方法、エンドオブライフケア、治療や療養に関する意思決定支援、グリーフケア等を主なテーマとする。</p> <p>1) 各自が関心を持つ慢性病人々の看護に関する概念・理論を検討する。</p> <p>2) 各自が関心を持つがんを伴う人々の看護に関する研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探索する。</p> <p>3) がん患者と家族の Quality of Life を維持向上する援助方法の構築に寄与するために、自己の研究課題の意義と独自性を明らかにする。</p> <p>精神保健・医療・福祉に関するテーマを探究するための基礎となる理論、研究、実践活動について概観する。具体的内容は各自のテーマに応じて異なるが、精神の健康問題とその関連要因に関する内容とする。理論、これまでの研究動向及び実践活動について幅広く情報を収集し、各自のテーマに沿って整理する。進め方は、自己学習、指導教員とのディスカッションを通じて理解を深め、各自のテーマを設定してレポートを作成する。</p> <p>研究可能なテーマとして、患者参画型教育に関する研究、精神科身体合併症発見に必要な臨床判断力に関する研究、精神科身体合併症ケアに関する研究、精神障がい者の地域移行・定着に向けたエンパワメントアプローチに関する研究、精神障がい者のリハビリテーションに関する研究など。</p> <p>1) 関心ある現象を特定し、国内外の文献からテーマに関する文献を概観する。</p> <p>2) 自らの研究課題に関連して、援助方法を開発するための理論や主要概念、看護モデルの概要について検討する。</p> <p>3) 自らの研究課題を洗練させ、その現象に関連する主要な概念について理解し、今後求められる研究の方向性を検討する。</p> <p>4) 自らの研究課題の意義と独自性を明らかにする。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門科目	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>高齢療養者とその家族は、社会の変化や医療・福祉政策の動向により、複合的かつ複雑な健康課題や生活上の課題を有している。生活機能の維持・改善、高齢者や家族の尊厳、権利擁護、意思決定支援、コミュニケーション能力、認知行動療法などの教育手法、社会参加支援などを学修する。また、プロジェクト型研究教育により他分野と協働しながら自律して研究できるための実践力を培う方法を探究する。</p> <p>1) 高齢化社会が抱える問題点及び動向を明らかにする。 2) 看護分野における理論や研究手法及び関連分野の主要な理論・研究手法を分析し、高齢者リハビリに関連する研究の動向と課題をレビューする。 3) 在宅、施設、病院における高齢者や家族への教育的支援方法や社会システム構築に向けて何が求められているか考察する。自己の課題に関連する看護介入方法、及び効果を検証する手法について考察する。</p>
専門科目	地域保健学特論Ⅲ	<p>(概要)</p> <p>健康問題は国内外問わず、社会のあり方や環境の変化などにより大きく影響を受ける。その内容は複雑多岐にわたり、解決方法は医学保健分野にとどまらず、様々な分野の複合的な視点が求められる。そのような状況において顕在もしくは潜在する健康問題とその要因について、統計的手法を基にした関連を特定する方法を学ぶ。また、地域特性を理解した上で、個人・家族、集団（グループ）及び地域を対象とする支援と地域ケアシステムについて、最新のエビデンスを多角的に分析しながら探究する。</p> <p>1) 顕在もしくは潜在する健康問題について、統計的手法を基にした関連を特定する方法を用いてその要因を追求する。 2) 地域の文化や習慣等を理解し、地域特性を明らかにする必要性や方法を追求するとともに、地域ケアシステムについて検討する。 3) 健康問題の解決に向けて、個人及び家族、グループ、地域を対象とする看護の社会的適用について考察する。</p>
研究科目	後期特別研究	<p>(概要)</p> <p>保健・医療・福祉の今日的課題を踏まえ、看護ケアの質の向上と改革を導くために必要な看護実践及び看護学教育という観点から、実践の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には履修する専門科目の分野において、個々の興味・関心に従い蓄積した学修成果を活用しながら研究課題の焦点化をはかり、研究方法を決定し、研究計画書を作成する。研究計画に基づきデータを収集し、まとめた結果を分析・考察し、新たな知見を提示する。最終的成果として学位論文を作成し、発表、審査を受ける。これらの一連の研究過程を通し、研究者として自律して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職としての研究的態度を修得する。</p>

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究特論Ⅰ	学期	春学期
担当教員	○教授 吾郷美奈恵 教授 山下一也 非常勤講師 瀬戸和希	選択/必修	必修
科目コード	17080000	授業形態	講義、演習
授業の概要	地域医療での保健・医療・福祉に関する様々な国内外の研究論文・資料を用いて、看護に関する評価方法・統計に関して探究する。また、医療ビッグデータの活用で看護に関するデータ収集の取り組み、看護領域のビッグデータの活用方法について探究する。自治体の国民健康保険・後期高齢者医療制度、医療・介護費分析から見えるてくる医療費の使われ方とその意味について探求する。さらに、島根県の医療費適正化計画、国保データベースを用いて、医療費適正化の自治体の取組、利用者の健康支援やQOL向上を目指した生活支援及び健康政策や保健サービス等に関して多角的に探究する。	単位数	2
回数	内容		
1	看護ケアの質評価の方法と指標	(吾郷)	
2	量的研究デザインと統計解析 その1：研究デザイン	(吾郷)	
3	量的研究デザインと統計解析 その2：統計解析	(吾郷)	
4	データヘルス計画と健康情報 (個人情報) の取扱い	(吾郷)	
5	島根県の各自治体の医療費の問題点 その1：疾病と医療費の地域差	(山下)	
6	島根県の各自治体の医療費の問題点 その2：生活習慣病	(山下)	
7	健康寿命の延伸に向けた医療ビッグデータの活用	(山下)	
8	データ分析1：数量化理論-アンケート分析-	(瀬戸)	
9	データ分析2：共起ネットワーク-自然言語処理-	(瀬戸)	
10	データ分析3：深層学習-画像認識-	(瀬戸)	
11	実践AI 演習	(瀬戸)	
12	※3つのうちから一つ選んでそれに必要な道具を一つずつ学んで、AI を作成することを目標とする。		
13			
14			
15	ビッグデータの活用の提案 (ブレゼン)		
テキスト	指定しない。		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 第3期島根県医療費適正化計画 (H30～H35) 島根県保険者協議会医療費等分析事業報告書 島根県国民健康保険疾病統計表 		
評価方法	毎回の理解度 30点、ブレゼン 20点、レポート 50点・その都度紹介する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> この授業は、原則として、1～7回は遠隔授業、8～15回は対面で行う。 授業では、自分の考えや意見が述べられるよう、積極的に参加してほしい。 改めて質問や意見などあればメールで受け、受講生全員と共有できるよう対応する。 		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	看護研究特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	石橋照子 非常勤講師 田中美恵子	選択/必修	必修
科目コード	17080001	授業形態	演習、講義
授業の概要	看護現象における諸課題を解的スタンスから探究することができるよう、質的研究法について学び、研究プロセス、主要方法論や重要概念を理解し、実際の研究活動や論文作成に活用できる能力を培う。また、研究成果を産出する過程において必要となる倫理的知識・技術・態度を理解する。 [科目責任者：石橋照子] [オムニバス方式：全15回] (田中美恵子) 質的研究の特徴、研究プロセスについて理解し、面接法、参加観察などデータ収集方法を修得する。研究方法論として、エスノグラフィ、グラウンデッド・セオリー、アブローチ、現象学的研究方法、ナラティブ・アブローチについて理解し、実際に用いるための基礎的能力を獲得する。また、質的看護研究に伴う倫理的諸課題について理解し、研究を遂行するうえで必要とされる倫理的配慮について検討する。 (石橋照子) 修正版グラウンデッド・セオリー・アブローチについて理解し、実際に用いるための基礎的能力を獲得する。	単位数	2
回数	内容	課題	
1	第1章 質的研究の特徴と目的		
2	第2章 質的研究の研究プロセス		
3	第3章 質的研究における倫理的諸課題 *ただし、英国の実情に関わることは、省いて結構です。		
4	第5章 面接法		田中
5	第6章 参加観察法		
6	第10章 グラウンデッド・セオリー・アブローチ：ストラウス・コーベンモデルと修正版グラウンデッド・セオリー・アブローチ (M-GTA)		
7			
8	M-GTA データ分析演習、方法的特性の理解		
9			
10			
11	第9章 エスノグラフィ：記述民俗学の特徴		
12	エスノグラフィ：フィールドワークとデータ分析		
13	第11章 現象学的研究方法：基礎となる哲学の理解 (現象学・解釈学)		田中
14	現象学的研究方法：現象学的研究の特色とプロセス		
15	第19章 ナラティブ・アブローチ：思想的潮流、特色と類型、分析・解釈技法		
テキスト	<ol style="list-style-type: none"> D.F. ポーリット/C.T. ベック、監訳：近藤 潤子(2010)看護研究 原理と方法 第2版、医学書院 ホロウェイ+ウイラー、野口美和子監訳：ナースのための質的研究入門 第2版、医学書院、2006. ウヴェ・フリック、小田博志監訳：新版質的研究入門、春秋社、2011. N.K. デンジン、Y.S. リンカン編、平山満義監訳：質的研究ハンドブック、第1巻、第2巻、第3巻、北大路書房、2006. 操華子、森岡崇約：質的研究の基礎 グラウンデッドセオリー開発の技法と手順 第2版、医学書院、2004. 木下順仁著；グラウンデッド・セオリー・アブローチの実践、弘文堂、2003 		
参考文献			

・ 松葉洋一、西村ユミ編：現象学的看護研究—理論と分析の実践、医学書院、2014。 ・ Riessman, C. K 大久保功子、宮坂道夫監訳：人間科学のためのナラティブ研究法、クオリアティブケア、2014。 ・ Spradley J.P, 田中美恵子・麻原きよみ監訳：参加観察法入門、医学書院、2010。 ・ Patricia Benner：Interpretive Phenomenology Embodiment, Caring, and Ethics in Health and Illness, Sage Publications, 1994. (相良ローゼンマイヤー・ミハル監訳、田中美恵子、丹木博一訳：ベナー—解釈的現象学—健康と病気における身体性・ケアリング・倫理、医歯薬出版、2006)
評価方法 発表準備資料30%、参加度20%、レポート50%による総合評価とする。
【事前準備と進め方】 田中：授業概要に示す章はテキスト2のものであり、該当章について当日ブレゼンできるよう、パワーポイント等を使いまわしてください。当日 Teams にアップロードできるようご準備をお願いします。私の方でも適宜追加資料を配り、ディスカッションしながら進めます。適宜参考文献を参照してください。 石橋：どなたかにインタビュデータをテラップ起しした内容を提出していただきます。 データを事前配布しますので、分析焦点者・分析テーマに沿ってデータを読んできてください。データに分析テーマに該当する部分にマーカーを引き、前後の文脈から解釈した内容をメモしてきてください。
その他

科目分類	看護教育学研究	対象学年	2
授業科目	看護教育学研究	学期	前期
担当教員	非常勤講師 舟島なをみ 岡安誠子	選択/必修	必修
科目コード	授業形態 講義、演習	単位数	2
授業の概要	わが国の看護教育の歴史や諸外国の看護教育の現状を概観し、看護教育学の課題や将来についての理解を深める。 また、看護教育学の教育方法として、参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。 さらに、質の高い看護の提供を実現するために展開される看護職者・看護学生の生涯学習支援のための教育活動や研究活動を探究する方法として先行研究を検討し、看護教育学研究に必要な方法論を理解する。そして、看護教育学や看護教育学研究に関する知識・技術・態度を検討する。		
	回数 内容		
	1 看護教育学の定義・理念と看護教育学研究 (舟島) [集中]		
	2 看護学教育研究の動向と看護教育学研究の課題、研究者による貢献 (舟島) [集中]		
	3 研究における倫理的問題と看護学教員の倫理的行動に関する研究、研究における倫理的配慮 (舟島) [集中]		
	4 看護教育学研究の体系 (舟島) [集中]		
	5 看護教育学における先行研究分析—方法論と研究の実際 (舟島) [集中]		
	6 看護教育学における先行研究分析—方法論と研究の実際 (舟島) [集中]		
	7 看護教育学における理論開発に必要な研究方法論 (舟島) [集中]		
	8 看護教育学における理論開発に必要な研究方法論 (舟島) [集中]		
	9 看護教育学における理論開発に必要な研究方法論 (舟島) [集中]		
	10 看護における理論検証—方法論と研究の実際 (舟島) [集中]		
	11 文献検討：協同学習と研究 (岡安)		
	12 文献検討：アクティブラーニングと研究 (岡安)		
	13 文献検討：臨床判断能力と研究 (岡安)		
	14 文献検討：倫理的感受性と研究 (岡安)		
	15 まとめ (内容の理論的検討) (岡安)		
課題	終了後レポートの課題『看護教育学研究を通して学んだこと』 一連の学習を踏まえ、看護教育学の学問としての位置づけ、および意義、特徴とともに看護教育学を学ぶ上で今後取り組んでみたい研究について論述する。		
テキスト	・舟島なをみ：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程、第3版、医学書院 ・杉森みどり、舟島なをみ：看護教育学 第7版、医学書院、2021。 ・舟島なをみ監修：看護実践・教育のための測定用具マニュアル—開発過程から活用 の実際まで—、第3版、医学書院、2016。 ・舟島なをみ監修：看護学教育における授業展開 質の高い講義・演習・実習の実現 に向けて 第2版、医学書院、2020。		
参考文献			
評価方法	・ブレゼンテーション・討議(60%)、終了後レポート(40%)		
その他	・原則、授業は「遠隔授業」とする。		

科目分類	基礎科目	対象学年	1
授業科目	島根と地域医療	学期	春学期
担当教員	山下一也 非常勤講師 西藤真一、片岡大輔、中本 稔、加藤節司	選択/必修	選択
科目コード	17080003	授業形態	講義
	島根県の高齢多死社会や地方における中山間地域問題、農山村における産業の自立、新たなコミュニティのあり方など、社会科学、行政などの視点から地域社会を考え、また、島根県は、全国一、二を争うスピードで超高齢社会へと向かっっており、国民の健康や安全を守る施策に重点を置き、特に、健康で自立して生活できる期間である「健康寿命」で日本一となるために、健康づくり施策に積極的に取り組んでいる。こうした地域包括ケアシステムの中での様々な取組みや自治体の保健行政を理解し、地域医療のシステムを支える理論と方法を多角的に探究する。(科目責任者:山下一也)	単位数	2
授業の概要			
	回数	内容	
	1	島根県の概況 -中山間地の現状- (西藤)	
	2	島根県の概況 -地域活性化と地域政策-(西藤)	
	3	島根県の概況 -地域活性化と地域資源-(西藤)	
	4	島根県の概況 -公共交通の現状-(西藤)	
	5	島根県の概況 -公共交通の経済評価-(西藤)	
	6	島根県地域医療構想 -島根県保健医療計画,島根県介護保険事業支援計画-(片岡)	
	7	市町村における地域包括ケアシステム -地方都市部の現状-(中本)	
	8	市町村における地域包括ケアシステム -地方都市部の問題点-(中本)	
	9	市町村における地域包括ケアシステム -中山間地の現状-(加藤)	
	10	市町村における地域包括ケアシステム -中山間地の問題点-(加藤)	
	11	市町村における地域包括ケアシステム -離島の現状と問題点-(片岡)	
	12	島根県の地域医療をめぐる話題 -健康の地域格差対策-(山下)	
	13	島根県の地域医療をめぐる話題 -健康の地域格差対策-(山下)	
	14	島根県の地域医療をめぐる話題 -新型コロナウイルス感染症-(山下)	
	15	まとめ(山下)	
テキスト	特に指定はしない		
参考文献	第3期島根県医療費適正化計画(H30～H35)、島根県地域医療支援計画、島根県保険者協議会医療費等分析事業報告書、創造的地域社会:中国山地に学ぶ超高齢社会の自立(佐永桂子、新評論、2012)		
評価方法	学習態度(討論への参加など)30点、レポート70点		
その他	決まった時間にオンラインミーティングを設けることはしない。しかし、メールによる質問、あるいはメールによりあらかじめアポイントがあれば、院生室・研究室などにて個々に対応する。		

科目分類	基礎科目	対象学年	2
授業科目	保健医療福祉政策論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	教授 谷口敏代 非常勤講師 宮本恭子	選択/必修	選択
科目コード	17080004	授業形態	講義、演習
	保健福祉・医療の提供体制のあり方について理解し、保健福祉・医療の制度・政策の現状と課題について歴史的背景や国際比較、島根県の状況を通して考察する。 その上で、専門職間の連携について資格制度や地域包括ケアのあり方の観点から検討する。 (科目責任者:谷口敏代)	単位数	2
授業の概要			
	回数	内容	
	1	日本経済と保健医療・介護・福祉政策の展開(宮本)	
	2	国民経済と医療・介護制度(宮本)	
	3	サービス産業としての医療・介護(宮本)	
	4	社会保険と地域政策(宮本)	
	5	子育て支援と地方創生(宮本)	
	6	地域包括ケアシステムと地域経済 -特に島根の中山間地域・離島-(宮本)	
	7	保健医療・介護政策の国際比較(日本・島根・オランダ・ドイツ) (宮本)	
	8	看護・介護分野の外国人労働力政策 (宮本)	
	9	看護職とワーク・ライフ・バランス -島根県の事例を通して-(宮本)	
	10	看護職と働き方改革 -島根県の事例を通して-(宮本)	
	11	保健医療福祉の専門職による連携モデルについて(谷口)	
	12	保健医療福祉の専門職による連携モデルについて(谷口)	
	13	我が国及び島根における地域看護・地域福祉における実践上の課題(谷口)	
	14	我が国及び島根における地域看護・地域福祉における実践上の課題(谷口)	
	15	まとめ:レビュー論文としてまとめる(谷口)	
テキスト	プリント及び資料を適宜配布する		
参考文献	随時提示するが、基本的には自ら文献探索し熟読しておく		
評価方法	学習態度 30点、レポート70点		
その他	原則として遠隔授業形式で行います。 新型コロナウイルスの感染状況に応じて対面講義を行うこともあります。		

科目分類	基礎科目	対象学年	2
授業科目	健康栄養特論Ⅱ	学期	春学期
担当教員	○教授 籠橋有紀子 教授 原田永勝	選択/必修	選択
科目コード	I7080005	講義・演習	2
授業の概要	<p>健康寿命の更なる延伸に向けた栄養や食品に関する演習を行う。 基礎栄養学演習では、デオキシリボ核酸 (Deoxyribonucleic acid (DNA)) を増幅するための核酸検出法すなわちポリメラーゼ連鎖反応 (Polymerase chain reaction (PCR)) の理論と実際について学ぶ。PCR 法は分子遺伝学の研究のみならず、医学・生理学・分類学などの研究にも広く応用されており、コロナウイルス検出など、医療における感染症分野での病原体診断に大きく貢献している。 食品機能学演習では、食品の機能性やその評価法について学ぶ。また、食品の機能の一つである物理的特性 (テクスチャ) を活用した医療・介護の現場で使用される製品について紹介し、咀嚼や嚥下機能に合わせた望ましいテクスチャとなるようにデザインされた製品等について解説する。</p>		
	回数	内容	
	1	分子生物学の基礎理論	
	2	核酸の構造と遺伝子診断への利用	
	3	核酸検出法 (PCR 法) : 核酸増幅の原理	
	4	PCR 法の実践 : 食品に付着した微生物 DNA の増幅	
	5	PCR 法の実践 : DNA の電気泳動 - 原理と実際 -	
	6	PCR 法の実践 : DNA の検出法	
	7	遺伝子変異と一塩基多型 (俟約遺伝子仮説)	
	8	PCR 法の応用 : PCR 法によるヒト DNA の増幅	
	9	PCR 法の応用 : PCR 法を利用したヒト一塩基多型の検出	
	10	PCR 法の応用 : ヒト遺伝子型の判定と栄養管理への応用	
	11	食品の機能の概要 (一次機能・二次機能・三次機能)	
	12	食品の機能性評価 : 官能評価の方法論	
	13	食品の機能性評価 : 理化学分析の方法論	
	14	食品の物理的特性 (テクスチャ) の理論と実際	
	15	食品の物理的特性の活用とデザイン	
テキスト	特定のテキストは指定しない。適宜プリントを配布する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	授業への積極性や討論の論点把握と対応力で総合的に評価する。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・集中講義として実施する。 ・1~10 回の内容 (すべて対面) : 原田 ・11~15 回の内容 (11~12 遠隔授業、13~15 対面) : 籠橋 		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	教授 秦 幸吉 教授 藤田小矢香	選択/必修	選択
科目コード	授業形態 講義、演習	単位数	2
授業の概要	<p>女性の生涯を通して健康を保持・増進することを目的として、その援助方法の開発を探索する。青年期から老年期にわたる女性の健康に関する学術的な研究論文をクリティークして健康課題を多角的に分析し、論点を整理する。これらを基盤として、女性の生涯における健康の保持・増進のための援助方法構築のための理論と概念を探索する。主なテーマとしては、周産期の対象者とその家族の健康課題に関する周産期のチーム医療とリスクマネジメント、母親を取り巻き現代的課題と子どもに及ぼす影響、女性の生涯における骨盤底機能不全のリスク要因と非尿障害をはじめとする健康課題、成熟期女性における月経周期に伴う生理学的変化とその随伴症状等。(科目責任者：秦 幸吉)</p> <p>[演習 全 15 回]</p> <p>1) 少子高齢化社会における女性のライフサイクルと健康について概観し、健康課題について検討する。</p> <p>2) 女性のライフサイクルにおける健康課題を取り上げ、関連する研究論文をクリティークし、多角的な分析を通して論点を整理し、研究の動向や追求すべき課題を明らかにする。</p> <p>3) 女性の生涯における健康の保持・増進のための援助方法の構築に寄与するために、自己の研究課題および研究に取り組む意義を明らかにし、解決すべき研究方法と仮説を追求する。</p>		
	回数	内容	
	1	少子高齢化社会における女性のライフサイクルと健康 (案)	
	2	成熟女性の月経周期に伴う生理学的変化とその随伴症状①～黄体期 (案)	
	3	成熟女性の月経周期に伴う生理学的変化とその随伴症状②～月経期 (案)	
	4	成熟女性の月経周期に伴う生理学的変化とその随伴症状③～閉経期 (案)	
	5	安全な分娩のための援助方法の探求①～超音波診断法の活用 (案)	
	6	安全な分娩のための援助方法の探求②～妊娠・分娩と合併症、食事療法 (案)	
	7	女性のライフサイクルにおける研究の意義と独自性 (秦・藤田)	
	8	研究課題の明確化① (検討会)	
	9	女性の健康課題①～妊娠前から育児期にある女性 (案)	
	10	女性の健康課題②～妊産期の女性 (案)	
	11	女性の健康課題③～自律神経活動とストレス (藤田)	
	12	女性の健康課題④～自律神経活動の変化と女性と胎児・新生児への影響 (藤田)	
	13	女性のライフサイクルにおける危機および健康課題の明確化 (討議とまとめ) (秦・藤田)	
	14	研究課題の明確化② (検討会に向けた準備)	
	15	研究課題の明確化③ (検討会)	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜、文献・図書を紹介する。		
評価方法	プレゼンテーション (60%)、討議の論点の把握と対応力 (30%)、積極的な授業参加 (10%)		
その他	・授業実施方法：遠隔授業		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	がん看護学特論III	学期	通年
担当教員	教授 大谷美樹	選択/必修	選択
科目コード	I 7080101	授業形態	演習
授業の概要	<p>がん患者やその家族、がんサバイバーの看護に関する研究の動向を概観する。がんがもたらすあらゆる苦痛症状や苦悶を多角的に理解するための概念、理論、モデルの探索、エビデンスに基づいた看護実践方法を探求する。</p> <p>1. 国内外の先行研究から関心領域の研究の動向を概観することができる。</p> <p>2. 研究構組みに用いる概念、理論、モデルを探索することができる。</p> <p>3. 関心事象におけるエビデンスに基づく看護実践方法を探求することができる。</p>		
	回数	内容	
	1	1) がん患者・家族の課題の多角的探求 (1) 身体的な苦痛	
	2	(2) 心理的な苦痛	
	3	(3) 社会的な苦痛	
	4	(4) スピリチュアルケア	
	5	(5) がんサバイバー	
	6	(6) がん患者家族	
授業の内容	7	2) がん患者・家族への看護実践方法の探求 (1) 生理学的アプローチ	
	8	(2) 心理学的アプローチ	
	9	(3) 行動認知学的アプローチ	
	10	(4) 意思決定支援	
	11	(5) スピリチュアルケア	
	12	(6) エンド・オブ・ライフケア	
	13	(7) グリーフケア	
	14	研究課題に関連した論文クリティックの発表 (1)	
	15	研究課題に関連した論文クリティックの発表 (2)	
テキスト	特に指示しない		
参考文献	適宜、紹介する		
評価方法	授業参加態度 30%、課題のプレゼンテーション 40%、プレゼンテーションの論点と対応力 30%により総合的に評価する。		
その他	・授業実施方法：遠隔授業		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	精神看護学特論III	学期	通年
担当教員	教授 石橋照子 教授 大森廣澄	選択/必修	選択
科目コード	I7080102	授業形態	演習
授業の概要	<p>学生は、精神看護学に関連する研究を行うために必要な専門性を向上させ、自身の研究課題に関連する研究の背景、目的、進捗状況について的確に説明できるようになることを目的とする。</p> <p>精神看護学を中心に、これと密接に関連する精神保健・医療・福祉に関するテーマなどを含めて学術論文を講読し、その内容について相互に討論することによって、講義の理解をより一層深める。学生は自身の研究課題との関連や立ち位置を精査し、研究設計につなげる。</p>		
	回数	内容	
	1	精神保健福祉の制度と体制の変遷	
	2	精神保健福祉および精神医療における最近のトピックス	
	3	海外の精神保健福祉および精神医療の現状	
	4	国内の精神保健福祉および精神医療の現状	
	5	精神医療に関連する法律と今後の課題	
	6	精神障がい者の人権擁護、倫理	
	7	精神保健福祉および精神医療の課題分析 領域ゼミ	
授業の内容	8	授業テーマの中から学生が自身の研究課題に関連したテーマを選び10本程度の論文をクリティックし、プレゼンをする。参加者で質疑を行い、研究を行うために必要な専門性を向上させる。	
	9	ストレス、危機に関する理論	
	10	ストレスガスマデル	
	11	リカバリーという考え方	
	12	セルフケア理論	
	13	実践活動について概観	
	14	研究課題の意義と独自性	
	15	領域ゼミ (精神看護学領域専攻の前・後期課程の学生および教員) 授業テーマの中から学生が自身の研究課題に関連したテーマを選び10本程度の論文をクリティックしプレゼンをする。参加者で質疑を行い、研究を行うために必要な専門性を向上させる。	
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜指示する		
評価方法	プレゼンテーション 25%、参加度 25%、レポート 50%		
その他	講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッション、合同検討会への参加を通して学びます。ディスカッションすることによって、論理的な考察と客観的な視点を養ってください。その上で精神看護学特論の学修内容と自身の研究課題との関連や立ち位置を精査し、研究設計につなげてください。 文献クリティックの内容を本学の研究紀要に投稿し、査読を受けるプロセスを経験しましょう。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	教授 梶谷ゆき	選択/必修	選択
科目コード	授業形態	演習、講義	単位数
授業の概要	<p>高齢療養者とその家族は、社会の変化や医療・福祉政策の動向により、複合的かつ複雑な健康課題や生活上の課題を有している。生活機能の維持・改善のための支援、高齢者や家族の尊厳保持や権利擁護を踏まえた意思決定支援、コミュニケーション技法、高齢者の学習支援、社会参加支援など高齢者の生活支援に関わる理論や具体的実践を学修する。学生は、それらを踏まえ自身の研究課題に関連する知見を整理し、研究計画立案に繋げる。</p> <p>また、指定されたテーマに沿って関連文献を精読し、知見を整理、発表をする。ゼミナル参加者との討論を重ねる中で、論理的思考や科学的根拠に基づく説明力を高める。</p>		
回数	内 容	形 式	
1	高齢者の生活と健康意識に関する変遷	講義と討論	
2	中山間地域に暮らす高齢者の特性	講義と討論	
3	高齢者を介護する家族の特性	講義と討論	
4	高齢者の保健・医療制度に関する変遷	講義と討論	
5	介護保険制度における日本とドイツの比較	講義と討論	
6	高齢者の健康問題に関するトピックス	発表と討論	
7	高齢者に対する健康教育の現状と課題	発表と討論	
8	高齢者の介護予防活動の現状と課題	発表と討論	
9	高齢者の権利擁護・意思決定支援	発表と討論	
10	認知症をもつ高齢者と家族への支援	発表と討論	
11	慢性疾患をもつ高齢者との生活支援	発表と討論	
12	運動機能障害をもつ高齢者の生活支援	発表と討論	
13	高齢者を対象とするエンド・オブ・ライフケア	発表と討論	
14	高齢者が生き生きと暮らし続けることができる要件については論点整理	自己学習	
15	まとめ：高齢者が生き生きと暮らし続けることができる要件とは	発表と討論	
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	適宜指示する。		
評価方法	ブレゼンテーション (50%)、積極的な授業参加 (20%)、討論の論点の把握と対応力 (30%)		
その他	発表を求める単元では、学生が関連する文献や最新知見、先進的な実例等を用いてテーマに沿って発表し討論する。発表内容を踏まえてゼミナル参加者と討論することを通して、論理的思考や科学的根拠に基づく説明力を高めることを期待している。		

科目分類	専門科目	対象学年	1
授業科目	地域保健学特論Ⅲ	学期	通年
担当教員	○教授 吾郷美奈恵、教授 山下一也、教授 谷口敏代	選択/必修	選択
科目コード	I7080104	授業形態	講義、演習
授業の概要	<p>(概要) 健康問題は国内外問わず、社会の在り方や環境の変化などにより大きく影響を受け、その内容は複雑多岐にわたる。その解決方法は医学保健分野にとどまらず、様々な分野の複合的な視点を持ったものが求められる。そのような状況において頭在りして健康問題とその要因について、統計的手法を基に関連を特定する方法を学ぶ。また、地域特性を理解した上で、個人・家族、集団 (グループ) 及び地域を対象として支援と地域ケアシステムについて、最新のエビデンスを多角的に分析しながら探究する。</p> <p>1. 頭在りもしくは潜在する健康問題について、統計的手法を基に関連を特定する方法を用いてその要因を追求する。 2. 地域の文化や習慣等を理解し、地域特性を明らかにする必要性や方法を追求するとともに地域ケアシステムについて検討する。 3. 健康問題の解決に向けて、個人及び家族、グループ、地域を対象として、看護の社会的適用について考察する。</p>		
回数	内 容		
1	生涯発達に影響を及ぼす要因とメカニズム	(吾郷)	
2	地域医療における課題とその要因	(山下)	
3	在宅療養における課題とその要因	(山下)	
4	福祉における課題とその要因	(谷口)	
5	地域保健 (行政) における健康問題とその要因	(吾郷)	
6	地域保健 (産業) における健康問題とその要因	(山下)	
7	地域保健 (学校) における健康問題とその要因	(山下)	
8	健康に影響を及ぼす要因/課題レポートとブレゼンテーション	(全教員)	
9	地域特性とは	(吾郷)	
10	公衆衛生倫理	(吾郷)	
11	地域特性と個人・家族の支援	(谷口)	
12	地域特性と集団 (グループ) の支援	(吾郷)	
13	地域特性と地域ケアシステム	(吾郷)	
14	健康問題と看護政策	(吾郷)	
15	健康と看護の社会的適用/課題レポートとブレゼンテーション	(全教員)	
テキスト	特定のテキストは指定しない。各回の授業において予習すべき文献を指定する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
評価方法	課題レポートとブレゼンテーション (40%)、授業への積極性や討論の論点把握と対応力 (60%)		
その他	<p>授業は、原則として遠隔授業で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日程は「授業管理シート」を用い、学生が担当教員と事前に調整し、主体的に取組むこと。 講義と討論の演習形式で授業を進め、2つの課題レポートとブレゼンテーションを行う。 		

• この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップ等で理解して授業に臨むこと。

科目分類	研究科目	対象学年	1～3
授業科目	後期特別研究	学期	通年
担当教員	教授：吾郷美奈恵、石橋 照子、大谷 美樹、大森 眞澄、岡安 敏子、 梶谷みゆき、谷口 敏代、秦 幸吉、森山 美香、山下一也、 藤田 小矢香 准教授：井上千晶	選択/必修	必修
科目コード	I7080200	授業形態	演習
	(概要) 保健・医療・福祉の今日的課題を踏まえ、看護ケアの質の向上と改革を導くために必要な看護実践及び看護学教育という観点から、実践の根拠となりうる研究成果の産出を試みる。具体的には履修する専門科目の分野において、個々の興味・関心に従って蓄積した学修成果を活用しながら研究課題の焦点化をはかり、研究方法を決定し、研究計画に基づきデータを収集し、まとめた結果を分析・考察し、新たな知見を提示する。最終的成果として学位論文を作成し、発表、審査を受ける。これらの一連の研究過程を通じ、研究者として自律して研究活動を行い、専門的な業務に従事するために必要な研究能力と看護専門職としての研究的態度を修得する。	単位数	6
	(吾郷美奈恵) 地域の潜在的・顕在的な健康課題の解決を目指したリサーチ・クエスチョンを設定し、研究プロセスに基づき自立して実施できる能力を養う。また、量的アプローチとして実施することから、統計解析のツールや手法についても探究できる力を養う。 研究テーマ 1. 保健活動や保健事業の開発に関する研究 2. 住民参画（スタッフ参画）による地域づくり（職場づくり）に関する研究 3. 保健師のキャリアアピアランス・パフォーマンスと実践能力と評価に関する研究 (石橋照子) 精神看護現象にまつわる人々の経験を解釈的アプローチにより探求する質的研究を行う。研究方法として、ナラティブ・アプローチ、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ、エスノグラフィアなどを用い、データ収集方法、分析/解釈の方法を習得し、自立して研究できる力を養う。 研究テーマ 1. 患者参画型教育に関する研究 2. 精神科身体合併症・ケアに必要な臨床判断力に関する研究 3. 精神障がい者のエンパワメントに関する研究 (大谷美樹) がん看護学の知識基盤から研究課題を導き、そのリサーチ・クエスチョンの解決に向けた研究計画の立案、研究方法を理解した上で論文作成ができる能力を養う。 研究テーマ 1. がん患者の全人的苦痛と援助方法に関する研究 2. がん患者の Self-perceived burden に関する研究 3. がん患者のエンド・オブ・ライフケアに関する研究 (大森眞澄) ワールドワイドな多文化・多言語・多国籍な背景を持つ人々のメンタルヘルスの理論を基盤に、児童・思春期に関わる人の感情知性の育成、看護師のメンタルヘルス、精神障がい者のナラティブについて質的研究手法を用いて明らかにする。 研究テーマ 1. 感情とメンタルヘルスに関する研究 2. 集団療法を介した介入研究 3. 児童・思春期ケアにおける感情知性の育成に関する研究		
	授業の概要		

	<p>(岡安誠子) 看護職者や看護学生が専門職として自己教育力を高めるための方略、或いは人々の健康にかかわる諸問題を当事者が参画して解決するための支援について成人教育学の立場から探求する。文献検索やフィールドワークによる見聞によって、関心テーマの中心となる概念を特定し、現象を説明する。これらを踏まえ、課題の探究に向けて研究デザインし検証する能力を養う。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者が自己教育力を高めるための教育的方略に関する研究 2. 教育者の行動原理に関する研究 <p>(梶谷みゆき)</p> <p>高齢者の健康維持や家族も含めた生活の質向上に関わる研究疑問を取り上げ、量的研究手法や質的研究手法を用いて、生じている現象の解明や課題解決のための研究を自立的に展開できる能力を養う。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族機能に着眼した高齢療養者と家族への介入研究 2. 脳血管障害や認知症を有する高齢療養者の生活支援に関する研究 3. 高齢者の生活機能改善に関する研究 <p>(谷口敏代)</p> <p>障害者・高齢者の支援に必要となるニーズを把握・分析するための科学的評価方法（アセスメント・介入後評価）と生活支援サービスに従事する看護職・介護福祉職の役割を確立するとともに、近年の研究成果を批判的に論評し、問題点を抽出し実証的な解決方法を見出し能力を養う。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で暮らす障害者・高齢者の生活支援活動における多職種連携 2. 保健福祉施設で従事する看護職・介護福祉職のワーク・エンゲイジメント 3. 看護職・介護福祉職のメンタルヘルルス対策 <p>(秦 幸吉)</p> <p>周産期にある女性の身体的健康問題（初産、妊娠、閉経）、生活習慣病の予防対策などを医学的観点から取り上げ研究を展開できる能力を養う。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産世代の女性の健康管理に関する研究 2. 妊娠中の栄養・血糖・体重管理に関する研究 <p>(森山美香)</p> <p>幅広い視点から、救急・集中治療領域における看護上の課題を取り上げ、実証的な解決方法を見出し、研究を展開できる能力および、研究成果を学位論文としてまとめる能力を養う。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 救急・集中治療領域における家族看護に関する研究 2. クリティカルケア看護士の産生処置等に関する代理意思決定支援上の困難に関する研究 3. クリティカルケア領域における終末期ケアに関する研究 <p>(山下一也)</p> <p>島根県における地域の健康課題とそれに関連する諸問題を取り上げ、地域住民及び保健医療福祉専門職者関係者が取り組むべき課題を選び、研究を計画する。</p> <p>研究テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症予防と食事栄養の介入 2. 高齢者の認知機能、抑うつ状態と脂質栄養 3. エゴマ油など6次産業化と地域活性化
<p>授業の内容</p>	<p>回数 内容</p> <p>【1年次春学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関連文献の精読を通して自己の興味・関心を焦点化し、研究課題を決定する。 ・ 先行研究や文献の収集を行いながら、研究課題及び方法論の明確化を図る。 <p>【1年次秋学期】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究課題、研究方法論に関わる文献検討の結果に基づき、研究計画書を作成する。 ・ 選択必修科目としてこのうちの1科目を履修するが、総合的な学修により教育目標を達成できるような他の4科目履修者とともに、定期的に開催する合同検討会に参加する。 ・ 論文題目提出（仮）、研究報告書を提出する。
<p>【2年次春学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主研究指導教員・副研究指導教員による指導を基本とするが、大学院生が参加し定期的に開催する合同検討会においては、研究課題やプロジェクト内容などのディスカッションを通じて、複数指導・共同指導体制による研究指導を実施する。 <p>●研究計画審査</p> <p>●倫理審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科委員会が承認した研究科教授による研究計画審査を受ける。 ・ 倫理委員会に研究計画書を提出し、承認を得る。 ・ 倫理委員会の承認後、研究計画書に基づきデータを収集する。 <p>【2年次秋学期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究計画書に基づき、データを収集・分析する。 ・ データ収集・分析の適切性を評価する。 	<p>31～60</p>
<p>【3年次春学期】</p> <p>●博士論文審査票および題目提出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果・考察および結論の論述を行う。 <p>【3年次秋学期】</p> <p>●博士論文予備審査</p> <p>●博士論文審査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究科委員会が承認した研究科教授（研究指導教授を含まない）による論文予備審査および論文審査を受ける。 <p>●公開論文発表会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開論文発表会の発表および質疑応答を行う。 ・ 最終試験を受ける。 	<p>61～90</p>
<p>90 回/3年のゼミ形式の授業を基本に論文指導を行う。</p> <p>特に指定しない。</p> <p>適宜指示する。</p> <p>以下の達成状況から総合的に判断する。</p> <p>研究計画書の作成、研究計画審査、研究遂行、論文作成、博士論文予備審査、博士論文審査、公開論文発表会の発表および質疑応答</p>	<p>テキスト</p> <p>参考文献</p> <p>評価方法</p> <p>その他</p> <p>この科目は、各学生の主研究指導教員、副研究指導教員が担当する。</p>

IV . 教 員 等 名 簿

教員等名簿
1. 専任教員

	領域及び職名		氏 名
研究者養成コース	がん看護学領域	教授	森山 美香★
		教授	大塚 美樹★
	精神看護学領域	教授	石橋 照子★
		教授	大森 眞澄★
	高齢者リハビリテーション看護学領域	教授	梶谷 みゆき★
	ウィメンズヘルス看護学領域	教授	秦 幸吉★
		教授	藤田 小矢香★
		准教授	井上 千晶★
		講師	中谷 陽子
	地域保健学領域	教授	吾郷 美奈恵★
		教授	山下 一也★
		教授	谷口 敏代★
		教授	小田 美紀子
		講師	小川 智子
	看護教育学領域	教授	岡安 誠子★
		准教授	高橋 梢子
		准教授	川瀬 淑子
高度実践者養成コース	診療看護師(NP)プライマリ・ケア領域	准教授	松本 亥智江
		講師	横山 淳美
	助産学領域	教授	秦 幸吉★
		教授	藤田 小矢香★
		准教授	井上 千晶★
		講師	中谷 陽子

★は博士後期課程の専任教員も兼任

2. 非常勤講師

所属	氏名
島根県立大学看護栄養学部	名和田 清子
島根県立大学看護栄養学部	籠橋 有紀子
島根県立大学看護栄養学部	原田 永勝
島根県立大学総合政策学部	西藤 真一
合同会社DATA MILL	大城 等
亀田医療大学	田中 美恵子
島根大学法文学部	宮本 恭子
清泉女学院大学看護学部	舟島 なをみ
島根県雲南保健所	片岡 大輔
島根県出雲保健所	中本 稔
社会医療法人仁寿会	加藤 節司
島根大学数理・データサイエンス教育研究センター	瀬戸 和希
島根大学医学部	京 哲
島根大学医学部	金崎 春彦
島根大学医学部	松本 暁洋
出雲医療看護専門学校	勝部 愛子
隠岐広域連合立隠岐病院	高村 浩美
元雲南市立病院	板持 さとみ
国際医療福祉大学福岡薬学部・大学院薬学研究科	西村 信弘
島根県立こころの医療センター	挾間 玄以
島根県立大学人間文化学部	藤原 映久
島根県立大学看護栄養学部	橋本 由里
関西国際大学大学院看護学研究科	松原 まなみ
島根県立中央病院	岩成 治
島根大学医学部附属病院	吾郷 真子
島根大学医学部附属病院	山本 慧
島根県立中央病院	遠藤 智弘
島根県立中央病院	黒田 優子
島根県立中央病院	山中 智恵
えんまる助産院	山本 雅子
島根県立中央病院	落合 永美
比良助産院	比良 静代
島根大学医学部附属病院薬剤部	直良 浩司
島根大学医学部附属病院薬剤部	矢野 貴久
島根大学医学部附属病院薬剤部	玉木 宏樹
島根大学医学部附属病院薬剤部	石原 慎之
島根大学医学部附属病院薬剤部	遠藤 進一
島根大学医学部附属病院薬剤部	後藤 貴樹
島根大学医学部附属病院薬剤部	曾田 重人
島根県立中央病院	磯和 理貴
出雲徳洲会病院	田原 英樹
出雲徳洲会病院	長見 晴彦
島根県立中央病院	並河 哲志
島根県立中央病院	藤代 浩史

所属	氏名
島根県立中央病院	吉野 千城
島根県立中央病院	徳家 敦夫
島根県立中央病院	山崎 啓一
島根県立中央病院	西村 恭子
島根県立中央病院	小原 友子
島根県立中央病院	辻野 佳雄
出雲徳洲会病院	東 耕一郎
こころの医療センター	小林 孝文
島根県立中央病院	中村 嗣
公立邑智病院	板持 卓弥
島根県立中央病院	妹尾 千賀子
鳥取大学医学部保健学科看護学専攻	安藤 泰至
島根大学医学部医学科	竹下 治男
雲南市立病院	木村 千尋
公立邑智病院	日高 美晴
日本赤十字社 松江赤十字病院	田邊 翔太
日本赤十字社 松江赤十字病院	大野 博文
日本赤十字社 松江赤十字病院	池野屋 慎太郎
日本赤十字社 松江赤十字病院	宇賀田 圭

3. 学生の生活に関する部署

所属・職名	氏名	所属・職名	氏名
学生生活委員会・委員長	今 中 美 栄	キャンパスハラスメント相談員(教員)	原 田 永 勝
寮 務 主 事 (兼)	中 谷 陽 子	キャンパスハラスメント相談員(教員)	井 上 千 晶
学 校 医 (兼)	秦 幸 吉	キャンパスハラスメント相談員(職員)	宮 苑 仁 美
学校医(内科)(嘱託)	園 山 隆 之	キャンパスハラスメント相談員(職員)	上 野 隼 平

V. オフィスアワー

オフィスアワー 一覧

所属	職名	氏名	オフィスアワー開設の時間帯など	場所
大学院看護学 研究科	教授	山下一也	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	副学長室
		谷口敏代	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	330研究室
		秦幸吉	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	326研究室
		吾郷美奈恵	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	323研究室
		石橋照子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	305研究室
		大森真澄	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	306研究室
		梶谷みゆき	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	310研究室
		岡安誠子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	316研究室
		森山美香	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	331研究室
		藤田小矢香	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	321研究室
		大塚美樹	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	314研究室
		小田美紀子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	322研究室
	准教授	松本玄智江	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	309研究室
		高橋梢子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	315研究室
		井上千晶	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	312研究室
		川瀬淑子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	324研究室
	講師	中谷陽子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	307研究室
		小川智子	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	301研究室
		横山淳美	e-mailで連絡を頂ければ時間設定をします。	302研究室

※時間帯が明示されている場合であっても、あらかじめe-mail等で確認することが望ましい。

Ⅵ. フィールドワークの手引き

令和4年度 フィールドワークの手引き



島根県立大学看護学研究科

学外授業の留意事項等

第1 フィールド学習の心得

- 1 TP0に応じた服装・身だしなみに留意する
- 2 学生としてふさわしい行動をとる
一般住民の方々、学習施設・機関のスタッフ等誰に対しても、気持ちのよい挨拶、丁寧で気遣いのある言葉遣いを心がける。
- 3 自分の行動に責任を持つ
 - (1) 集合場所には10分前に到着する。
 - (2) 欠席、遅刻、早退する場合は、事前に担当教員と指導者に連絡をする。
 - (3) 事前学習、準備をして臨む。
- 4 健康管理に努める

第2 事故報告について

大学を離れ、実習施設・機関や地域での学習になるので安全に留意し、人身事故や物品の破損などの防止に努める。万が一事故が発生したら、速やかに担当教員へ報告し指示を仰ぐ。

事故報告の意味は、対象者の安全を最優先することであり、同時に事故のプロセスを共有することである。報告が遅れることで原因が分からなくなり、また同じ事故を繰り返すことにもなりかねない。速やかな報告は、自分自身の安全を守ることにもつながるので、報告しそびれたり隠すことがあってはならない。

アクシデント、インシデント、ハラスメント・怪我（暴力等）、破損等が発生した場合は、以下の流れ図に従い、速やかに報告する。また、該当する報告書に記載し、情報を共有して再発防止に努める。

※アクシデントとは：医療に関わる場所で発生する人身事故一切を包含し、対象者だけではなく、医療従事者等に傷害が発生し「事故」になった場合をいう。

※インシデントとは、思いがけない出来事「偶発事象」で、ヒヤリとしたりハッとしたり

事故等報告書

年 月 日

島根県立大学学長 様

学研究科 年次生

学籍番号 _____

氏 名 印

又は

保 証 人 印

氏 名

下記のとおり報告します。

記

事故・災害等の種類		
発生日時		年 月 日 時頃
発生場所		
相手方	住 所	
	氏 名	
事故・災害等の概要		
事故・災害等の程度		
処理経過		

注1：様式に書ききれない場合は別紙に記載し、添付すること。

注2：実習上の事故の場合は裏面にも記載すること。

第3 保険制度について

1 学生教育研究災害傷害保険

この保険は、(財)日本国際教育支援協会が全国の大学・短期大学の学生を対象にしているもので、正課中、学校行事中、課外活動中及び通学中の不慮の事故に対する災害補償制度です。

本学では、学生が安心して学生生活を送ることができるよう、入学と同時に全員加入することになっています。

加入：大学において、保険料を徴収し、一括加入をします。

保険料：1,790円（2年間）、2,650円（3年間）

支払保険金の種類と金額：

補償区分	正課中および学校行事中	大学施設内、課外活動中および通学中
死亡保険金	2,000万円	1,000万円
後遺障害保険金	120～3,000万円	60～1,500万円
医療保険金	治療日数1日以上	治療日数14日以上（通学中は4日以上）
入院加算金	1日につき4,000円（180日限度）	

接触感染予防保険金	臨地実習中、1事故につき15,000円（定額払い）
-----------	---------------------------

保険金が支払われる場合：

対象範囲	内容
正課中	講義、演習、実験・実習・実技による授業を受けている間のほか、次の場合も対象となります。 ア 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究又は学位論文研究に従事している間 イ 指導教員の指示に基づき、授業の準備若しくは後始末を行っている間又は授業を行う場所、大学の図書館等において研究活動を行っている間
学校行事中	大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式など教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間
大学施設内にいる間	授業の休憩中や昼休み中など、「正課中」「学校行事中」外で大学施設内にいる間。 (注) 寮にいる間、大学が禁じた時間若しくは場所にいる間又は大学が禁じた行為を行っている間は除きます。
課外活動中	大学施設内外で大学に届け出た課外活動を行っている間。 (注) 課外活動とは、大学の規程に則った所定の手続により大学が認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動又は体育活動を指します。 (注) 大学施設外で行う課外活動は、大学に届け出た活動に限られます。
通学中	大学の授業等、学校行事または課外活動への参加の目的をもって、合理的な経路及び方法（大学の禁じた方法を除きます。）により、住居と学校施設等との間を往復する間。
臨地実習中	臨地実習中に、針刺し事故等で感染症の病原体に予期せず接触し、感染症予防措置を行った場合。

保険金が支払われない場合：

次に該当する場合は、傷害等を負っても保険金の支払い対象外となります。

故意、犯罪行為、病気、地震・噴火・津波による事故、無資格運転・酒酔い運転、課外活動で危険度の高いスポーツ（スカイダイビング等）を行っている間、医学的他覚所見のない腰痛など。

保険金の請求：

請求用紙は、事務室（学務課）にありますので、事故が発生したときは、直ちに報告してください。

2 学研災付帯賠償責任保険（医学生教育研究賠償責任保険）

この保険は、1の学生教育研究災害障害保険に加入している場合に加入でき、正課、学校行事及びその往復中で、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償するものです。

本学では、全員加入することとしています。

加入：大学において、保険料を徴収し、一括加入をします。

保険料：1,000円（2年間）、1,500円（3年間）

保険金が支払われる場合：

(1) 正課、学校行事及びその往復中（学校施設内での事故、課外活動中を除きます）に、次に掲げる事由により他人の身体に障害（障害に起因する死亡を含みます。以下同様。）を負わせ、又は他人の財物を損壊（滅失、破損若しくは汚損）させ、被保険者が法律上の損害賠償を負った場合。

- ・活動に伴い発生した偶然な事故
- ・活動に伴って提供した財物に起因する偶然な事故（飲食物に限ります。）
- ・活動の結果に起因する偶然な事故

(2) 正課、学校行事及びその往復中（学校施設内での事故、課外活動中を除く。）の活動ことになって占有、使用又は管理する受託物の偶然な事由による損壊、紛失または盗取（搾取を含む。）により、受託物に対し正当な権利を有する者に対し被保険者が法律上の損害賠償責任を負った場合。

補償内容：対人賠償、対物賠償を合わせて1名1事故1億円限度

*免責金額 0円

保険金の請求：

請求用紙は、事務室（学務課）にありますので、事故が発生したときは、直ちに報告してください。

第4 災害発生時等における授業

1 授業の取扱いについて

1) 暴風警報等の発令による休講措置

松江地方気象台から出雲市に「暴風警報」, 「大雪警報」, 「暴風雪警報」, 「特別警報」, 「津波警報」又は「大津波警報」のいずれかが発令された場合は、次のとおり休講措置（対面及び遠隔授業のすべてに適用）を講じる。

- ・午前6時までに解除→平常どおり授業
- ・午前6時現在発令中→2時限目まで休講
- ・午前10時までに解除→3時限目から授業
- ・午前10時をすぎても解除されないときは終日休講

2) 自治体の発出する避難情報の発令による休講措置

出雲市が鳶巣地区（出雲キャンパス所在地）に「避難指示（警戒レベル4）」または「緊急安全確保（警戒レベル5）」を発令した場合は、（1）の取扱いを準用する（対面及び遠隔授業のすべてに適用）。

なお、通常キャンパスに通学する際の居所（自宅やアパート）に「警戒レベル4」（避難指示）または、「緊急安全確保（警戒レベル5）」が発令された場合（発令されている場合）は、速やかに危険な場所から避難等してください。避難等により対面授業を欠席した場合は、「風震水火災その他非常災害及び交通機関の事故等の場合」の公欠として取り扱いますので、後日欠席届を教務学生課窓口へ提出してください。JRや一畑電車、バス等の運休証明書があれば欠席届に添付してください。

3) 地震発生時の休講措置

出雲市において「震度5強」以上の地震が発生した場合は、次のとおり休講措置を講じる。

- ・午後12時までに発生→翌日の授業を休講
- ・午前0時から授業開始前に発生→当日の授業を休講
- ・授業開始後に発生→直ちに休講

4) 休講措置に伴う補講

休講となった授業については、原則として補講を行うこととする。

5) 遠隔授業の場合

遠隔授業の実施の有無にかかわらず、出雲キャンパスでは上記の扱いとし、補講等については、後日調整を行う。

6) 学外臨地実習の取り扱い

午前6時現在で（1）（2）及び（3）に該当する場合は学外臨地実習を中止する。学外臨地実習中に（1）及び（2）に該当する事象が発生した場合、実習担当教員は、学科長と協議しながら各実習施設の状況等により休講等の措置を決定し、学科長はこのことについて、学部長に報告する。

7) その他

当該事象が落ち着き以降の天候が回復する予報となった場合は、授業を再開することがある。その際は、対面授業だけではなく遠隔授業の手法も取り入れての授業実施を検討する。また、授業の再開については学内情報システム（学内メール含む）で行うので、少なくとも午前、午後、夜間には学内メールの確認を行うこと。

2 その他の緊急事態等

その他緊急事態が発生し、授業の実施に支障があると認められる場合の休講等の措置については、看護栄養学部については学部長が、別科助産学専攻については別科長が、大学院看護学研究科については研究科長がそれぞれ決定する。

3 休講措置の周知方法等

- 1) 学生及び教職員は、マスメディア等により警報発令状況等を確認するとともに、居住地の自治

体の判断等を踏まえ、自ら適切に対応すること。

- 2) 教務学生課は、掲示、Eメール、学生用ポータルサイト、学内放送等により速やかに学内に周知する。
- 3) 教務学生課は、休講となる授業の非常勤講師に対して、速やかに周知する。

第5 個人情報の取り扱い

学生は演習中に知り得た情報の守秘義務を遵守しなければならない。また、個人情報の漏洩は、違法行為であるとともに学則第 50 条が適用されることを認識し、実習先等から誓約書の提出を求められた際、実習先指定の様式がない場合は次に示す「個人情報に関する誓約書」を活用すること。

個人情報に関する誓約書

島根県立大学学長 様

私は、フィールド学習の協力機関が定める個人情報に関する諸規則と下記の事項を遵守することを誓います。

記

1. 学習中に知り得た全ての個人情報を学習中及び学習終了後においても守秘します。
2. 学習に必要な範囲を超えて個人情報を収集しません。
3. 記録物（メモ、レポート等の紙媒体及び電子媒体を含む。以下同じ。）や個人情報が記録された資料等はコピーをしません。ただし、学習記録をカンファレンスで使用する場合は、学内または協力施設にあるコピー機を使用し、終了後はすみやかにシュレッダーにかけて破棄します。
4. 記録物には、個人が特定される情報（住所、氏名、生年月日、電話番号、施設名、病棟名等）は記入せず、個人が特定できないよう匿名化して記載します。
5. 記録物はファイルに綴じて管理し、紛失、散逸、置き忘れ、盗難がないように細心の注意を払います。
6. 不要となった記録物は、内容が判別し得ない形で速やかに廃棄または消去します。
7. 記録の作成にパソコンを使用する場合は、入力情報が漏れないように、フィールド学習ハンドブック項に記載されている内容を厳守します。

年 月 日

島根県立大学看護学研究科

学籍番号

氏名

印

第6 緊急時の対応について

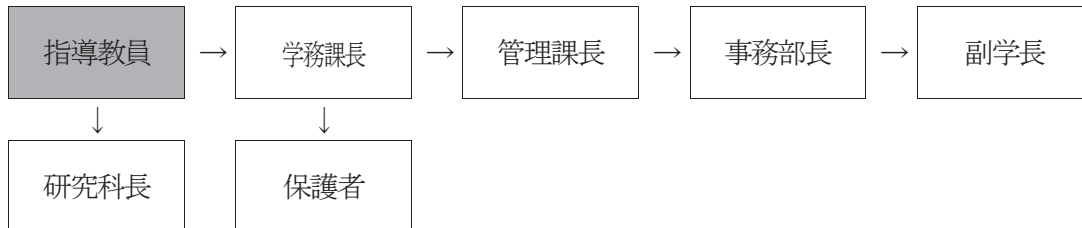
1 人身に関わる重大事故等緊急を要する場合

人身に関わる重大事故や地震・火災等の災害に遭遇した場合の連絡体制は以下のとおりとする。

(1) 対応手順

事故や災害に遭遇した場合は学生の安否を確認するとともに、フィールドワーク先と連携し、病院受診、避難所等の手配を行う。併せて、本学へ状況を報告し、指示に従う。

(2) 連絡体制



※出雲キャンパス緊急連絡用携帯：080-1633-2670（学務課長公用携帯）

〒693-8550
島根県出雲市西林木町 151 番地
TEL : 0853-20-0200(代)
FAX : 0853-20-0201



島根県立大学マスコット
キャラクター オロリン